

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本01
■部署名：	安全管理部	■募集人数（人）	3
■課名：	計画・安全啓発課		
■テーマ			
途上国の政治や治安情勢の把握方法とJICA安全対策の基本について学び、日本人の安全な海外滞在に必要な取り組みを考える。			
■テーマの概要			
<p>昨今のウクライナ危機や中東地域の地域紛争など世界情勢、国際関係の大きな変化を受け、グローバルサウスとも呼ばれるJICAの国際協力事業実施対象国と日本・JICAとの関係は益々深まっていくものと思われる。JICAでは長年開発途上国の人々とともに国際協力事業を展開してきている。その際、多くの関係者を現地に派遣してきており、これら関係者の安全な渡航、滞在を確保し続けることが重要な課題となっている。こうした中、2016年にバングラデッシュで起きたダッカテロ事件などの教訓を活かし創設された安全管理部では、途上国の政治・治安情勢の把握と必要な安全対策の検討、実行、強化に取り組んできている。こうしたことから、途上国の政治、治安動向を中心とした様々な国、地域の情勢の理解と日本との関係構築、海外に進出する日本人、日本企業の安全な活動のあり方等に興味を有する者を対象に、上記テーマでインターンシッププログラムを提供するもの。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>安全管理部では日々JICAの国際協力事業実施の対象となる国々の政治・治安情勢とそれに関係する国際社会の動きを地域・国のレベルで情報収集し、必要な安全対策を即座に実行できるよう、治安の変化をとらえられることを目指した分析も行っている。また様々な国に渡航、滞在する関係者に向けての情報提供や安全対策上の助言、指導も行っている。こうした日々の取り組みを進める上での手法を学ぶ機会を提供し、途上国の政治、治安動向を中心とした様々な国、地域の情勢の理解と日本との関係構築、海外に進出する日本人、日本企業の安全な活動のあり方というテーマでのレポート作成に取り組む。</p>			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<p>日程によっては関係者向け安全研修を見学できる。 https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/20180223_02.html</p>			
■受入時期・期間			
2026年8月～3月までの1カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：参加者のニーズに合わせてリーズナブルに対応したい。	可	週3回、1ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	特定の地域、国の政治、国際紛争、外交、国際関係に関する基礎知識		
望ましい	語学は仏、西、露、アラビア語といった他の国連公用語でも可。相談に応じる。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本02
■部署名：	広報部	■募集人数（人）	4
■課名：	地球ひろば推進課		
■テーマ 国際理解教育/開発教育支援事業に関する広報業務及びその取り組みサポート			
■テーマの概要 地球ひろば推進課では、これまでJICAが培ってきた国際協力の知識を活かしながら、日本を拠点に日本と開発途上国が抱える様々な課題がどのような繋がりを持っているのか理解し、課題解決への思考を養うべく「国際理解教育/開発教育支援事業」を通して学びの場を提供しています。具体的には、教育委員会、教員、児童生徒など多様な階層の方々を対象に、JICA国内拠点と協働しながら、SDGsの取組、多文化共生、キャリア教育、社会に開かれた教育など学校現場の課題に貢献すべく、次の事業を行っています。 ・教員・教育委員会向け研修プログラムの実施・取りまとめ ・学校教育向け教材（映像教材含む）の開発・活用促進 ・JICA地球ひろばでの展示の企画・運営、イベント・セミナーの開催 ・若年層へ向けた国際理解の一步としてのインスタグラムの運営等 ・国際協力出前講座の実施・取りまとめ インターン生には、上記開発教育支援事業に参加し、地球ひろば展示やイベント及び開発教育教材に関する検討・提案・実施する業務を中心に、その他関連業務のサポートも含め担当いただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ●Instagramの運用 ひろば課で所有するInstagramの投稿コンテンツの考案及び広報部以外のインターン生のInstagram有志メンバーの取りまとめを行って頂きます。 ●JICA地球ひろば展示企画のPR JICA地球ひろばの効果的な集客・PR活動を行っていただきます。 ●開発教育に関する各種イベントの運営補佐、広報 グローバルフェスタ、教員向け研修、国際協力出前講座、オンラインを含む各種イベント・セミナー等の運営補佐をしていただきます。展示運営はもちろん、写真・動画撮影、取材、編集の上、効果的な広報の検討・提案・実施をお願いします。また各種イベントの内容に関する記事を作成いただきます。現時点で想定しているイベントは以上の通りですが、このほかにもJICAが関連するイベントについて臨機応変に対応頂きます。 ●開発教育庶務 開発教育教材や資料整理等、庶務を含む開発教育支援事業サポート及びその他広報業務をお願いします。			
■参考情報 ・JICA地球ひろばHP https://www.jica.go.jp/hiroba/index.html ・JICA地球ひろば展示 https://www.jica.go.jp/hiroba/information/exhibition/index.html ・JICA地球ひろばInstagramアカウント https://www.instagram.com/jica_gp/ ・JICA開発教育教材 https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/index.html ・開発教育/国際理解教育指導者研修 https://www.jica.go.jp/domestic/sapporo/activities/kaihatsu/shidousha.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間 2026年8月～10月までの3カ月間/2027年1月～3月までの3カ月間のいずれか フルタイム以外の活動体系の可否 上記期間内での調整可 理由： 可 週2-3回、3ヶ月間			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・業務内容の性質上、受入期間はフルタイムではなく、週3日×3か月間を想定していますが、相談可能です。 ・東京近郊の学校訪問等の可能性があります。（日帰り。交通費は当課所有のSUICA貸出、負担します。） ・活動日・活動時間は可能な限り各種イベントの開催日に活動できるように調整していただけるとありがたいです。なお、イベントは土日祝日や夜の時間帯が含まれる場合もあります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本03
■部署名：	人事部	■募集人数（人）	1
■課名：	開発協力人材室		
■テーマ 人材育成事業に関する業務補助・改善提案			
■テーマの概要 人事部開発協力人材室は、国際協力人材の確保・育成を戦略的に進めるため、JICA内外の人材育成や採用・確保の仕組み強化に取り組んでいます。本ポストでは、この目的を支える以下の業務に携わっていただきます。 (1) 国際キャリア総合情報サイト「PARTNER」の運営補助・広報・改善 (2) JICAインターンシップ事業の運営補助、改善 (3) 人事部施策に関する業務補助・調査			
■具体的なインターンシップ活動内容 (1) 国際キャリア総合情報サイト「PARTNER」の運営補助・広報・改善 ・イベント広報・運営補助（グローバルフェスタ） ・広報企画（例：ROOKIESの立案・取材対応） ・サイト構造の整理・改善提案（サイトマップ、ワイヤーフレーム） ・求人情報の調査・分析 (2) JICAインターンシップ事業の運営補助、改善 ・インターン生同士のネットワーキングイベントの企画・運営補助 ・インターンシップ調査（例：他社動向の把握・比較検討、大学側位置づけ調査とJICAへの提言） (3) 人事部施策に関する業務補助・調査 ・研修運営補助（タイミングにより見学）、応募勧奨の方法検討等			
■参考情報 【PARTNER】PARTNERサイト： https://partner.jica.go.jp/home PARTNER LINE： https://lin.ee/0VpzgpZ PARTNER FB： https://www.facebook.com/jicapartner PARTNER X： https://twitter.com/jica_partner ROOKIESサイト： https://partner.jica.go.jp/Contents/Rookies 【JICAインターンシップ・プログラム】 https://www.jica.go.jp/about/recruit/intern/index.html 【能力強化研修】 https://www.jica.go.jp/recruit/kyokakenshu/top.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 グローバルフェスタ等の各種キャリアイベント、能力強化研修			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～10月までの2カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：グローバルフェスタの運営補助のため、9月の業務従事は必須	可	週2-3回、2ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	国際協力人材育成やキャリア構築支援に関心がある方		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 「■参考情報」に提示したサイトで既存の国際協力人材養成確保事業、および広報事業との違いを把握、理解いただいたうえで、若者ならではの提案、貢献をいただける方を歓迎します！			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本04
■部署名：	財務部	■募集人数（人）	2
■課名：	財務第一課		
■テーマ JICA債の発行に関連する情報収集と対外発信の企画			
■テーマの概要 JICAが途上国の現場で事業を行うために必要不可欠なもののひとつが、「お金」です。財務第一課は、JICAの有償資金協力事業に必要な資金を安定的、持続的に調達するための財務戦略の策定と実行を担う部署です。具体的には、予算計画の策定や資金調達、資金管理等を行っています。 資金調達の手段の一つに債券発行があります。JICAは、2016年に国内で初めてソーシャルボンド(*)を発行し、2023年からは、社会課題解決だけでなく気候変動対策等の環境課題解決も対象に資金調達をするサステナビリティボンドを発行しています。 本インターンシップでは、JICAの債券発行に関連する情報の取り纏めや、対外発信策の企画、特に若年層に訴求するための企画の提案等を行っていただきます。対外発信を通じてJICA事業全般について理解を深めることができるだけでなく、国内の資本市場の動向や、サステナブルファイナンスに関するJICA独自の取組みについて知見を広げることができます。また、JICAの財務構造や有償資金協力の仕組みについても学ぶことができます。 (*) 社会解決課題に貢献する事業に資金を充当する債券			
■具体的なインターンシップ活動内容 インターンは、以下の活動を行っていただきます。 (1) 若年層を対象にしたJICA債やJICAの取組みを周知できる対外発信策の企画立案 (2) 対外発信企画の実施支援（予定されている企画があれば） (3) IR（投資家に対して、事業動向や財務状況に関して発信する活動）への同行 ・ JICA債の購入を検討する投資家へのIRの準備、実施補助 (4) 投資家向けのインパクトレポート作成支援 その他、インターンによる提案活動も検討可能です。			
■参考情報 ・ JICAのIR資料： https://www.jica.go.jp/about/investor/ir/_icsFiles/afieldfile/2025/10/20/202510_JICAIR_1_1.pdf ・ JICAのインパクトレポート： https://www.jica.go.jp/about/investor/impact/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・ 投資家へのIR ・ 投資家への対外発信企画（もしあれば）			
■受入時期・期間			
2026年8月～12月の間4週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2回、4週間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	国際協力事業への関心		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 週に2回対面形式での実施を想定しています。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本05
■部署名：	管理部	■募集人数（人）	1
■課名：	債権管理第一課		
■テーマ 円借款案件の「お金の流れ」を学ぶ。（円借款貸付実行業務補助）			
■テーマの概要 円借款案件における借款契約の作成方法や、借款契約に基づく貸付実行の実務等を学ぶ。また、現地関係者等とのコミュニケーション等を通じて、日々の債務管理業務が実際の事業実施にどのように繋がっているかを体得する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 下記のような活動を通じ、インターンを通じて得た知識や経験を言語化し、組織に還元して頂くことを期待します。 1. 円借款貸付実行業務補助（マニュアル、教材作成支援等）：日々の活動（貸付実行実務の補助等）に加えて、各種マニュアル及び研修動画の作成・更新を行うことで、貸付実行業務を中心とした円借款の「お金の流れ」を理解する。（なお、円借款案件の「お金の流れ」の一部として、貸付資金の回収にかかる知識も補えるよう、債権管理第二課で受入予定のインターン生と合同で取り組める活動も計画予定。） 2. 広報資料作成：貸付実行業務が実際の事業実施にどう繋がるかを体得すべく、具体的な案件のJICA内外関係者（現地関係者を含む）へのインタビュー等を通じて知識を深め、「円借款案件のお金の流れ」をテーマに広報資料を作成する（対象等の詳細は活動中に相談）。 3. その他：上記の活動に加えて、JICA内の円借款関連研修にかかる準備や当日の運営サポートも実施する。また、当課担当者と相談しながら、JICA内向けの管理部広報資料の作成や業務効率化の提案等、その他インターン生当人の発意に基づく企画を実施する。			
■参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等 在外拠点の現地職員を対象とした円借款セミナーへの参加（インターン受入のタイミングと合えば）			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～11月の間で1～2カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：12月～3月の業務繁忙期は受け入れ不可。なお、債権管理第二課で受入予定のインターン生と合同の活動を想定していることから、同課の受入時期と極力一致させることを想定。	可	週3～5回、1～2ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	借款契約書（英語）の解釈や現地職員とのコミュニケーションが可能な程度の英語力（在外インターンに求められる外国語能力（TOEIC500点程度）と同等を想定）		
必須	基本的なPCスキル（Word, Excel, Power Point, Teams等）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 基本的には対面が望ましいが、本人が希望する場合には一部リモートも検討可能			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本06
■部署名：	管理部	■募集人数（人）	1
■課名：	債権管理第二課		
■テーマ			
債権管理の視点から国際協力を考える			
■テーマの概要			
<p>技術協力や無償資金協力を並んで、日本のODAの大きな柱の一つである円借款。開発途上国へ低利で長期の緩やかな条件で開発資金を貸し付けることにより、経済社会基盤の整備等、途上国の発展への取り組みを支援する円借款は、比較的まとまった金額で開発インパクトの大きなプロジェクトを実施でき、返済のための自助努力も促すことができます。当課は、円借款で貸し付けた資金の回収や、一時的に返済が困難になった場合の債務再編といった、円借款の債権管理業務を行っています。</p> <p>本インターンシップ・プログラムでは、円借款事業における「債権回収」の流れについて理解するとともに、実際の国際情勢を踏まえて行われる国内外の債務再編の議論、国際協力の中での「債権管理・債務再編」の仕組みや考え方、プロセスについて学びます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>以下の活動を計画していますが、インターン生の関心に応じて柔軟に対応可です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・円借款事業の全体像について学んだ後、「債権回収」業務を体験し、通常の入金、リファンド等のプロセスを学ぶ。 ・日々の国際情勢の中で行われている債務再編の議論を考察し、様々なステークホルダーが関わる債務再編のプロセスについて学ぶ。更に、債務再編に係るニュースや信頼できる情報源を探し、タイムリーに組織内関係者に展開する仕組みを検討する。 ・債務再編の実際の事例について、当時の関係者へのインタビュー等を行い理解を深め、債務再編の実態や課題についてまとめる。 ・インターン実施時期とタイミングが合えば、JICA内の円借款関連研修にかかる準備や当日の運営サポートを実施する。 ・上記活動を通じて学んだ知識を踏まえ、債権管理に係る既存の内部資料・マニュアル・研修資料等を新規着任者にもわかりやすい内容に更新する。また、債権管理業務を紹介する広報資料を作成する（具体的な内容については活動中に相談）。 ・債権回収の知識を深めるため、円借款の貸付実行を行っている債権管理第一課で受入れ予定のインターン生と合同で取組む活動も計画予定。 			
また、			
<ul style="list-style-type: none"> ・円借款の概要：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/finance_co/about/overview/index.html ・JICAスタッフブログ「債権管理を通じた国際協力のフロンティア」：https://www.jica.go.jp/information/blog/1554786_21942.html 			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
在外拠点のナショナルスタッフを対象とした円借款セミナーへの参加（受入のタイミングと合えば）			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～11月の間で1～2カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：12月～3月の業務繁忙期は受け入れ不可。なお、債権管理第一課で受入予定のインターン生と合同の活動を想定していることから、同課の受入時期と極力一致させることを想定。	可	週3～5回、1～2ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英文記事を読んだり現地職員とのコミュニケーションが可能な程度の英語力（在外インターンに求められる外国語能力（TOEIC500点程度）と同等を想定）。		
必須	基本的なPCスキル（Word, Excel, Power Point等）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： <u>基本的には対面が望ましいが、本人が希望する場合には一部リモートも検討可能</u>			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本07
■部署名：	企画部	■募集人数（人）	2
■課名：	サステナビリティ推進室		
■テーマ サステナビリティの個別課題に関する国内外の潮流の情報収集・分析及びエンゲージメント活動			
■テーマの概要 2023年6月に改定されたODAの指針である開発協力大綱は、引き続きわが国のあらゆる開発協力に通底する指導理念として人間の安全保障を掲げました。「人間の安全保障」を実現するには、さまざまな危機の予防と対応能力の強化、包摂性、強靱性を伴う経済社会づくりに加えて、社会、経済、環境の三側面が調和し、将来世代に負担を残さない「持続的な世界の実現」を目指すことが不可欠です。サステナビリティについて、国内外の様々な機関・企業で取組が進んでいます。JICAでは、具体的な指針として2023年10月に「JICAサステナビリティ方針」を公表しました。JICAが、開発途上国のSDGs達成に協力する組織として信頼を得るためには、まず自らが率先してサステナビリティを推進し、SDGsの達成に取り組むことが極めて重要と考えています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、主体的に企画運営・情報収集分析・資料作成等を実施いただきます。 1. サステナビリティに関する国内外の潮流について、公開情報を中心に、以下の情報収集・分析補佐 ・分野の例：気候変動、生物多様性、基本的人権の尊重やジェンダー平等を含むダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン、ビジネスと人権、サステナビリティ関係情報開示、サステナビリティに係るガバナンス体制等 ・情報収集の対象の例：国際機関、他国援助機関、日本政府、海外企業、日本企業、JICAを含む独立行政法人等 2. サステナビリティ推進のための当室のエンゲージメント活動補佐及び上記1で収集した内容を踏まえたエンゲージメント活動（他部署への働きかけを行う際の資料作成、データ整理、記録作成など）			
■参考情報 JICAサステナビリティホームページ： https://www.jica.go.jp/about/policy/environment/index.html （特に、「JICAサステナビリティ方針」や「統合報告書2025 第2章 サステナビリティ」をご一読ください。）			
■参加(同行)可能な行事・視察等 インターン期間内に実施するJICAの各種会議、JICA内のエンゲージメント活動等			
■受入時期・期間			
2026年8月～2027年3月までの1～2カ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2-3回
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	自ら課題を決め、それについての情報収集や分析、取りまとめの計画を策定・遂行する能力		
望ましい	上記分野や組織における英文資料を読解する能力		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 執務スペース、Wi-Fi			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 ・原則として対面でのインターンを想定しますが、参加者の居住地や学業の状況等を踏まえて、一部リモートの検討は可能です。 ・外勤同行や外部イベント参加の可能性があります。交通費は当部所有のSUICA等を貸与しますので、自己負担はありません。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本08
■部署名：	企画部	■募集人数（人）	1~2
■課名：	国際援助協調企画室		
■テーマ 新興国との新しい国際協力の形づくり			
■テーマの概要 三角協力は、従来の南南協力を発展させ、先進国と新興国が連携して第三国を支援する枠組みであり、SDGs達成に向けた国際的協力形態として注目されてきた。近年、この協力形態はさらに進化し、複数の国・機関が相互に知見を共有し合う「サーキュラー型協力」へと展開している。これは一方向的な援助ではなく、ネットワーク型で柔軟な連携を特徴とし、新興ドナーが主導するケースも増加している。新興ドナーは、従来の援助枠組みにとらわれず、地域やテーマに応じて自由度の高い協力を展開しており、国際援助の構造に大きな変化をもたらしている。 このような背景のもと、本インターンシップでは、①三角協力及びサーキュラー型協力に係る国際的援助潮流、②主要ドナー及び新興国の動向、③JICAの三角協力の歴史と特徴、④今後の展開とJICAの戦略について情報収集・分析を行い、提言案をまとめることを目的とする。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ①三角協力・サーキュラー協力の援助潮流に係る情報収集・整理・分析 ②他ドナー及び新興国による三角協力・サーキュラー協力の動向に関する情報収集・整理・分析 ③JICAの取り組みや強みに係る情報収集・整理・分析 ④その他、当室が関与する外部面談や、各種会議の準備・運営の補佐（インターン本人の希望に合わせた活動も柔軟に設定可能、応相談） ⑤上述に係る分析レポートをまとめ、インターンシップ報告会で発表する（JICA在外事務所や在京米国大使館との交流も想定）			
■参考情報 OECD・イスラム開発報告書 https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/publications/reports/2025/10/global-perspectives-on-triangular-co-operation-second-edition_1122bf33/f713f2ce-en.pdf IRSレポート https://ris.org.in/newsletter/dcr/2024/paper3.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・出張予定はありません。 ・当室の来客（他国の開発関係機関など）との面談同席や各種会議出席（開発協力の潮流等をテーマとした勉強会など） ・JICA在外事務所（現地スタッフ含む）等との意見交換への参加			
■受入時期・期間 2026年7月中旬～9月中旬までの2カ月間程度 フルタイム以外の活動体系の可否 上記期間内での調整可 理由：インターン複数名（別テーマもあり）を同時期に採用するため、上記時期が望ましいが、申請者の事情に応じて相談可。 可 週3回、2ヶ月間程度			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 高度な英語力（TOEFL105、IELTS7.5以上が目安）			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
0円/日		0円/泊	
■備考・留意点 ・同時期に別テーマ（米国の開発動向の収集・分析）で、もう1名募集予定です。 ・主要テーマからは外れますが、本インターンシップを通じたインターン生・JICA職員の経験に基づき、開発協力の潮流等をテーマとした座談会を企画する可能性があり、その準備・運営に関する活動を行うことも想定されます。 ・JICAの開発パートナーシップや援助協調に関して、ホームページ等をご覧になって気づいたことや、当室でのインターンを通じて実現したいことがあれば、ぜひ応募書類の志望動機欄にご記載ください。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本09
■部署名：	企画部	■募集人数（人）	1～2
■課名：	国際援助協調企画室		
■テーマ			
米国の開発動向の収集・分析			
■テーマの概要			
<p>トランプ第2次政権下でのUSAIDの実質解体など、米国の開発動向は目まぐるしく変動しており、国際場裏に与える影響も大きい。そこで、米国の政府機関・開発機関の動向（国際機関等への資金拠出も含む）や、途上国での協力状況について情報収集と分析を行う。JICA内の様々な資料（面談やイベントの記録、ニュースのクリッピング等）に加え、外部の最新情報なども収集し、米国の開発動向に関するストック情報として分析レポートにまとめ、インターンの成果として発表することも期待されている。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>①米国の政府機関・開発機関の動向（国務省、DFC（米国国際開発金融公社）、MCC（Millennium Challenge Corporation）、PeaceCorp等の動向）に関する情報収集・整理・分析 ②MDBs（国際開発金融機関）・国連機関に対する米国の資金拠出に関する情報収集・整理・分析 ③米国の開発に係る各種戦略文書（NSS（国家安全保障戦略）、インド太平洋地域戦略、America First Global Health Strategy、Project2025等）ほか、過去面談録やJICA米国事務所による各種レポート等の整理・分析 ④その他、当室の来客との面談や、各種会議の準備・運営の補佐（インターン本人の希望に合わせた活動も柔軟に設定可能、応相談） ⑤米国の開発動向に関する分析レポートをまとめ、インターンシップ報告会で発表する（JICA在外事務所や在京米国大使館との交流も想定している）※リサーチ成果や本人の希望に応じて、学会発表等も支援する（10月国際開発学会全国大会等）</p>			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> ・NSS（2025）：https://www.whitehouse.gov/wp-content/uploads/2025/12/2025-National-Security-Strategy.pdf ・NSS（2017）：https://trumpwhitehouse.archives.gov/wp-content/uploads/2017/12/NSS-Final-12-18-2017-0905.pdf ・インド太平洋地域戦略（2019）：https://www.state.gov/wp-content/uploads/2019/11/Free-and-Open-Indo-Pacific-4Nov2019.pdf ・America First Global Health Strategy：https://www.state.gov/america-first-global-health-strategy ・Project2025：https://static.heritage.org/project2025/2025_MandateForLeadership_FULL.pdf 			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none"> ・出張予定は特にありません。 ・当室の来客（他国の援助関係機関など）との面談や各種会議（開発協力の潮流等をテーマとした勉強会など） ・JICA在外事務所（現地スタッフ含む）や在京米国大使館（経済担当書記官）等との意見交換 			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～9月中旬までの2カ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：インターン複数名（別テーマもあり）を同時期に採用するため、上記時期が望ましいが、申請者の事情に応じて相談可。	可	週3回、2ヶ月程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	米国研究（政治、経済等）に携わっている （原則として院生を想定していますが、学会等での実績のある学部生・社会人も歓迎します）		
望ましい	高度な英語力（TOEFL105、IELTS7.5以上が目安）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・同時期に別テーマ（三角協力・新興ドナーとの連携）で、もう1名募集予定です。 ・主要テーマからは外れますが、本インターンシップを通じたインターン生・JICA職員の経験に基づき、開発協力の潮流等をテーマとした座談会を企画する可能性があり、その準備・運営に関する活動を行うことも想定されます。 ・上記の参考情報や、米国の政府機関・開発機関のホームページについては、事前に目を通して頂き、米国の開発動向に対するご自身の考えも予め用意してもらえると幸いです。 ・JICAの開発パートナーシップや援助協調に関して、ホームページ等をご覧になって気づいたことや、当室でのインターンを通じて実現したいことがあれば、ぜひ応募書類の志望動機欄にご記載ください。 			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本10
■部署名：	東南アジア・大洋州部	■募集人数（人）	1
■課名：	東南アジア第二課		
■テーマ			
ASEAN諸国等を対象とした「デジタル経済：AIツール、ガバナンスと政策」本邦研修等の運営補助			
■テーマの概要			
21世紀のための日本・シンガポール・パートナーシップ・プログラム（Japan-Singapore Partnership Programme for the 21st Century: JSPP21）では、1994年創設以来、日本とシンガポールのパートナーシップに基づき研修を通じた人材育成を行っており、これまで約450コースの研修を実施、ベトナム・カンボジア・ラオス等のASEAN諸国を中心に約7,700名の研修員を受け入れてきた。例年7コースを目安にシンガポールで研修を開催している。 2026年は日・シンガポール外交関係樹立60周年という節目を迎え、「デジタル経済：AIツール、ガバナンスと政策（Digital Economy: AI Tools, Governance, and Policy）」をテーマに日本での研修を予定している（8/24（月）～8/28（金）予定、約30名、於JICA東京）。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
インターンシップ期間中は、JICAスタッフと協力しながら円滑に研修が実施できるよう研修実施の計画、準備、実施等の補助業務を行う。 ・本邦研修「デジタル経済：AIツール、ガバナンスと政策」：講義資料とりまとめや会場設営、研修員へのアナウンス補助、講師対応補助、議事録の作成など ・その他シンガポール開催研修：研修員選考などの調整業務補助、シンガポール側との連絡調整業務補助（可能な範囲で） ・カンボジア・ラオスにおけるその他の事業検討業務の補助に参加いただく可能性があります。			
■参考情報			
JSPP概要： https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01773.html JICA東京： https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/office/access.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
・本邦研修「デジタル経済：AIツール、ガバナンスと政策」（8/24（月）～8/28（金）予定、於JICA東京） ・研修前や期間中、関係省庁や視察先との面談			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～9月上旬までの間約1.5カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：研修運営補助業務のため、研修実施期間は必須。	可	週3回、約1.5ヶ月間（但し、研修実施期間は必須）
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	コミュニケーション能力（英語力）		
望ましい	イベント運営経験		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 打合せや資料整理はリモート可、研修実施期間は完全対面を想定。			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
ASEAN諸国から約30名の多様な研修員が来日し、日本やシンガポールの防災対策について学び合います。2026年は日・シンガポール外交樹立60周年の節目の年であり、約30年の歴史を誇るJSPP21で行われる貴重な本邦研修の機会です。是非インターンシップで研修運営業務を経験してください！ 研修実施期間や場所は流動的なので、担当者に最新情報をご確認ください。研修実施期間は原則必須参加。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本11
■部署名：	中南米部	■募集人数（人）	2～3
■課名：	南米課		
■テーマ			
南米地域における国別協力概要説明資料作成、民間連携、長期研修員とのネットワーキングに係る業務の補助			
■テーマの概要			
<p>JICAの五つのビジョンの一つは、「共創」です。組織内外の持つ多様な知と資源を活用して業務を進めることが求められます。中南米部南米課は、国際機関、外務省、民間企業、在京大使館等、様々な外部のアクターと接点を持ちながら、下記をはじめとする南米地域での開発協力に取り組んでおります。</p> <p>(1) JICA国別分析ペーパー・国別協力概要説明資料の作成支援 (2) 日本のスタートアップ企業の中南米への事業展開支援を通じた開発課題への貢献 (3) 長期研修員との連携支援</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>インターンは、各担当に指導を受けながら、以下のような活動を行っていただきます。</p> <p>(1) JICA国別分析ペーパー・国別協力概要説明資料作成支援 ・対象国の政治、マクロ経済、産業構造等の情報収集、JICA及び他ドナーの協力状況の情報収集と整理補助、資料作成 (2) TSUBASA：日本のスタートアップ企業の中南米への事業展開支援を通じた開発課題への貢献 ・各種イベント運営補助、資料作成 (3) 長期研修員との連携支援（SDGsグローバルリーダープログラム） ・中南米各国から来日している長期研修員とのネットワーキング会の企画、運営の補助</p> <p>インターン活動の初めと終わりに、活動内容について中南米部内で発表する機会を設けます。その他、インターンによる提案活動も検討可能です。</p>			
■参考情報			
<p>※TSUBASAについては以下サイトをご参照ください。 https://tsubasa-jica.com/</p> <p>※SDGsグローバルリーダーコースについては下記をご参照ください https://www.jica.go.jp/Resource/dsp-chair/english/dsp/course/content/ku57pq00002ma5q9-att/brochure_01_j.pdf （コース紹介パンフレット）</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
実施中研修事業、TSUBASA関連イベント、留学生ネットワーキング会、大使館等関連イベント、海外移住資料館への訪問等			
■受入時期・期間			
2026年8月～2027年3月までの期間のうち2カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2～5回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	国際協力に関心がある、JICAをよく知りたい		
必須	中南米に関心がある		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<p>地域部は対象とする地域に係るJICA協力の全体像が把握できる部署であり、また特定の国の複数の開発課題を見ることが出来る部署です。中南米各国の特徴を踏まえた開発の在り方を検討しつつ、JICAの最も大切に根幹となる業務の一部をリアルに体験されたい方、大募集です。一部リモートでの参加も可ですが、原則的に対面で参加されることを推奨します。</p>			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本12
■部署名：	中南米部	■募集人数（人）	3
■課名：	中米・カリブ課		
■テーマ			
中米・カリブ地域のODA事業や民間連携事業業務の補助			
■テーマの概要			
<p>中米・カリブ課が日々行っている業務の補佐を行い、実際のODA業務について理解を深める。 また、中米・カリブ地域では域内の発展も徐々に進み、従来型の協力のみならず、過去の協力アセットの活用や民間企業を含めた外部パートナーとの連携を積極的に進めており、域内の課題解決に向けて、外部との連携を含めた新しいODAの形を職員と共に模索する。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>インターンは、各担当に指導を受けながら、以下のような活動を行っていただきます。</p> <p>(1) JICA国別分析ペーパーの作成支援（対象国検討中）、中米・カリブ地域案件の情報整理支援 ・対象国の政治、マクロ経済、産業構造等の情報収集、JICA及び他ドナーの協力状況の情報収集と整理補助 ・JICA内関係部署や、必要に応じて、在外公館、他ドナーやNGO、民間企業との意見交換への参加等</p> <p>(2) 長期研修員との連携支援（SDGsグローバルリーダープログラム） ・中南米各国から来日している長期研修員とのネットワーキング会の企画、運営の補助</p> <p>(3) 広報・対外発信 ・インターン期間中に得た知見や気づき等について、JICAホームページの中南米PLAZAで積極的に発信 ・一般向けの広報向上に向けて、域内のJICA事業を分かりやすく伝えるための発信方法（イベント開催等）を企画、提案</p> <p>インターン活動の初めと終わりに、活動内容について中南米部内で発表する機会を設けます。 その他、インターンによる提案業務も検討可能です。</p>			
■参考情報			
<p>※SDGsグローバルリーダーコースについては下記をご参照ください https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/information/2024/1559433_52766.html（ネットワーキング会の様子） https://www.jica.go.jp/Resource/dsp-chair/english/dsp/course/content/ku57pq00002ma5q9-att/brochure_01_j.pdf（コース紹介パンフレット） ※中南米PLAZAでの発信イメージについては下記をご参照ください。 https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/information/2025/1573975_57891.html</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
実施中研修事業、留学生ネットワーキング会、大使館等関連イベント、海外移住資料館への訪問等			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月/2026年10月～12月/2027年1月～3月までのいずれか3ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：学業等との両立のため時期・期間は応相談	可	応相談
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	中南米地域のODAに関心がある方。スペイン語ができるとなおよい。		
必須	国際協力に関心がある、JICAをよく知りたい		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<p>地域部は対象とする地域に係るJICA協力の全体像が把握できる部署であり、また特定の国の複数の開発課題を見ることができる部署です。 中南米各国の特徴を踏まえた開発の在り方を検討しつつ、JICAの最も大切で根幹となる業務の一部をリアルに体験されたい方、大募集です。 一部リモートでの参加も可ですが、可能な範囲で週1以上は対面で参加されることを推奨します。</p>			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本13
■部署名：	アフリカ部	■募集人数（人）	2
■課名：	計画・TICAD推進課		
■テーマ アフリカ協力に関する広報、TICAD9で打ち出されたイニシアティブ推進、若者分野に関する業務補佐			
■テーマの概要 2025年8月に開催された、第9回アフリカ開発会議（TICAD9）では、アフリカ49か国（うち首脳級33名）、国際機関にくわえて、これまで以上に多くの日本企業が参加し、日本からアフリカへの関心の高さが現れました。JICAとしても、TICAD本会合への出席、82件のパイ面談の実施、44件のテーマ別イベントの主催（約1万人の参加）、14件の連携覚書の締結に加えて、広報ブースの出展、SNS発信など、積極的な活動を行いました。 JICAアフリカ部としては、正確な表現を使いつつも「より伝わる」広報、TICAD9で打ち出されたアフリカ開発に関する新たなイニシアティブ、日本・アフリカの若者分野に関する活動を一緒に進めることができるインターンを募集します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップでは、担当職員と業務の内容・進め方を相談しつつ、情報収集・資料作成・作業補佐等を行っていただくこととなります。現在想定している内容は以下のとおりです。 1、アフリカ広報業務。具体的には、アフリカ部が主管するHP・SNS（Facebook, X）に掲載する記事作成・発信、広報イベント等に関する業務補佐。 2、「インド洋・アフリカ経済圏の具体化に関する基礎情報収集調査（仮称。26年度実施予定）」等、TICAD9で打ち出したイニシアティブに関する業務補佐（基本的な調査、打合せへの出席等）。 3、ABEイニシアティブ・模擬アフリカ連合（AU）、ユースキャンプ等の日本・アフリカの「若者」関連の協力に関する業務補佐。			
■参考情報 第9回アフリカ開発会議（TICAD9）： https://www.mofa.go.jp/mofaj/af/af1/pagew_000001_00002.html 第9回アフリカ開発会議（TICAD9）開催報告（JICA）： https://www.jica.go.jp/information/press/2025/20250922_11.html JICA TICAD9特設サイト： https://www.jica.go.jp/TICAD9/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～2027年3月までの2カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：主な業務の1つである上記調査が開始された後の方が望ましいため。	可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本14
■部署名：	アフリカ部	■募集人数（人）	2
■課名：	アフリカ第四課		
■テーマ アフリカ対象国（コートジボワールまたはセネガル）JICA国別分析ペーパー策定、内外関係者とのディスカッション等に係る補佐			
■テーマの概要 JICAでは途上国に対する協力を効果的に実施していくにあたり、対象国の開発の現状などを整理・分析し、協力の実施に関する考え方や方向性を論理的に示すための文書として、JICA Country Analysis Paper (JCAP) を策定しています。机上調査や、関係部署・事務所へのヒアリング等を通じて、当該国の開発の現状及び課題を把握・分析し（根拠に基づいた定量・定性的な情報の分析）、開発援助機関としての経験・教訓の整理・評価を行います。そして上記のような活動を通じて、当該対象国やJICA事業への理解を深め、課題解決に向けた効果的なアプローチ（協力リソースを効率的かつ効果的に活用するための選択と集中を推進し、戦略的な事業形成の観点から技術協力、無償資金協力及び有償資金協力等を柔軟かつ有機的に組み合わせたプログラム・アプローチ）を一緒に見つけましょう！			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・当該国の現状についての机上調査（JICA図書館、世銀HP等から各指標の入手など）。 ・関係部署／事務所へのヒアリング、入手した情報の取り纏め・分析。 ・JICAアフリカ部・事務所等で検討中の内容（JCAP及び協力アプローチ案）に係る内容確認・整理、アイデアのインプット。 ・関係部署/事務所、外部関係者とのディスカッションを通じた内容の更新。 ・JCAP案としての取りまとめ、公開準備。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/cooperation/jcap/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2026年8月～2027年3月までの1～2か月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：理由：JCAP骨子案が8月頃に策定予定であるため、受入れは9月以降が望ましい	可	週2～3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	コートジボワール、セネガル等西アフリカの国々への関心があること		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本15
■部署名：	中東・欧州部	■募集人数（人）	6～8
■課名：	ウクライナ支援室		
■テーマ ウクライナの停戦後の復旧・復興に向けた在日避難民や現地での事業実現を目指す企業・団体等との「繋がるネットワーク」の拡充			
■テーマの概要 2022年2月にロシアのウクライナ侵略が始まってから4年が経ちます。この間ウクライナの国土は疲弊し、重要インフラが損傷を受け、軍人のみならず市民にも多くの被害者が出ており、窮地に立たされた生活を強いられています。 JICAでは、侵略直後から国際社会と協調してウクライナに対する事業を開始し、これまでインフラの復旧、戦時下における保健・医療・教育等の基礎行政サービスの継続、地雷や不発弾処理、そして、破損した建物の瓦礫の再利用などの支援を進めてきました。しかしながら、戦争被害は甚大であり、以前の様な平和で安全な生活を取り戻すために多くの時間と費用が掛かると言われています。 その様な中、日本在住するウクライナ避難民は25年11月で約2千人いますが（出入国在留管理庁による）、公的な住居や生活の支援が終了して経済的自立を求められている状況にあります。これに並行して、日本が持つ技術を提供してウクライナの復旧・復興を支えつつ、ビジネスのモデルを形成しようという日本企業も少なくありません。このため、これらの避難民と企業・団体等を結び付ける試みが出来ないかと考えており、検討を行っています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 【活動案※】 ・ウクライナ避難民を支援する各種団体からの現状や要望の聞き取り。 ・ウクライナへの事業展開を検討・企画・実施している企業や団体等から現状や課題を把握。 ・避難民と企業・団体等を結び付ける活動の検討。 ・民間企業を中心とした「ウクライナ復興支援・共創プラットフォーム」の活動の充実や関連イベントの企画。 （※文末の「備考・留意点」をご覧ください。）			
■参考情報 ・JICAのウクライナ事業の関連情報（ https://www.jica.go.jp/overseas/ukraine/index.html ） ・過去にウクライナ支援室インターンが実施したイベントの例 ① https://www.jica.go.jp/information/seminar/2025/1575140_66420.html 、② https://www.jica.go.jp/information/seminar/2023/20240323.html ・ウクライナ復興支援・共創プラットフォーム（ https://www.jica.go.jp/overseas/ukraine/ukraine_creation_platform/index.html ）			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・インターンシップ期間中に、国際会議関係のイベントがある際には参加が可能ですが、実施期間と重ならない場合もあります。			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～10月中旬までの3カ月間/2027年1月～3月までの3カ月間のいずれか		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：夏期・冬期それぞれ3～4名程度	可	週3～4回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	専門分野：国際関係、国際政治、平和構築、難民、ウクライナ・ウクライナ語、ロシア・ロシア語、中東欧諸国・中央アジア研究など		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ※ウクライナ支援室におけるインターンシップは、インターン自身が、JICAや関係機関・企業・団体等の事業を把握し、その上で、日本におけるウクライナ避難民等を取り巻く現状、および、ウクライナ本国の復旧・復興に対してどの様なことが出来るのかを考え、自主的に活動を企画して、職員のアドバイスを受けながら実現していくこととなります。この点をご理解くださいますよう、お願い申し上げます。 ※夏期・冬期それぞれ3～4名程度。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本16
■部署名：	民間連携事業部	■募集人数（人）	2
■課名：	計画・連携企画課		
■テーマ JICA民間連携事業部での就業体験：「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての広報活動			
■テーマの概要 日本の民間企業は、様々な分野で優れた製品・技術・サービスを有しており、開発途上国の社会的・経済的課題の解決に貢献する可能性を持っています。JICA民間連携事業部では「中小企業・SDGsビジネス支援事業」（※1：参考情報欄のリンクをご確認ください）を通じて、企業の開発途上国におけるビジネスづくりを支援しており、今後、更にこうしたビジネスの成功例を積み上げ、拡大していきたいと考えています。 このインターンシップでは、より多くの企業に「中小企業・SDGsビジネス支援事業」をご活用頂くため、本事業を活用した企業の成功事例について、JICAウェブサイトに掲載する広報記事作成を行って頂きます。インタビューを通じて企業の想いに触れながら、ビジネスによる開発課題の解決について理解を深めて頂ければと考えています。また、その他の企業連携に関連する業務の中から、インターン生の興味・ご関心に応じて、活動を追加いただくことも可能です。 「民間連携」、「価値共創」、「SDGsへの貢献」、「広報」などに関心を持つ方からのご応募を歓迎致します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 下記のうち（1）の活動を必須とし、それ以外の活動は参加者のご関心に応じて適宜選択して頂くことを想定しています。 （1）「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についてのグッドプラクティス記事作成：本事業に参画頂いた企業の成功事例を掲載するページ（※2）の記事作成を企業取材しつつ行う。その他に民間連携事業Facebook運営、メディア取材対応、メールマガジン発行、セミナー開催等の広報業務の補助を行う。 （2）「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての好事例リストの取りまとめ：ビジネス化の成功事例や、関心のある分野やテーマの中からの好事例を抽出・リスト化する。 （3）民間連携事業部の内部広報素材作成：各課業務の内容や魅力について、JICA内向け広報（形式自由）を作成する。 （4）他機関との連携業務補佐：他機関との連携関連の打ち合わせに同席し、準備や議事録作成を行う。			
■参考情報 （※1）中小企業・SDGsビジネス支援事業： https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/activities/index.html （※2）グッドプラクティス： https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/case/release/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～9月/2027年1月～3月のいずれかのうち2か月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可		可	週3回、2ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	
■部署名：	ガバナンス・平和構築部	■募集人数（人）	2
■課名：	平和構築室		
■テーマ 紛争影響国・地域における民間連携促進のための事例形成			
■テーマの概要 人道資金の縮減と難民・避難民の増加・長期化を背景に、民間企業も含めた全社会的な課題解決が急務となっている。他方、紛争影響地域・国は、政治・治安醸成の不安定さや投資・ビジネス環境に未整備などを背景に、民間企業や民間投資の参入は未だ限定的なものにとどまっている。他方、世界銀行や国連機関や一部の投資機関は、人道的危機や平和構築ニーズの高い国・地域に対する民間参入を促進するための様々な取組が検討され始めている。JICAも万博の機会を活用した難民・避難民課題の解決を目指すビジネスアイデアコンテストの開催や、ピーステック・アワードへの後援、地雷・不発弾対策分野における民間企業との技術革新に取り組んできた。これら取組・成果を踏まえつつ、紛争影響地域における更なる民間連携を促進していくため、民間企業が有するビジネス上のアイデアを、紛争影響地域の経済・社会的な課題やアプローチを把握したうえで、どのように適応させていけるか、開発機関と民間企業双方の知見より具体的な事例形成を検討したい。本ポストは、民間企業側の視点からJICA平和構築室におけるこれら活動の企画・推進を支援することを期待する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 具体的なビジネスアイデアを、紛争影響地域・課題への適応を図っていくことを目的に、以下の活動の中から選択的に実施予定。 ①対象国・地域の紛争影響課題と、それに対する開発協力や人道支援におけるアプローチの理解 ②JICAや国際機関等が有している民間連携ファンドや支援スキームの理解 ③対象国・地域でビジネス展開や民間連携を行っている民間企業・スタートアップ・財団・NPO等へのヒアリングを通じた教訓・視点の習熟 ④紛争影響地域・国でのビジネスアイデアの適用に係る仮説の整理 ⑤仮説実現に向けた活動計画書の作成（調査・実証活動案、活用可能なファンドや支援スキームの特定など）			
■参考情報 JICAグローバル・アジェンダ 平和構築： https://www.jica.go.jp/Resource/activities/issues/peace/ku57pq00002cya2r-att/peace.pdf (URL) 連携想定スキーム：民間連携（海外投融資、JICA Biz等）、草の根協力、国際機関連携（無償、調査実証）など 主な社内連携先：民間連携事業部、アフリカ部、中東・欧州部、南アジア部、東南アジア部等			
■参加(同行)可能な行事・視察等 JICA本部・関係省庁・企業・財団との意見交換、本邦企業・スタートアップ訪問、平和構築関連セミナー（未定）			
■受入時期・期間（調整可か不可かをプルダウンで選択してください。）			
2026年7月中旬～2027年3月までの延べ30日程度（2～3日/週×2か月）（調整可）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：所属先業務や学業・研究との両立を尊重しつつ、一定の成果・目標に向けたインターン業務を検討する。	可	週2～3回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）			
必須	民間企業での業務経験		
必須	紛争影響地域・国でのビジネスアイデアを有する		
望ましい	英語での調査・コミュニケーション能力		
■執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。）			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： JICA内ネットワーク紹介、社外イベント参加機会の提供			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 企業・団体の機微情報の取扱いに留意			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本18
■部署名：	ガバナンス・平和構築部	■募集人数（人）	2
■課名：	ジェンダー平等・貧困削減推進室		
■テーマ ジェンダー主流化促進のための資料作成及びイベント企画立案			
■テーマの概要 JICAは、JICA課題別事業戦略（JGA）の一つとして「ジェンダー平等と女性のエンパワメント」を定めています。JGAでは、社会や組織における差別的な制度や仕組みを是正し、女性や女性の可能性を強化するとともに、社会や人々の意識・行動変容を促す取り組みを通じて、一人一人が性別にとらわれず、人間としての尊厳をもって、それぞれの能力を発揮できる社会の実現に向けた活動を進めています。同時に、JICAのあらゆる事業においてジェンダーの視点に立った取組を推進することとしており、全事業のうち80%（件数ベース）をジェンダー案件とすることを目指しています。これらの取組を更に進めていくため、各地域・国／分野でのジェンダー平等と女性のエンパワメントに関する課題について取りまとめた機構内の各種資料を確認するとともに、各ドナーの資料等を参考に、室内の職員とともに情報の更新・とりまとめを予定しています。合わせて、機構内ジェンダー主流化を促進するため、関連のイベント（16 Days of Activism:11月25日 - 12月10日、国際女性デー（3月8日））について、室メンバーとともに企画立案を進めていきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・ 東南アジア、大洋州、南アジア、アフリカの女性のエンパワメントにかかる課題とりまとめ（世銀、ADB、AfDBレポート等参照） ・ 16 Days of Activism（女性や少女に対する暴力の撤廃を呼びかける16日間のキャンペーン）：11月25日 - 12月10日、国際女性デー（3月8日）のイベントの企画立案			
■参考情報 JICAグローバルアジェンダ「ジェンダー平等と女性のエンパワメント」（以下HPに掲載されるJGA本文、リーフレット、ガイダンスノート等参照） https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～9月までの1カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3回、1ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本19
■部署名：	ガバナンス・平和構築部	■募集人数（人）	1
■課名：	STI・DX室		
■テーマ デジタル分野（主にDX、AI等）のJICA事業に関する広報・ナレッジマネジメント業務補佐			
■テーマの概要 JICAガバナンス・平和構築部STI・DX室では、開発途上国における、デジタル・データを活かした、人びとの安全を確保する持続可能で強靱な社会、一人ひとりが多様な機会・幸せを実現できる社会の実現を目指した業務を行っています。また、デジタル分野の協力においては、大きく①各分野課題でのDX推進②デジタル社会の基盤整備といった二つの柱を立て、取り組んでいます。（詳細は、参考情報のグローバルアジェンダ『デジタル化の推進』をご覧ください。） 本ポストでは、実際に当室の業務に携わっていただき、開発途上国及び日本におけるデジタル分野の開発事業に関しての知見を深めて頂くことを目的に活動いただきます。具体的には、ガバナンス・平和構築部STI・DX室が主管するプロジェクト等の打合せへの参加、関連情報のデスクトップ調査等を通じて、DX・AI分野に関する広報及び組織のナレッジマネジメントに関する業務を担当いただき、JICA事業への理解を深めていただくことを想定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 主な活動は下記①②とし、インターンシップ参加者の関心に応じ③～⑥の活動も可とします。ただし、具体的な活動詳細はインターンシップ期間の当室の事業実施状況等を踏まえ、育成担当者・参加者と相談の上、決定いたします。 ① 開発途上国のDX推進・AI等分野のJICA事業に関する広報・発信 ② 開発途上国のDX推進・AI等分野のJICA事業に関する協議への参加 ③ 開発途上国のDX推進・AI等分野のJICA事業に関する国内外の潮流、援助動向調査・分析 ④ STI・DX室が主管する、研修（国内向け、海外向け）への一部オブザーバー参加及び次年度以降の実施に向けた改善策の提案 ⑤ JICA事業への生成AIの活用方法提案 ⑥ 自身の研究内容若しくは関心事項でJICA事業へ関連する事項			
■参考情報 ・ JICA DXサイト https://www.jica.go.jp/about/dx/index.html ・ JICA グローバル・アジェンダ（課題別事業戦略）15. 「デジタル化の促進」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/digital/ei8tc5000005j05-att/digital_text.pdf ・ JICAクラスター事業戦略「サイバーセキュリティ」 https://www.jica.go.jp/Resource/activities/issues/digital/ei8tc5000005j05-att/cybersecurity.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・ 2026年 9月下旬 課題別研修 「サイバーセキュリティ対策強化のための国際法・政策能力向上」 ・ 2026年10月下旬 課題別研修 「社会経済開発のためのAI及びデータ活用に関するデジタル政策」 *インターンの活動期間及び本人の関心事項を踏まえて、いずれかの研修の一部に参加頂きます。 *全ての研修は東京近郊で実施されます。 *国別研修、課題別研修は、研修員受入事業（短期）にあたります。詳細はこちらをご覧ください。 (https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kenshu/index.html)			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月までの2か月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：学業等都合に応じ、応募者から時期及び期間の提案可	可	週3回、2ヶ月間程度等
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	途上国関係者や国際機関関係者と英語でのやり取りが可能である事。		
必須	知見のない分野・技術についても積極的に情報収集し、専門家や職員等への質問を厭わない前向きな姿勢。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本20
■部署名：	ガバナンス・平和構築部	■募集人数（人）	2
■課名：	STI・DX室		
■テーマ 国際協力におけるデータ利活用の推進（データ分析・可視化の業務補佐）			
■テーマの概要 JICAは、開発協力大綱の下、「人間の安全保障と質の高い成長の実現」を組織のミッションとしています。近年は、紛争、気候変動、感染症、経済危機等の複数の危機が同時進行し、人間の安全保障への脅威が複雑化しており、信頼性のあるデータに基づき正確に状況を把握・分析することが求められています。こうした背景の下、開発課題を「現場の知見」に加え「データの力」で把握し、効果的な戦略立案、事業実施に繋げるためのデータ利活用の重要性が一層高まっています。本ポストでは、多様なデータを収集・整理し、可視化や分析に活用することで、JICAの戦略立案や事業の付加価値向上に取り組みます。具体的には、国際的な開発課題を可視化するデータセットやダッシュボードの改良、個別の事業部のニーズに基づくデータ分析、JICAの事業の成果の可視化等のサポートを行って頂きます。国際協力とデータ利活用をかけ合わせ、高い解像度で世界の状況を理解し、必要なアクションを考えることに繋がるポストです。			
■具体的なインターンシップ活動内容 想定する活動内容は以下の①～③ですが、本人の専門性や関心、受け入れ期間に応じ、選択・決定する予定です。 ①各種データの収集・整理・可視化：国際機関等が公開する開発指標等、JICAの戦略立案・事業形成に資するデータの収集・整理・処理・可視化に取り組み、既存のデータセットやダッシュボードの改良をサポートするとともに、今後の利活用の提案を行う。 ②データ分析：事業部が抱える個別のデータ分析ニーズに対して、オープンデータ（上述のデータセットやダッシュボードを含む）や衛星・地理情報システム等を活用し、仮説の構築や分析のサポートを行う。（例：JICAが策定する国別分析ペーパーや個別事業の検討過程での仮説・分析提供、自然災害・紛争発生時等の迅速な情報収集・データ分析のサポート等） ③その他：JICAグローバル・アジェンダ（JICAの課題別事業戦略）の成果（アウトカム）の可視化や、生成AIを活用した過去の事業の教訓・示唆の抽出、他の国際機関の取り組み内容の情報整理等の作業をお願いする可能性あり。 ※各作業では、STI・DX室職員や中堅・若手有志のタスクフォースメンバー等から助言を行う。			
■参考情報 【JICA】 ・人間の安全保障の概要とJICAの取り組み： https://www.jica.go.jp/about/policy/humansecurity/index.html ・JICAグローバル・アジェンダ（JGA）： https://www.jica.go.jp/activities/#anchor1 【他の国際機関】 ・SDG Indicators Website（持続可能な開発目標（SDGs）の指標がとりまとめられたWebsite）： https://unstats.un.org/sdgs ・World Development Indicators（世界銀行が提供する主要な開発指標データ集）： https://databank.worldbank.org/source/world-development-indicators			
■参加（同行）可能な行事・視察等 STI・DX室等、機構内各部門が実施する勉強会やセミナー等			
■受入時期・期間 2026年8月～11月の1～2ヵ月程度／2026年11月～2027年2月までの1～2ヵ月間程度のいずれか			
上記期間内での調整可		理由：学業等との両立のため時期・期間は応相談。（各時期1名ずつを想定）	フルタイム以外の活動体系の可否 可 週3回、1～2ヵ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい データ分析、プログラミング、地理空間情報利活用等に関する経験			
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・執務スペースは用意しますが、状況に応じて在宅リモートでの活動も相談可能です。 ・応募にあたっては、上記参考情報もご覧ください。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本21
■部署名：	ガバナンス・平和構築部	■募集人数（人）	1
■課名：	STI・DX室		
■テーマ デジタル分野（サイバーセキュリティ、ICT人材育成、AI等）の技術協力に関する業務補佐及び研修事業への参加			
■テーマの概要 JICAガバナンス・平和構築部STI・DX室では、開発途上国における、デジタル・データを活かした、人びとの安全を確保する持続可能で強靱な社会、一人ひとりが多様な機会・幸せを実現できる社会の実現を目指した業務を行っています。また、デジタル分野の協力においては、大きく①各分野課題でのDX推進②デジタル社会の基盤整備といった二つの柱を立て、取り組んでいます。（詳細は、参考情報のグローバルアジェンダ『デジタル化の推進』をご覧ください。） 本ポストでは、実際に当室の業務に携わっていただき、開発途上国及び日本におけるデジタル分野の開発事業に関しての知見を深めて頂くことを目的に活動いただきます。具体的には、インターン生の関心分野×DXにて課題／テーマを設定いただき、ガバナンス・平和構築部STI・DX室が主管する研修やプロジェクトの打合せへの参加、関連情報のデスクトップ調査等を通じて、JICA事業への理解を深めていただくことを想定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 下記の中から、参加者の関心事項に合わせて活動を行います。 ただし、①の活動は必須とし、それ以外の活動は②③④を想定していますが、育成担当者・参加者と相談の上、決定いたします。 ① STI・DX室が主管する、研修（国内向け、海外向け）への一部オブザーバー参加及び次年度以降の実施に向けた改善策の提案。 ② 開発途上国のICT・人材育成・サイバーセキュリティやJICA事業のDX推進に関する協議への参加。 ③ 開発途上国のICT・人材育成・サイバーセキュリティやJICA事業のDX推進に関する、国内外の援助動向調査・分析。 ④ 開発途上国のICT・人材育成・サイバーセキュリティやJICA事業のDX推進に関する情報整理及びJICA内外への情報発信。 ⑤ JICA事業への生成AIの活用方法提案。 ⑥ 自身の研究内容若しくは関心事項でJICA事業へ関連する事項。			
■参考情報 ・ JICA DXサイト https://www.jica.go.jp/about/dx/index.html ・ JICA グローバル・アジェンダ（課題別事業戦略）15. 「デジタル化の促進」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/digital/ei8tc5000005j05-att/digital_text.pdf ・ JICAクラスター事業戦略「サイバーセキュリティ」 https://www.jica.go.jp/Resource/activities/issues/digital/ei8tc5000005j05-att/cybersecurity.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・ 2026年10月下旬 課題別研修 「社会経済開発のためのAI及びデータ活用に関するデジタル政策」 ・ 2026年 9月下旬 課題別研修 「サイバーセキュリティ対策強化のための国際法・政策能力向上」 *インターンの活動期間及び本人の関心事項を踏まえて、いずれかの研修の一部に参加頂きます。 *全ての研修は東京近郊で実施されます。 *国別研修、課題別研修は、研修員受入事業（短期）にあたります。詳細はこちらをご覧ください。 (https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kenshu/index.html)			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月までの2カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3回、2ヶ月間程度等
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	途上国関係者や国際機関関係者と英語でのやり取りが可能である事。		
必須	知見のない分野・技術についても積極的に情報収集し、専門家や職員等への質問を厭わない前向きな姿勢。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本22
■部署名：	人間開発部	■募集人数（人）	2
■課名：	基礎教育グループ		
■テーマ			
JICAの実施する基礎教育分野のプロジェクトの取組み・成果の取りまとめ等			
■テーマの概要			
<p>基礎教育グループでは、全ての子どもたちに質の高い教育を提供するため、これまで多くの開発途上で様々な基礎教育分野のプロジェクトを実施してきました。しかし、長年にわたる協力の経験・成果が十分に整理できておらず、それらが「見える化」されていないケースが多くあります。そこで、JICAがこれまで実施してきた、あるいは現在実施しているプロジェクトに関して、情報収集、分析いただきながら活動や成果を分かりやすくまとめていただくことを本インターンの主な活動として想定しています（プロジェクトは、ご自身が関心ある国やテーマから選択いただき構いません）。</p> <p>また、上記の活動の他、教育協力を携わる様々な関係者（コンサルタント、JICA、大学関係者等）がつながる共創・革新の場である教育協力プラットフォームの運営や教育協カウィーク（数多くの教育分野のセミナー等を約1週間にわたり集中的に開催するイベント）の開催、人材育成を目的とした能力強化研修の実施など、基礎教育グループが担当する業務に幅広く携わっていただく予定です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>以下の項目は基礎教育グループが担当する業務の一部であり、カッコ内は現在想定しているインターンの方の活動案です。実際の活動内容は、活動時期やご自身の関心事項も踏まえ、担当職員と相談しながら決定します。</p> <p>① 各国の基礎教育分野のプロジェクトに係る業務補助（プロジェクトの取組みや成果に係る調査分析・資料作成、成果物の収集・整理） ② 教育協力プラットフォームの運営補助（HPの充実化に向けた提言、HPに掲載する資料の作成、キャリア情報の発信） ③ 教育協カウィークの運営補助（当日の運営サポート、各セッション要約の作成） ④ 能力強化研修の運営補助（登壇者との打ち合わせ、キャリアセッションの企画・実施） ⑤ 課題別 / 国別研修に関する業務補助（研修参加、研修員へのインタビューと広報記事の作成） ⑥ 教育ナレッジマネジメントネットワークの運営に関する業務補助 等 ⑦ 教育協カダッシュボードの情報更新・整備</p>			
■参考情報			
<p>・教育分野におけるJICAの主要な取り組み（クラスター事業戦略） https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/index.html ・教育協力プラットフォームHP https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/1561662_14951.html</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
インターン期間中に実施している基礎教育グループ所管事業の研修やイベント等			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月の3か月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
調整不可	理由：2026年9月に予定している教育協カウィークの企画・運営に携わっていただきたく、8月～9月にインターンに参加できる方を募集します。	可	週2～3日程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint等）の基本操作		
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（目安：TOEIC550点以上）		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<p>教育分野の専門性は問いませんが、JICAが実施する基礎教育分野のプロジェクトに関して、ご自身で積極的にリサーチを進めていただける方を募集します。</p> <p>基礎教育に対する熱い想い、活動への高い意欲を持っている方をお待ちしています！</p>			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本23
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第一グループ第一チーム		
■テーマ 農業・農村開発協力におけるフードバリューチェーンに関する情報収集、整理及び分析			
■テーマの概要 現在、貧困・飢餓人口の約80%が農村部で生活、貧困層の63%が農業に従事し、その数は全世界で5億人にも上ります。開発途上国の農業従事者の多くは市場ニーズに基づいた営農が実践できておらず、農産物の買い取り価格が低く貧困から抜け出せないという問題を抱えています。これらの課題解決に向けて、食を基軸とする生産から集荷、加工、流通、消費に至る各段階において付加価値を創出してつなぐことが重要になると考えられています。 現在、JICAでは農村部住民の生計向上及び安定した食料の供給を目標に包摂的かつ持続可能なフードバリューチェーン（FVC）の構築に取り組んでいます。 本インターンシップ・プログラムでは、農業・農村開発分野、特にフードバリューチェーンに関連する事項に取り組んでいただくことを予定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成等を担当いただくことを想定しています。 ・JICAの農業・農村開発分野、特にフードバリューチェーンに関連する事業の実績取りまとめ、課題や教訓分析、結果の発信 ・フードバリューチェーンに関連する新規事業の形成に向けた情報収集、課題別研修で用いる教材の作成補助 ・他ドナーが実施するフードバリューチェーンに関連した事業の実績取りまとめと分析			
■参考情報 ・JICAグローバル・アジェンダ（農業・農村開発） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html ・【農業・農村開発】バリューチェーンの変化に対応した農業支援のあり方 https://www.youtube.com/watch?v=4tOyl7XBQ_0			
■参加(同行)可能な行事・視察等 農業・農村開発分野の各種会議や課題別研修へのオブザーバー参加、各種勉強会、在外事務所や専門家へのヒアリング調査（オンラインを想定）			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬から2027年3月までの間で1か月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2回、2か月間等
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint等) の基本操作		
望ましい	英語の論文や報告書等を読むのに支障がないレベルの英語力		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本24
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	2
■課名：	農業・農村開発第一グループ第二チーム		
■テーマ			
水産または畜産分野事業実施に必要な情報の整理と将来の人材確保に向けた取り組み			
■テーマの概要			
<p>JICAは、2024年～2025年にかけて、JICAグローバル・アジェンダ「農業開発／農村開発」の中で、「水産ブルーエコノミー振興」および「持続可能な畜産振興～ワンヘルス推進に向けて～」という2つのクラスター戦略を打ち出しています。農業・農村開発第一グループ第二チームでは、JICAが実施する水産および畜産分野の案件を主に担当し、これらクラスター戦略の推進に取り組んでいます。</p> <p>本インターンシップでは、水産・畜産分野のクラスターを推進してゆくことを目指し、これまでの水産・畜産分野における技術協力をレビューするとともに、現在実施中の事業の推進にご協力いただくことを予定しています。水産・畜産とも新しいクラスターです。JICAが実施する水産または畜産分野の国際協力について、「これが知りたい」「こういう方向性になると良いのではないか」という思いをお持ちの方にご応募いただき、一緒に盛り上げてゆきたいと思えます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>水産または畜産分野における以下の内容の中で、本人の希望も勘案して内容を決定します。</p> <p>①既存データの整理・情報収集分析 あらかじめ定めたテーマに基づいた情報を、主にインターネットや既存資料（書籍）、JICA内外の人材へのヒアリング等を通じて収集し、自身の分析を行った上で、資料として取りまとめいただきます。</p> <p>②広報資料作成 より分かりやすい広報素材の作成、およびホームページの整理を行っていただきます。</p> <p>③将来の人材確保に関する取り組み 大学におけるキャリアセミナーや、イベントの実施を主体的に実施いただきます。</p>			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
JICA各国内機関で実施されている課題別研修への同行・オブザーバー参加			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～2027年3月の間で2～5ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：選定テーマによって必要期間は違うところ、本人の参加可能な期間で実施いただくことを想定。インターン生と調整して決定	可	週3～5回、2～5ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	理系（特に、水産、獣医、畜産、農業、理学分野専攻）の学部学科に在籍、または卒業していること		
望ましい	志望する活動内容によっては語学力（英語又はフランス語）		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 各種専門人材等によるキャリアコンサルティング			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/泊	
■備考・留意点			
本ポストにおいて、インターン生のご希望に応じて担当職員が担当する案件の事務処理サポートをお願いすることはありますが、実際の案件の実施監理を主体的に実施することをお願いするものではありません。ただし、ある程度主体的に活動を実施いただける方ややりたいことごの意思表示ができる方を希望します。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本25
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第一グループ第三チーム		
■テーマ 小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）			
■テーマの概要 JICAは、農作物を「作ってから売り先を探す → 売れるものを作る」へと農家の行動変容を促し、ビジネスとしての儲かる農業の実践を促進する「SHEPアプローチ」を活用した農業普及事業をアフリカ、アジア、中南米、中東の各地域で実施し、併せてその普及を担うSHEP人材の育成を進めています。また、同アプローチを他ドナー、民間企業等の幅広いアクターに活用してもらうために、効果の検証と発信、事業の実践を通じて得られる知見・教訓の蓄積と共有等のナレッジマネジメントに取り組んでいます。2019年に開催されたTICAD7において、SHEPアプローチを活用した農業普及を少なくとも100万人の小規模農家に届け、より良い暮らしの実現を目指す「SHEP100万人宣言」をアフリカ各国関係者、国際農業開発基金（IFAD）、民間企業関係者と共に表明しました。以降、SHEPの着実な実施とSHEP広域展開のための様々な活動を進めています。2025年8月に開催されたTICAD9では、開発パートナーや民間企業と連携し、SHEP100万人宣言の達成に向けたイベントを実施し、更なる普及展開を目指しています。2026年度上半期には、パートナー国の行政官を対象にした課題別研修やSHEP関連プロジェクトの専門家を一堂に集めたSHEP専門家情報共有勉強会等を企画しています。下半期には英語圏でのSHEPアプローチの情報を共有する英語圏国際ワークショップを開催します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、担当職員と業務の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成・セミナーの準備等を実施いただくこととなります。現在想定している内容は以下の通りとなります。 ・ SHEP課題別研修の実施支援 ・ SHEP専門家情報共有・勉強会の実施支援 ・ 国際ワークショップ運営補佐 ・ SHEP活用案件の分析、過去開催された研修のまとめ作業等 ・ SHEPアプローチの広報に係るレビュー・提案、HPの更新、リーフレット作成など			
■参考情報 ・ JICA HP「SHEP（市場志向型農業振興）アプローチ」 ・ https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/shep/			
■参加（同行）可能な行事・視察等 SHEP課題別研修、SHEP専門家情報・共有勉強会			
■受入時期・期間			
2027年1月～3月までの1ヶ月～2ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週3回、2ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農学または農業経済学に関する分野を専攻する者		
望ましい	開発学に関する分野を専攻する者		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 ・ 本インターンシップを通して、農業普及分野の国際協力に関する知見を深める経験を得られます。 ・ インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助も含む可能性があります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本26
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第二グループ第四チーム		
■テーマ アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）に関する情報収集活動			
■テーマの概要 2008年TICAD IVにおいて、アフリカでのコメ生産倍増を目指す国際的なイニシアティブ「アフリカ稲作振興のための共同体（Coalition for African Rice Development: CARD）」を立ち上げました。JICAに加えて国際機関・研究所等が参画し、2018年まで10年間にわたりアフリカでの稲作振興に取り組んだ結果、初期の目標（1,400万t⇒2018年2,800万t）を達成しました。アフリカでの著しいコメ需要の伸長及び食料安全保障の観点から、更なる倍増（2,800万t⇒2030年5,600万t）を目指し、2019年にCARDフェーズ2を開始しています。現在は、サブサハラアフリカの計32カ国及び地域経済共同体を対象にコメ生産の強化に向けてRICEアプローチ（Resilience, Industrialization, Competitiveness, Empowerment）の推進、他機関との連携強化、戦略的な人材育成（現地、日本）、本邦民間企業の進出促進支援等に取り組んでいます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップでは、CARD関連の情報収集の補佐業務を行って頂く想定です。具体的には以下のような項目を検討しており、インターンシップ候補者の希望・関心に沿って最終決定します。 ・CARDの外部発信（CARD英語版HPの更新、JICA海外協力隊との連携施策検討等） ・CARDにおけるジェンダー主流化推進のための施策検討 ・アフリカにおける天水稲作技術の普及に向けた課題分析・施策検討 ・CARDフェーズ2の進捗と課題の分析			
■参考情報 ・JICAグローバル・アジェンダ「農業開発/農村開発」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html ・JICAグローバル・アジェンダ「農業開発/農村開発」クラスター事業戦略「アフリカ稲作振興（CARD）」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/_icsFiles/afieldfile/2023/08/16/20230816claame.pdf ・アフリカ稲作振興のための共同体（CARD） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html ・CARDホームページ https://riceforafrica.net/			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・JICA筑波での課題別研修等CARD関連で参加（同行）可能なものがあればお声がけいたします。			
■受入時期・期間			
2026年8月～9月までの1ヶ月～2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発途上国における農業開発に高い関心を有すること		
望ましい	稲作にかかる基礎的な知識		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本27
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第二グループ第四チーム		
■テーマ 農業分野における気候変動レジリエンスに関する情報収集活動			
■テーマの概要 近年、気候変動によって洪水や干ばつなど自然災害が頻発し、途上国においても農林水産の生産の場や生活の基盤を揺るがす影響が生じており、気候変動に対してどのように適切に対処していくか検討することは重要かつ喫緊な課題になっています。そのため、経済開発部では国際社会での議論も踏まえ、農業・農村開発分野に気候変動対策の取組を検討しており、2030年までに気候変動対策主流化事業の形成や農業分野での緩和策の評価・推進を行うこととしています。その一環として、事業における取組に有用な気候変動適応策に関するガイドライン類の整備を行うほか、国際会議等での情報発信を進めています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップでは、農業分野の気候変動対策及びレジリエンス強化に向け、情報収集の補佐業務を行って頂く想定です。具体的には以下のような項目を検討しており、インターンシップ候補者の希望・関心に沿って最終決定します。 ・気候変動対策の適応策のガイドライン類とりまとめに向けた情報収集・課題分析 ・GREEN×EXPO2027に向けた各国からの出展支援に向けた準備対応 ・農業分野における気候変動対策の対外発信（国際会議における情報発信）内容の検討			
■参考情報 ・JICAグローバル・アジェンダ「農業開発／農村開発」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html ・農業・農村開発協力分野における気候変動対策 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/1553259_14948.html ・農業・農村開発協力における気候変動対策の取組戦略 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/_icsFiles/afieldfile/2024/11/27/httpswww.go.jpactivitiesissuesagriculclimatechange_J.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・JICA筑波での関連分野が含まれる課題別研修等で参加（同行）可能なものがあればお声がけいたします。			
■受入時期・期間			
2026年8月～9月までの1カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発途上国における農業開発に高い関心を有すること		
望ましい	蔬菜花卉園芸分野にかかる基礎的な知識		
望ましい	気候変動対策分野にかかる基礎的な知識		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本28
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	2
■課名：	農業・農村開発第二グループ第五チーム		
■テーマ			
ウクライナ農業復興支援とアフリカの農業開発・栄養改善			
■テーマの概要			
<p>JICAは持続的で包摂的な農業・農村開発を推進し、農業（畜産業含む）や関連産業（加工・流通等）を振興することで農家の所得向上と農村経済の活性化を図り、貧困削減と食料安全保障を目指している。特にウクライナでは、戦乱の中で農業セクターの回復と、女性を含む社会的弱者や小規模農家の収入向上にも注力している。</p> <p>一方、世界では約10人に1人が飢餓状態で、特にアフリカで子どもの低栄養が増加している。JICAは2016年のTICAD VIで「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ（IFNA）」を立ち上げ、栄養改善の戦略策定や活動促進を進めており、2021年には東京栄養サミットで「JICA栄養宣言」を発表した。そのような中、2025年3月のパリ栄養サミットを経て国際的な栄養改善の機運が高まっている。</p> <p>農業・農村開発第二グループ第五チームでは、中東欧州、アフリカ地域の農業・農村開発に加えて、IFNAや食と栄養の協力を主導しており、本ポストは、本人の希望や専門性も踏まえて、同チームが所掌する協力案件の全体管理の補佐、各種会合の企画・運営補佐、机上調査、アプローチの整理、広報活動などを行う。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>1. ウクライナ農業復興支援とアフリカの農業開発・栄養改善に係る情報の収集・整理</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存の協力案件の状況、新規案件形成に向けた机上調査及び本部・事務所などの取り組み状況の更新 協力全体の戦略的な展開に向けた取り組み状況表や予算や投入管理のフォーマットの更新 協力全体のモニタリングと対応策の整理 他の援助機関の支援状況の取りまとめ <p>2. 関連補助業務（農業・農村開発及び栄養分野の広報、イベントの準備補助、資料作成等）</p>			
■参考情報			
<p>1. JICA Website（農業・農村開発）：https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html</p> <p>2. JICA Website（栄養改善）：https://www.jica.go.jp/activities/issues/nutrition/index.html</p> <p>3. IFNA Website（https://ifna.africa/）</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2026年9月～2027年2月までの2週間～3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：ウクライナ及び栄養改善業務は多岐にわたるため、希望する時期に応じてアサインメントを柔軟に設定できるため（最低でも10日間の稼働が必要）	可	最低でも10日間の稼働が必要
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	将来のキャリアとして、国際協力に関心があること		
望ましい	農学、農業開発、栄養学に関する分野を専攻、または興味と知識を有すること		
望ましい	机上調査を実施するための語学力（英語）を有すること		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
JICAの職場環境を知っていただくためにも、JICA本部・経済開発部で対面での業務実施を推奨しますが、部分的なりリモート勤務も可能です。勤務体系は柔軟に対応いたします。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本29
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	民間セクター開発グループ第一チーム		
■テーマ 「持続可能な観光開発」及び「OVOP（一村一品運動）」事業連携促進と事業成果の「見える化」推進			
■テーマの概要 民間企業の成長は、自立的な経済成長、雇用の創出・拡大や国民の所得向上の源泉でもあり、国の財政を支える重要な分野です。民間セクター開発グループでは開発途上国における民間企業の成長に向けた取組の一環として、「持続可能な観光開発」及び「OVOP（一村一品運動）」に関わる技術協力を実施しています。「持続可能な観光開発」では、観光産業に関わる多様な関係者の力を集結しながら観光地の経済、社会、環境面の課題解決に総合的に取り組む「地域経営」を実践し、各地域が自律的な成長を推進することを支援しています。また「OVOP（一村一品運動）」では、地域の特色を活かしながら消費者・市場ニーズに即した「地場産品」を開発・振興して、地域経済が持続的に発展することを支援しています。これら2つの事業はともに途上国の地域産業振興を推進するうえで重要なアプローチで、特に自然資源が豊富で一次産業中心の国や地域では、2つの事業の連携促進も重要となっています。このインターンシップでは同2事業成果の活用・「見える化」促進、連携促進に貢献いただきます。また、その他のご関心に応じて、活動を追加いただくことも可能です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・観光に関連した国際イベントスケジュールをとりまとめ、年間広報スケジュール検討を補佐する。 ・「持続可能な観光開発」に関して実施案件リスト作成を支援し、うち複数案件について教訓とりまとめとHPでの広報実施を補佐する。 ・「OVOP」に関して実施中案件から選択のうえ、HPの広報記事作成を補佐する。 ・対象国を選定のうえ、「OVOP」及び「持続可能な観光開発」事業の連携のアイデアについて検討して提案する。			
■参考情報 「持続可能な観光開発」HP (https://www.jica.go.jp/activities/issues/private_sec/tourism/index.html) 「OVOP」HP (https://www.jica.go.jp/activities/issues/private_sec/project_ovop/index.html)			
■参加(同行)可能な行事・視察等 期間中、都内近郊で実施する国別研修・関連イベントがあれば、同行可能。			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～2027年3月までの3カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2、3回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語（特に読解能力は関連資料を調べていただくため必須）		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本30
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	民間セクター開発グループ第一チーム		
■テーマ			
知的財産分野における技術協力の情報整理補佐			
■テーマの概要			
<p>JICAは、開発途上国の持続的経済成長の源泉である民間企業の成長を促すべく、民間セクター開発分野の協力に取り組んでおり、本分野の協力においては、現地民間企業の育成・競争力強化、イノベーション、投資促進・産業振興等を推進しております。開発途上国における知的財産権制度の整備の不十分さや不透明さは、民間企業自身がコントロールできない上、開発途上国における経済成長のボトルネックとなり得る課題であり、さらに、グローバル展開をしようとする日本企業等にとっても大きなリスクとなり得ます。そこで、JICAは、知的財産権制度専門家現地への派遣や知的財産権制度関連の訪日研修等の協力で長年取り組んでおり、開発途上国、日本の双方にとって有益な知財協力を継続しています。さらに、今後は、現地スタートアップ企業の支援、イノベーション促進といった協力とも連携した協力をより推進できないかと考えております。</p> <p>このインターンシップでは、今後の知的財産分野における技術協力に向けて、これまでの協力及び各国やJICAをとりまく環境について情報整理を補佐いただきます。また、その他のご関心に応じて、活動を追加いただくことも可能です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ul style="list-style-type: none"> 開発途上国（主に低中所得国、高中所得国）について網羅的に下記①、②をデスクトップ調査する。 <ul style="list-style-type: none"> ①各国への日本企業の進出トレンド ②各国における知的財産権制度の課題 上記デスクトップ調査結果を踏まえ、今後JICAによる知財協力が有効と思われる候補国を分析、リストアップする。 期間中、知的財産権制度に関する国別研修があれば同行可能。 			
■参考情報			
民間セクター開発 HP: https://www.jica.go.jp/activities/issues/private_sec/index.html クラスター事業戦略「アジア投資促進・産業振興」： https://www.jica.go.jp/Resource/activities/issues/private_sec/ku57pq00002cub2j-att/Asia_investment_promotion.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
期間中、都内近郊で実施する知的財産権制度に関する国別研修があれば同行可能。			
■受入時期・期間			
2026年9月～2027年3月までの2～3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2～3回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生・社会人とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	基本的なやり取りが可能なレベルの英語能力（TOEIC 600点以上が目安）		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本31
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	民間セクター開発グループ第一チーム		
■テーマ 「アジア投資促進・産業振興」クラスター事業戦略及び投資促進セミナーにおける広報推進業務補佐			
■テーマの概要 JICAは、開発途上国の持続的経済成長の源泉である民間企業の成長を促すべく、民間セクター開発分野の協力に取り組んでおり、本分野の協力においては、現地民間企業の育成・競争力強化、イノベーション、投資促進・産業振興等を推進しております。特に日系製造業を中心にサプライチェーンが形成されているアジア地域に関しては、「アジア投資促進・産業振興」というクラスター事業戦略を定め、投資環境改善等の取組を通じた海外直接投資（FDI）呼び込み、産業振興策による現地企業の実力強化に一体的に取り組んでおります。このインターンシップでは、投資促進・産業振興に関するJICA事業のより一層の周知・広報活動を実施いただきます。また、その他のご関心に応じて、活動を追加いただくことも可能です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・「アジア投資促進・産業振興」クラスター事業戦略の2025年度改訂を踏まえ、広報活動を行う候補案件のリストを作成する。 ・民間セクター開発HPにおけるわかりやすく親しみやすい広報手法について検討する。 ・上記を踏まえ、民間セクター開発HPにて掲載される「取組事例」等の資料を更新・追加する。 ・開発途上国の行政官がJICAによる研修の一環として投資誘致政策等を発信する「投資促進セミナー」について、日本企業への周知・広報手法を検討・実施する。 ・期間中、上記「投資促進セミナー」があれば、同行可能。			
■参考情報 民間セクター開発 HP: https://www.jica.go.jp/activities/issues/private_sec/index.html クラスター事業戦略「アジア投資促進・産業振興」: https://www.jica.go.jp/Resource/activities/issues/private_sec/ku57pq00002cub2j-att/Asia_investment_promotion.pdf 「取組事例」: https://www.jica.go.jp/activities/issues/private_sec/_icsFiles/afiedfile/2024/11/18/2024_psdJGA_Asia_1.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等 期間中、課題別研修「投資促進・ビジネス環境整備(実践)」にて開催される投資促進セミナーがあれば同行可能。			
■受入時期・期間			
2026年9月～12月までの1～3ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2～3回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	基本的なやり取りが可能なレベルの英語能力（TOEIC 600点以上が目安）。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本32
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	民間セクター開発グループ第二チーム		
■テーマ 研修事業の更なる活用に向けて（起業家支援・中小企業振興・生産性改善）			
■テーマの概要 民間セクターグループでは開発途上国の自立的な経済成長および雇用の創出・拡大や国民の所得向上の源泉である民間セクターの発展のための、投資促進・産業振興、起業家・企業育成、持続可能な観光開発に資する協力を推進しています。技術協力事業の一環として行われる「課題別研修」は、開発途上国と日本の「双方向の学び合い」という理念に基づき、研修員だけでなく、日本側関係者も含めた参加者同士が互いに学び合う「Knowledge Co-Creation Program (KCCP)」として実施されています。日本が対象国の共通課題解決に向けて研修内容を企画・計画し、複数国からの参加を得て実施するものです。課題別研修以外でも「青年研修」や「長期研修」等の、多様な研修事業を実施しており、世界中に修了生（アルムナイ）が存在しています。このアラムナイネットワークは、日本およびJICAにとって重要な資産であり、各国での協力における貴重なリソースとなっています。本インターンシップでは、こうした研修事業のうち、民間セクター開発分野における研修に着目し、その活用に関する活動に取り組んでいただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本プログラムでは、民間セクター開発分野（起業家支援、中小企業振興、生産性改善など）に関連する課題別研修を対象に、情報収集、課題整理、施策提言に取り組んでいただきます。具体的な活動としては以下を想定していますが、インターン開始後に担当職員と相談しながら計画を立てていただく予定です。 ・対象となる課題別研修へ参加し、実施状況について観察する。（開催時期と重複する場合） ・実施中・過去の研修参加者へのインタビューを実施し、現在の活動状況や、帰国後のJICA事業との関わりについて情報収集を行う。 ・実施中の研修事業やアラムナイネットワークの活用について課題整理を行い、施策提案を行う。 <期待される経験> ・世界中に広がるアラムナイネットワークの活用方法を検討し、協力の可能性を探る実践的な経験を積むことができる。 ・研修参加者やJICA職員との対話を通じて、異文化理解やコミュニケーション力を高める機会がある。			
■参考情報 民間セクター開発 HP: https://www.jica.go.jp/activities/issues/private_sec/index.html 課題別研修 HP: https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/summary/lineup.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 期間中、実施中の課題別研修があれば参加可能。 <研修例> ・首都圏におけるスタートアップ・エコシステム構築発展 ・デジタルカイゼン（中小企業におけるデジタル技術を活用した品質・生産性向上）			
■受入時期・期間			
2026年8月～2027年3月までの1～3ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2～3回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	高い英語コミュニケーション能力（TOEIC 730点相当）。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助も含む可能性があります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本33
■部署名：	社会基盤部	■募集人数（人）	1
■課名：	運輸交通グループ第一チーム		
■テーマ インフラ整備時における脱炭素技術のJICA事業への適用可能性			
■テーマの概要 世界的な潮流として脱炭素の必要性が謳われており、ODA事業もその例外でない。JICAが協力対象とする開発途上国においても脱炭素の必要性は強く意識されており、日本のODA事業もそれら期待に応えていくことが求められている。 JICAのインフラ分野の協力では、都市鉄道をはじめとする公共交通機関の整備や道路改良による渋滞解消等を通じて、途上国の脱炭素推進に貢献してきている。他方で、利用時に脱炭素に貢献しうるインフラの種類には限りがあるため、インフラの整備段階あるいはインフラそのものが脱炭素に貢献する技術を発掘し、それら技術の適用を推進していくことも必要とされている。 現在、二酸化炭素を吸収するコンクリート、セメント製造工程での二酸化炭素回収といった技術が確立されつつあり、ODA事業でのインフラ整備（建設）段階での脱炭素に貢献しうる可能性がある。他方で、これら技術の適用にはコストや流通量等の課題もあると認識している。 そのため、本インターンシッププログラムは、インフラ整備時の脱炭素技術の整理、それら技術のODA事業への適用可能性を分析し、情報を整理することを主な目的として実施する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・日本国内におけるインフラ整備時における脱炭素技術についてリストアップする（研究、実証段階のものを含む）（インターネット等を通じた情報収集に加え、必要に応じて民間企業や研究機関へのヒアリング含む） ・同技術についてのコストや流通情報について情報収集・整理する ・上記で集められた情報を基に、ODA事業で適用可能な脱炭素技術を特定する ・上記で特定された技術について、パワーポイント等にまとめ、JICA内（社会基盤部内）で報告する			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～10月までのうち1カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	受入可能期間内で20勤務日程度を確保可能であれば調整可
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			
特になし			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本34
■部署名：	社会基盤部	■募集人数（人）	3
■課名：	資源・エネルギーグループ第一チーム		
■テーマ 脱炭素社会・エネルギートランジションにかかる調査研究。（JICAスタッフがコーチング予定）			
■テーマの概要 パリ協定以降、世界の目標は「低炭素」から「脱炭素」へと大きくシフトしました。途上国では2060年や2070年を目標にカーボンニュートラルを目指していますが、その実現には長期的な戦略と次世代技術の開発・社会実装が不可欠です。再生可能エネルギーの導入が進む一方、系統安定化やコスト負担の課題も顕在化しています。こうした背景の中、JICAは途上国のGX（グリーントランスフォーメーション）を担う中核人材を育成するプログラムを展開中です。本インターンでは、脱炭素技術やエネルギー政策の最新動向を学び、国際協力の現場でどのように知見を活用できるかを考えます。将来、海外大学院留学やJICA事業への参画を目指す方にとって、国際的なエネルギー政策の最前線を体験できる貴重な機会です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンでは、参加者自身の関心に基づき「GX」に関するテーマを設定し、JICAスタッフのコーチングを受けながら調査・分析を行います。活動期間・内容は応相談ですが、以下のような取り組みを想定しています。 ①テーマ設定・計画立案：初日にオリエンテーションを実施し、GXや脱炭素政策の国際動向を学んだうえで、自身の研究テーマを設定（例：「特定途上国における再生可能エネルギー導入の課題」「次世代脱炭素技術の社会実装戦略」など）。 ②情報収集・分析：国際機関（世界銀行、ADB等）の報告書やJICAプロジェクト事例を調査し、途上国のエネルギー政策や技術導入の現状を整理。 ③調査結果の取りまとめ：調査結果をとりまとめ、JICA事業への提言を検討。 ④成果発表：最終日に、調査結果と提言をまとめたレポートやプレゼンをJICAスタッフに発表し、フィードバックを受ける。			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等 参加者の意向をふまえて検討可			
■受入時期・期間			
2026年8月～9月の間の2週間～2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	例：週2回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本35
■部署名：	地球環境部	■募集人数（人）	2
■課名：	防災グループ		
■テーマ 防災分野の知見の体系化と関連人材のネットワーク強化			
■テーマの概要 地球環境部防災グループでは、技術協力事業等を通じて途上国における防災の取り組みと防災人材の育成を支援しています。本インターンシップでは、JICAの防災分野における活動の知識を深められると同時に、過去の防災協力に関する知見と人材のネットワークをとりまとめる業務に携わりながら、より効果的・効率的なJICAの防災協力の環境づくりに貢献できます。防災の知見の体系化においては、洪水、地震、気象等の防災支援分野において、JICA事業の成果発信、優良事例のとりまとめ、協力効果の検証、その他知見の整理といった活動を期待しています。また、防災人材のネットワーク強化に関しては、研修員・留学生、専門家や開発途上国防災機関職員、日本国内の関係機関・有識者等とのネットワークの構築・強化に対する体制作りの支援を期待しています。なお、JICA防災グループでは、防災インフラの整備と重要インフラの強靱化といった構造物対策を中心とした災害リスク削減に注力しており、土木・建築といった知見を持つ職員も多数活躍しています。このため、理系学部をはじめ多様なバックグラウンドの方の応募を歓迎します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 以下の中から、インターン生の関心の高いもの、専門性を考慮して所属部署と話し合った上で詳細な活動内容が決まります。 1. 知識の体系化 洪水、地震、気象といった分野において、特定の国における防災強化の事案を検証、とりまとめ。 防災グループ内で蓄積された情報の整理・発信（広報）に係る補助的な作業。 2. 防災人材のネットワーク構築 防災分野の研修員、専門家、防災カウンターパート等の人材のリスト／データベース化。 防災人材のネットワーク体系の構想・試行的な取り組み立案（WhatsApp、Teams、LinkedIn等の活用案）、実施補助。 留学生ネットワークの運営・企画（留学生間のネットワーキングイベントの企画・実施、広報マテリアルの作成）			
■参考情報 JICAの防災分野における取り組みについて https://www.jica.go.jp/activities/issues/disaster/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 インターンシップ期間中に実施される研修員受入事業の講義・研修等(オンライン含)、技術協力プロジェクト等の先方機関との打ち合わせ・案件形成時の会議など。			
■受入時期・期間			
2026年8月～11月までで1～2カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3回、1ヶ月～2カ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	防災分野に関心を有すること。		
必須	研修員等とのカジュアルなコミュニケーションが可能なレベルの英語力		
必須	MS Officeの利用に精通していること。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 本インターンシップでの活動時間中（9:30-17:45）に、インターン活動に専念できる健康状態、他活動との両立を自立的に行えることを条件とします。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本36
■部署名：	国内事業部	■募集人数（人）	2
■課名：	市民参加推進課		
■テーマ			
JICA市民参加事業の取り組みサポートおよび事業に関する情報収集・分析・発信			
■テーマの概要			
<p>JICA国内事業部では、①技術研修員の受入、②留学生の受入、③多文化共生、④市民等による国際協力活動の促進を行っており、このうち市民参加推進課では④の「市民参加協力事業」について、寄附金事業、NGO・自治体・大学による国際協力の事業支援、これらパートナーとの連携に関する制度設計を行っています。</p> <p>多様化・高度化する開発途上国の開発課題の解決のためには、専門知識を有する様々なパートナーとの連携が必要です。また、国際協力を継続的に実施するためには、市民の方々に開発協力を「自分事」として関わる機会の提供、開発協力への理解および支持の裾野の拡大、さらには、開発協力の経験を日本国内に還元し、地域の課題解決や活性化に取り組むことも重要です。</p> <p>本インターンシップでは、国内の方々との連携・共創による開発課題解決や、日本国内への還元の取組を学び、国内外の課題解決に向けたWin-Winな事業の意義について理解を深めていただきます。また、市民参加協力事業の仕組みづくりに携わり、事業の推進に協力いただきます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>(1) JICAの国内事業および市民参加事業について理解するための取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA国内拠点の役割と機能、市民参加協力事業の目的 ・ 国内における多様なパートナーの存在と連携の重要性 <p>(2) 事業推進のための情報収集・分析・発信</p> <p>(主な活動は以下を想定していますが、詳細はインターン生のご希望も踏まえ決定していきます)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICAの寄附金事業の実績取りまとめ・データ分析や、他の募金団体や助成団体の情報収集やとりまとめ等 ・ NGO連携事業（草の根技術協力事業、JICA基金）に関連する業務（例：在外事務所のNGO窓口であるNGO-JICAジャパンデスクの更なる活用策として、ウェブサイトの改善案や活動の紹介記事の作成等） ・ 地域での連携の好事例の情報収集や発信素材の取りまとめ（国際協力推進員の活動等） <p>(3) インターン結果の取りまとめ、報告会の実施</p>			
■参考情報			
<p>JICA市民参加事業 https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/index.html</p> <p>JICA寄附サイト https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/index.html</p> <p>JICA-Netライブラリチャンネル「国際協力を日本の文化にー市民参加ー」</p> <p>-フルバージョン https://youtu.be/t-RN68nWWdM</p> <p>-ダイジェスト https://youtu.be/EocefufGSHU</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際協力推進員の活動現場、寄附金活用事業の現場視察 ・ NGO等との連携協議会合への同席 ・ JICA職員が外向している大学、自治体等の見学、連携現場視察 ・ 国内拠点の活動（研修員受入事業、市民参加事業、多文化共生、開発教育等）の現場視察、行事参加 <p>例：東京センター、横浜センター、筑波センター等</p>			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～2027年3月までの2-3ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：詳細時期は要相談	可	週2-3回、2-3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発分野や国際協力に対する関心		
必須	事務処理能力（Microsoft Word, Excel, Power Pointなどを用いた資料作成等、事務作業）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<p>海外だけではない、国内にもある国際協力の現場について知りたい、活動してみたい、という熱意のある方大歓迎です。JICAのキャリアを知ってもらうための機会（職員訪問等）についても、要望に応じて、可能な範囲でアレンジ可能です。インターン場所は竹橋ビルとなります。勤務形態・時間は柔軟に相談に応じます。</p>			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本37
■部署名：	国内事業部	■募集人数（人）	1
■課名：	外国人材受入支援室		
■テーマ 外国人材受入・多文化共生社会構築支援			
■テーマの概要 JICAは、外国人材受入や多文化共生社会構築をめぐり、日本政府の政策を踏まえつつ、海外では、開発途上国の経済社会開発に資する人材育成や、適切な就労機会の拡大を含む労働政策・制度の改善といった開発課題の解決とともに、国内では、JICA国内拠点等を活用し、国際協力や開発途上国についての理解促進に取り組んでいます。 具体的には、①経済成長のための人材育成、②移住労働者の人権尊重、③外国人材との共生社会の構築の3つの柱に基づき、誰一人取り残さない日本・世界の実現に向けて取組を進めています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ①国際機関、関係省庁、地方自治体、NGO等との連携に関する業務補助。例えば、ILOとJICAで連携して行う送出国関係者を対象としたワークショップの準備、JICA国内拠点や地域に配置されている国際協力推進員が行う国際協力や開発途上国の理解促進などの多文化共生支援に関連した活動 ②開発途上国の人材育成や労働政策・制度の改善に資する各種協力（東南アジア、南アジア、中央アジア諸国）に関する活動 ③上記に関連した面談、会議、イベントの参加等、幅広く携わっていただきます。 また、応募者の関心事項を踏まえ、タスクを設定し、インターンシップ活動とすることも可能です。 例）各国の移住労働者送出国の動向調査・分析、育成就業制度の開始に向けた国内の動きの把握、移住と開発をめぐる他ドナーの動き等			
■参考情報 ■JICA HP https://www.jica.go.jp/activities/schemes/multicultural/index.html https://www.jica.go.jp/activities/schemes/multicultural/info/n_files/jica%20in%20action%20japanese.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ■社会人向け能力強化研修「移住と開発」（8月上旬予定） ■JICAが主催もしくは後援するイベント			
■受入時期・期間			
2026年7月下旬～9月中旬までの2カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：インターンシップに集中できる夏期休暇期間を主な活動時期とする	可	週2回以上
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式 <input type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本38
■部署名：	インフラ技術業務部	■募集人数（人）	2
■課名：	有償技術審査室		
■テーマ			
円借款インフラ事業において導入される本邦優位技術の事例の収集、導入事例の分析に関する調査活動（道路、河川分野）			
■テーマの概要			
<p>JICAは円借款での支援を通じて毎年1兆円近い規模で途上国のインフラ整備を推進している。相手国の重要インフラの整備により、経済や社会に大きなインパクトを与え、日本との外交関係の強化にも貢献している。日本政府は質の高いインフラの海外展開において円借款に高い期待を寄せており、JICAは日本の優れた技術も活用しつつ効果的なインフラ整備を進める必要がある。</p> <p>道路・橋梁、河川・ダムなどは従来から円借款の重点分野であるが、気候変動による自然災害の激化は強靱なインフラに対する途上国のニーズを一層高めている。JICAはこれらのニーズ、インフラ輸出政策に応えるため、日本企業が海外で優位性を持つ保有する製品や技術（本邦優位技術）を案件形成を通じて採用してきている。他方で時間の経過を経て、これらの技術が同一、類似技術に対して施工件数、金額、規模等実績面で優位性を維持し得ているのか見直す時期に来ている。そのため、従前より採用されてきた本邦優位技術のレビューを行うとともに、近年国内の公共事業等インフラ事業において開発され、実績を蓄積しつつある本邦技術について調査しJICA内部の勉強会、セミナーで発表する。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>道路・橋梁分野、並びに河川、ダム分野における</p> <p>1 既往円借款事業で採用された本邦優位技術に係る、（1）各事業での実績の収集、整理を行う。とともに（2）現時点における同技術の海外における位置付けについて情報収集、整理を行う。</p> <p>2 JICA内部向け勉強会、セミナーの企画、運営を行う。具体的には、（1）上記1の結果に基づく本邦優位技術に関する勉強会、または、（2）国内の公共事業等インフラ事業において、近年開発され、施工、採用実績を蓄積しつつある製品、技術について、事業者による技術解説や施工事例を含むセミナーなどの開催。</p> <p>なお、活動実施に当たっては、JICAの内部技術者やインハウスコンサルタントとの連携、協働も可能。</p>			
■参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2026年8月～2027年3月までの4週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3回、4週間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	Outlook、Word、Excel、PowerPointに関する基礎的操作		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本39
■部署名：	評価部	■募集人数（人）	若干名
■課名：	評価企画課		
■テーマ エビデンスの利活用の推進・促進（インパクト評価、EBP（Evidence-based Practice）、EBPM関連）			
■テーマの概要 昨今、多くの援助機関や日本政府が、更なる事業効果の向上、事業の質の改善のために、エビデンス（根拠）に基づく実践（Evidence-Based Practice:EBP）やエビデンスに基づく政策推進（EBPM）を推進しており、その主要なツールとして、インパクト評価（IE）を重視しています。 JICAでは、保健、教育、農業をはじめとした様々な分野の事業でインパクト評価を実施するとともに、アカデミアでの発信も視野に入れた学術的研究も推進しています。 JICAは現在、新しいマネジメント方式であるJICAグローバル・アジェンダ（JGA）/クラスターを推進しており、その文脈で特に、IEやシステマティックレビュー（SR）、更にはそれらを概観できるエビデンス・ギャップ・マップ（EGM）の「利活用」（エビデンスの「つくる」「つたえる」「つかう」の特に「つたえる」「つかう」の点）の促進を図っています。 今回のテーマでは、JICAがJGA/クラスターを推進していく上で必要となるエビデンスの利活用のためのJGAエビデンスツール（JGAエビデンスHUB及びJGAエビデンス集）の作成・更新を実施します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ①インパクト評価及びシステマティックレビュー報告書等の内容吟味、収集及び活用提案（JICAエビデンスHUB（日本語）の作成・更新）：JICA、他機関（世銀DIME、3ie、J-PAL、キャンベル共同計画、コクラン等）が実施済のIE/SR/EGMを、JGA/クラスター単位で内容吟味・収集し、評価部指定のフォーマットに沿ってリンク集を作成、活用提案を行う。 ②国際機関、NGO等が実施済のIE/SR/EGMの情報収集、文献分析（JGAエビデンス集（日本語）の作成・更新）：JICA及び上記他機関等が発行済のIE/SR/EGM等についてセクター（JGA）毎に情報収集し、主要な報告書の概要及びリンク先を記載した要約を、評価部指定のフォーマットで作成する。 ①及び②の活動では、評価部職員や国際協力専門員等から指導・助言を行う。 ③その他：衛星データ活用、JICA事業の評価指標の確認作業、事業評価報告書における教訓の取り纏めなどをお願いすることもあります。			
■参考情報 JICAグローバル・アジェンダ（JGA）： https://www.jica.go.jp/activities/#anchor1 JICAインパクト評価： https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/impact.html 世界銀行DIME： https://www.worldbank.org/en/about/unit/unit-dec/impactevaluation 3ie： https://www.3ieimpact.org/ キャンベル共同計画（龍谷大HP）： https://crimrc.ryukoku.ac.jp/campbell/library/international.html コクラン： https://www.cochranelibrary.com/			
■参加(同行)可能な行事・視察等 評価部などJICA各部門が実施する構内勉強会や外部セミナー等			
■受入時期・期間			
2026年8月～12月までの1カ月間～2カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2～3回、1カ月～2カ月程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	統計学		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・執務スペースは用意しますが、状況に応じて在宅リモートでの活動も可能です。 ・応募にあたっては、上記「■参考情報」もご確認ください。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本40
■部署名：	評価部	■募集人数（人）	1~2
■課名：	事業評価第二課		
■テーマ 事業評価（教訓活用状況の整理）			
■テーマの概要 JICAの事業評価は、過去に実施した事業から得られる学びを通して事業のさらなる改善を図る（学習と改善）とともに日本国民や相手国関係者等に事業評価の結果を適時に公開すること（説明責任）を目的としている。特に、「評価による事業の改善」については、途上国の現場における多様な事業経験を通じて蓄積された教訓を活用・反映し、途上国の複雑かつ困難な開発課題の解決に向けたより効果的な事業を実施していくことが重要である。こうした認識のもと、評価部ではこれまで事業評価制度の拡充・強化を図るとともに、様々な分野課題に関する教訓を整理・分析して実用性・汎用性の高いナレッジ（知識）として取りまとめ、評価結果の事業へのフィードバックを推進している。 今回の活動は、事後評価の対象案件について、案件計画段階において過去の類似案件から教訓を活用した優良事例を抽出し、活用の背景やどのような教訓が有用であるか類型化を図る。また、これまで事後評価を実施した開発政策借款を対象としてその教訓の類型化を図り、案件形成に活用するための手引き案を作成し、更なる教訓の活用を促進することを目的としている。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ①事後評価案件における教訓活用事例の抽出・整理 現在事後評価を実施中の案件から、過去の類似案件の教訓を活用している優良案件を抽出し、活用に至った背景や活用についての工夫について整理を図る。活動の結果は、別途、事業評価年報の記事としてまとめることを想定している。 ②特定テーマに関する事後評価における教訓整理 過去に実施した事後評価における教訓を分野・特定テーマごとに整理し、今後の案件形成に活用することを想定した教訓活用の手引きを作成する。テーマはインターンの希望を踏まえて決定する。 ③評価実務の実施 技術協力や資金協力の事前評価・事後評価にかかる評価実務の一部を活動として実施する。 ④インパクト評価／衛星データ分析にかかる活動 インターンが希望する場合、評価部が実施するインパクト評価／衛星データ分析にかかる実務の一部を活動として実施する可能性がある。			
■参考情報 ・ JICA事業評価の概要 https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/ku57pq000001n698-att/development_evaluation.pdf ・ JICA評価年報 https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/general_new/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 評価部内での勉強会等			
■受入時期・期間			
2026年8月～11月までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2-3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	国際協力に関する基礎知識		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本41
■部署名：	青年海外協力隊事務局	■募集人数（人）	6
■課名：	国内グループ参加促進課		
■テーマ			
JICA海外協力隊事業における広報活動の強化			
■テーマの概要			
1965年に始まったJICA海外協力隊（青年海外協力隊）はこれまで累計で58,000人以上の隊員を99か国に派遣、コロナ禍以前は常時2,000人の隊員が世界70か国以上で活躍していた。現在は約1800人程度まで派遣規模を回復、コロナ禍以前の派遣規模まで回復することができた。認知度調査を行ったところメインターゲットの応募層である20-30代の6~7割近くがJICA海外協力隊の名前を知らない、事業のイメージを全く持っていないという結果が出た。そのため青年海外協力隊事務局では2023年より、右年齢層をメインターゲットにしたInstagramやLINEを使った広報や、大学等に出向いてのJICA海外協力隊セミナーの開催にも力を入れている。インターンには応募者視点からも、様々な広報施策へのインプットが期待されると同時にSNSを中心に発信強化やイベント企画に貢献し、そのために必要な広報素材の収集、製作（撮影、編集等）も行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
JICA海外協力隊の募集広報、事業広報の一環として、特に応募者の不安払拭に向けたSNS向けの動画コンテンツの取材、編集（過去のンスライブのアーカイブ映像からの再編集含む）を中心に活動する（補助的な活動ではなく、インターンが主体的に企画・活動を行うことを想定）。具体的には、派遣中隊員や隊員経験者への取材、インタビュー等を通してJICA海外協力隊ウェブサイトやSNSに掲載する映像素材の収集・整理・編集を行う。また、協力隊関係者を対象としたInstagramライブやインスタライブの企画、実施、編集、投稿等を行う。動画を集める際に若者の興味喚起を引き起こすようなテーマやハッシュタグを検討し、提案する。その他、大学等で実施するJICA海外協力隊セミナーの企画・準備支援もインターンの発意により実施可能。 なお、インターンは常時2名体制を原則とし、互いにチームを組んで業務を行う予定。ただし、インターンの活動可能時期、人数やそれぞれの特技、関心などに応じて、チーム体制や業務の内容を調整することとする（1名のみもしくは3名以上で活動する可能性もあり）。			
■参考情報			
JICA海外協力隊 https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html 帰国後の日本国内への社会還元 https://www.jica.go.jp/volunteer/shakaikangen/index.html 帰国後のキャリア https://www.jica.go.jp/volunteer/people/index.html また昨年度受け入れたインターンが作成した成果品は以下のリンクから確認可能です。 ・ https://www.instagram.com/p/D0sbae_D1Lo/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzRlODBiNWFlZA== ・ https://www.instagram.com/p/DPDmmJTj34J/?utm_source=ig_web_copy_link&igsh=MzRlODBiNWFlZA== その他Instagram、X、Facebookに青年海外協力隊事務局公式アカウントがありますので、参照してください。			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルフェスタ（9月予定） ・対面型募集説明会（9月予定） ・JICA海外協力隊セミナー（随時） 			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月/10月～12月/2027年1月～3月のいずれか3か月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：それぞれの期間で2名程度	可	週2-3回、3か月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	素材となる写真や動画の撮影、編集などの経験があること。その判断材料として具体的な経験（個人・所属団体等のSNSアカウントでの発信等）を記載、あるいはリンクの共有をお願いします。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
撮影に使用するカメラ、編集用PC等最低限のものはJICA側で用意するが、使い慣れた本人所有の機材、PCの活用も可能。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本42
■部署名：	青年海外協力隊事務局	■募集人数（人）	2
■課名：	国内グループ社会還元促進課		
■テーマ			
JICA海外協力隊の帰国後キャリア支援及び社会還元促進支援業務サポート			
■テーマの概要			
<p>JICA海外協力隊を派遣するJICAボランティア事業は、2025年で60周年を迎えました。青年海外協力隊事務局では、2年間の活動を終えて日本に帰ってきた帰国隊員の皆様（通称Old Volunteer=OV）が開発途上国での活動を通して得た知見・経験を国内外の社会に効果的に還元していただくことを非常に重視しており、社会還元促進課では、そのためのキャリア支援、進学支援、起業支援、ネットワーキング支援等を行うことで人材の環流を生むことを目指しています。また当課では、OVの活動のみならず、JICAボランティア事業全体をさらに発展させるための「JICA海外協力隊応援基金」の運用を行う寄附金事業も主導しています。</p> <p>本インターンシップにおいては、当課の業務を学生の皆様の視点でアップデートする可能性を探ったり、活躍しているOVの皆様の国民の皆様にわかりやすく発信したり、また実際にセミナーを企画していただいたり、様々な活動を行っていただく予定です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>以下の活動例を参考に、合格者の経験や得意分野、また関心に応じてメンターと相談の上、ご自身で活動計画を立てながら実施していきます。</p> <p>活動例1：JICA海外協力隊応援基金のファンドレイジングサポート、外部向けPR企画の補佐（インターンによる自主企画も歓迎（大学等とのコラボ企画など））、広報用ツールやウェブサイト更新や活用支援、寄附者データ管理・整備補佐、寄附者や寄附用途の事例収集、メルマガやLinkedInでの配信 等</p> <p>活動例2：OV情報等のデータ整理支援、帰国後に活躍しているOV（学校の先生、地域活動の推進、社会課題への取り組み等）の取材・記事や動画などのコンテンツの作成補佐、セミナー・イベント企画運営補佐、メルマガやLinkedInでの配信 等</p> <p>活動例3：JICA海外協力隊起業支援プロジェクトBLUE、社会還元表彰、グローバルプログラムのセミナー・イベント企画運営補佐、広報・PR活動のサポート、OVへのインタビューや記事作成支援、日本や海外で起業、地方創生に取り組む際に活用できる制度や補助金の調査・情報整理、メルマガやLinkedInでの配信 等</p>			
■参考情報			
<p>JICA海外協力隊起業支援プロジェクトBLUE：https://blue.jica.go.jp/ JICA海外協力隊応援基金：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/private/kifu/kyoryokutai.html 帰国隊員の皆様へ：https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/ JICA海外協力隊帰国隊員社会還元表彰：https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/syakaikangen/index.html JICA海外協力隊グローバルプログラム：https://www.jica.go.jp/volunteer/global_program/</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none"> ・JICA BLUEプロジェクト関連イベント ・OV会関連行事 ・社会還元促進課が実施する内部及び外部向けセミナーや勉強会 など 			
■受入時期・期間			
2026年8月～2027年3月までの間に3カ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：理由：一定のコミットメントの元、目標達成をしていただくため	可	週2～3回、2～3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	団体（NGO、NPO、学生団体等）・企業等におけるセミナー・イベント企画・運営経験、SNS発信等		
望ましい	団体（NGO、NPO、学生団体等）・企業等におけるCSR活動やファンドレイジングまたはそれに類する経験		
望ましい	起業経験または起業支援に関わる活動経験		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
様々なOVの方々との交流する可能性があるポストですので、高いコミュニケーション能力と自発的に課題を発見し、活動する意欲の方をお待ちしています。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本43
■部署名：	国際緊急援助隊事務局	■募集人数（人）	1
■課名：	緊急援助第2課		
■テーマ 国際緊急援助隊救助チーム業務補佐			
■テーマの概要 近年、世界各地で台風や地震などの大規模災害が頻発・激甚化しています。日本政府は長年に渡る自然災害対応の経験を被災国への支援に活かすべく、1979年より国際緊急援助隊の派遣を始め、これまで多くの被災国に対する支援を実施してきました。JICAは、この国際緊急援助隊の派遣にかかる業務を担い、また緊急援助物資の供与を実施しています。 緊急援助第2課では、国際緊急援助隊のなかでも、主に地震の被災地において捜索・救助を行う「救助チーム」の派遣を担当し、また緊急援助第1課とともに緊急援助物資供与を実施しています。 災害の発生後に速やかに「救助チーム」を派遣し、またチームが被災地にて効果的な活動が行えるよう、緊急援助第2課では、日々、訓練・研修を企画・運営するとともに、機材の管理・整備等を行っています。インターンには、これらを担当する職員の業務の補佐を通じ、国際緊急援助隊を支えるJICAの役割を理解いただきつつ、日本の取り組む災害支援に貢献いただきたいと思います。			
■具体的なインターンシップ活動内容 インターンシップでは、以下いずれかの活動を行っていただく予定です。または、「国際緊急援助」にかかる自身のテーマ活動を設定していただき、取り組んでいただく事も可能です。従事いただく活動の詳細については、ご関心及び期間等も踏まえて決定します。 ・災害に関する情報収集・整理業務の補佐 ・各種研修や訓練の企画・実施業務の補佐 ・各種資機材の調達・整備業務の補佐 ・緊急援助物資の備蓄・放出業務の補佐 ・他、広報やIT関連等の庶務業務の補佐 ・「国際緊急援助」にかかるテーマ活動（個人設定） 例）緊急援助における国際潮流のリサーチ…など			
■参考情報 ・JICA HP 国際緊急援助： https://www.jica.go.jp/activities/schemes/jdr/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・救助チーム訓練、研修への参加（インターン受入時期・期間にもよるため、受入決定後に調整します） ・関係省庁、国内機関の訪問			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～12月までの2-3カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：各自事情や研修スケジュール等に鑑み、調整可能。	可	週3-5回、2-3カ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	国際緊急援助事業への関心		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-1本44
■部署名：	緒方貞子平和開発研究所	■募集人数（人）	1
■課名：	企画課		
■テーマ 緒方貞子平和開発研究所の広報・発信活動ほか			
■テーマの概要 緒方貞子平和開発研究所（緒方研究所）は、平和と開発のための実践的知識の共創をビジョンとして掲げ、世界の平和と開発のために、現場重視の視点をもった質の高い研究を行い、政策インパクトのある発信を目指しています。インターンシップを通じて、JICA内外での緒方研究所やその研究活動への認知度向上を目的とした広報・発信業務を補佐することで、開発×研究×広報発信の分野で発信計画の立案からコンテンツ作成までを一通り経験していただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ●緒方研究所の研究や緒方研究所に関する広報・発信を企画し、文献調査・情報収集や関係者インタビュー等により具体的なコンテンツを制作し、緒方研究所の広報媒体（ウェブサイト、SNS、動画、メルマガ）への掲載やセミナーにて活用する。 ●例として以下のようなトピックに係る広報コンテンツ作成が考えられるが、これらの例に限らず、緒方研究所HPに掲載の研究内容や既存の動画コンテンツ等を参照の上、インターン本人の関心や専門性を踏まえた積極的な提案を歓迎する。 ・緒方研究所の研究プロジェクト ・「プロジェクト・ヒストリー」シリーズ書籍 ・開発インパクトの可視化とエビデンス利活用の促進（開発の実務と研究の連携等） ・日本の開発協力の特徴と効果 ・今後の開発協力のあり方 ・人間の安全保障 ●その他、インターン本人が希望する場合、上記のトピックに関連する文献調査やインタビューを通じた調査の実施、セミナー開催準備や研究所運営業務（研究データ整理や図書館運営等も含まれる）への参加の可能性もあり。 ●以下記載のYouTubeの「インタビュー」再生リストに、これまでのインターンが制作した動画も掲載。			
■参考情報 ・JICA緒方研究所ウェブサイト https://www.jica.go.jp/jica_ri/index.html ・研究活動紹介（領域紹介） https://www.jica.go.jp/jica_ri/research/clusters.html ・プロジェクトヒストリーシリーズ https://www.jica.go.jp/jica_ri/publication/projecthistory/index.html ・人間の安全保障 https://www.jica.go.jp/jica_ri/research/pickup/humansecurity/1546300_56109.html ・JICA緒方研究所 YouTube https://www.youtube.com/playlist?list=PLq4Q49ttPGrku6o9f5JbG3GnMKGquEi_8			
■参加（同行）可能な行事・視察等 緒方研究所が企画するJICA内および対外セミナー			
■受入時期・期間			
2026年8月～2027年3月の間の2-3か月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2-3回
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	緒方研究所ウェブサイトの記載内容が理解できる程度の英語力		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国01
■部署名：	東北センター	■募集人数（人）	2
■課名：			
■テーマ 国内における国際協力と地域のつながりを理解する			
■テーマの概要 1. 国内における国際協力及びJICAの位置づけの理解 2. 国内機関が担う役割・業務と、拠点・地域の特性の理解 3. 国内の多様なパートナーと、具体的な事業を知り、各地の国際協力事業の効果を体験する			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・ 所長講話 ・ 事務所業務ブリーフィング ・ インターンシップ計画の整理 ・ 協力隊事業：募集説明会関連業務やGP関連業務などの事業サポート、帰国後企業OVとの意見交換、インタビュー ・ 開発教育：出前講座・市民参加イベント事業サポート ・ 草の根：担当者との打ち合わせ参加、現地CPとのやり取り体験など ・ 復興支援：各地域（陸前高田・遠野等）からのブリーフィング、事業サポート ・ 多文化共生：活動視察、事業準備・サポート ・ 研修事業：同行視察、事業サポート、インタビュー ・ 民連：JICA Biz同行、広報サポート ・ 総務・経理・庶務：事務所を支える基盤業務の体験 ・ インターンシップ発表会（報告）			
■参考情報 インターンシップの成果品として以下報告書の提出を期待 ●国内の多様なパートナーが高く評価するJICAの事業・事例と具体的な成果・効果 ●今後更に期待するJICAの役割・事業			
■参加(同行)可能な行事・視察等 2026年度の詳細スケジュールがまだ固まっていないことから、受入時期確定に際して、再度日程を調整する予定。			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～8月までの1カ月半/1～2週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：研修の繁忙期が9月頃から始まるため、それを避けたスケジュールとしているが、活動をより市民参加事業に絞るのであれば、それ以外の時期も可能	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	TOEIC600点以上の語学力		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		7,000～20,000円/泊	
■備考・留意点 国内機関の活動を包括的に理解していただくため、総務課・市民参加協力課の課をまたいで、インターンシップ制の受入を行います。また、可能な範囲で現場活動型のインターンシップとすることを考えており、そのための日程調整をさせていただく可能性があります。なお、出張の場合、基本的にインターン生が旅費・宿泊費等を負担することになります。そのため、インターン生の負担可能額に応じ、東北6県の事業視察先を検討します。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国02
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	2
■課名：	総務課		
■テーマ 国内センターの理解～JICA筑波の特色を活かした広報・開発教育を中心に～			
■テーマの概要 JICAの国内センターは、開発途上国と日本の地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を推進するとともに、地域の発展に貢献する活動を進めています。JICA筑波は、保有する農業分野の研修施設を活かしつつ、筑波研究学園都市に集積する研究・教育機関との連携を強化し、農業、防災、気候変動対策などの研修員受入事業を実施しています。また、所管する茨城県と栃木県のJICA海外協力隊、草の根技術協力、開発教育支援、中小企業・SDGsビジネス支援、外国人材受入れ・多文化共生支援等の事業を実施しています。 今回のインターンでは、JICA筑波が実施する事業広報及び開発教育支援事業の業務補佐を行っていただきます。また、JICA筑波で勤務する職員、研修委託先スタッフ、協力隊経験者など多様な人材のキャリアに触れる機会を設定しますので、ご自身のキャリア検討の機会として活用いただけます。 なお、受入担当部署は総務課となりますが、一部の活動は連携推進課が担当部署となります。			
■具体的なインターンシップ活動内容 JICA筑波が実施する事業広報及び開発教育支援事業の業務補佐を行っていただきます。特に、「食と農」をテーマとした国際協力の体験型展示施設「JICAつくば地球ひろば」の広報事業の企画・実施、各種交流イベントや開発教育支援プログラムの運営に関する業務補佐を中心とします。加えて、JICA筑波が実施する幅広い業務の体験やキャリア面談なども行っていただきます。 具体的な活動は以下のとおりとし、詳細な活動はインターン決定後に確定します。なお、インターン生からのアイデア提案も歓迎します。 1. JICAつくば地球ひろば（レストラン・図書室を含む）の運営・広報・展示制作に関する業務補佐 2. ちびっこ博士、収穫祭など市民向け国際理解イベントの運営・広報に関する業務補佐 3. JICA筑波への施設訪問、研修員の学校訪問、高校生・大学生向け国際協力理解プログラムなど開発教育支援事業の運営・広報に関する業務補佐 4. 途上国の農業開発を担う中核人材を育成する研修の講義、圃場実習、報告会への一部参加 5. 多様な国際協力人材とのキャリア面談			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ちびっこ博士： https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/information/event/1571555_23964.html 収穫祭： https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/information/event/1572585_23964.html			
■受入時期・期間			
2026年8月～9月までの6～8週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：イベントが多くある時期での実施とするため	可	週3日程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上）		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：	前半は業務理解のため対面形式（JICA筑波執務室内での活動）を前提。後半は対面形式＋週1～2日のリモート勤務も可。		
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,000円/日		学生料金2,600円/泊（朝食込）	
■備考・留意点 ・JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合に限り、学生料金2,600円/泊（朝食付）でご利用いただけます。（要予約） ・受入時期・期間・週の活動日は、インターンの皆様と相談の上、設定いたします。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国03
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	1～2
■課名：	研修業務課		
■テーマ 課題別研修「小規模農家の生計向上のための野菜生産技術」コースの業務補佐			
■テーマの概要 JICAの国内機関は、開発途上国と国内の地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を推進しています。国内機関の一つである筑波センターは、地域の研究・教育機関との連携しつつ、農業、防災、気候変動対策などの分野で研修員受入事業を実施しています。 今回インターンを募集している「小規模農家の生計向上のための野菜生産技術」コースでは、各国の農業普及員等を対象に主要野菜の栽培技術をはじめ施肥、病害虫防除、施設栽培、採種技術に加え、農業経営、マーケティングや販売、普及手法に及ぶ総合的な知識と技術の習得を目指しています。 本ポストでは、国際協力に関する仕事に関心をお持ちの方を対象としており、研修コースの業務補佐を通じて、研修員と英語でコミュニケーションを取りながら国際協力の現場を体験できるだけでなく、JICA職員・スタッフ、研修指導員、海外協力隊出身者等多様な人材キャリアを知ることが可能です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本ポストでは、「小規模農家の生計向上のための野菜生産技術」コースに参加し、JICA、研修指導員と協力して研修実施の補助を通じて、JICA事業の理解を深めていただくことを目的としています。 主な活動は以下を想定していますが、詳細な活動は、応募者の専門性を考慮し、インターン決定後に設定します。 （1）各種野菜の栽培実験の概要説明や種蒔き、育苗管理、トマトの接木実習などの見学・参加 （2）研修員の各国農業・野菜生産状況発表と課題解決のワークショップ、個別実験計画作成授業の見学 （3）講義・実習・見学の準備や資料作成の補助 （4）研修員との各国事情についてのコミュニケーションや日本での生活相談 （5）本コースの広報活動補助（Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事） （6）JICA本部におけるJICA及びJICA事業の全体像の理解 （7）その他、JICA筑波センターの業務補助等			
■参考情報 ・研修事業（知識共創） https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/kenshu/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2027年3月の2～4週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：合計2週間以上であれば、受入期間は調整可能です。	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業・農村開発分野を専攻している、または同分野での活動経験がある方		
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上）		
望ましい	基本的なPCスキル（Word・Excel・PowerPoint等）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		学生料金2,600円/泊	
■備考・留意点 本インターンは、自ら研修員やJICA関係者とコミュニケーションを図り、積極的に活動することでより学びを深めることが可能なポストです。 JICA筑波センターの宿泊施設に空きがある場合、2,600円/泊（朝食込、学生料金）でご利用いただけます。 受入時期・期間は、インターン生と相談の上、設定いたします。 基本的にはご自身のPCを使用いただきますが、PCをお持ちでない方には貸与します。また、機構内の情報へアクセスが必要な場合はPCも貸与します。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国04
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	1～2
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
課題別研修「市場志向型農業振興 —SHEPアプローチ—（普及員）」コースの業務補佐から農業協力実務を経験しよう			
■テーマの概要			
<p>JICAはビジネスとしての農業による所得向上を目指しながら、農家ひとりひとりの「やる気」を引き出し、自助努力によるさらなる成長を推進する、というSHEP (Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion) アプローチを提唱しています。「市場志向型農業振興（普及員）」コースでは、小規模農家が作物を「作ってから売る」のではなく「売るために作る」というケニアで成果をあげている、このSHEPアプローチという手法を中心に市場志向型農業の基本的な考え方について学びます。また、市場ニーズに対応した野菜栽培技術、流通・販売方法および普及手法について、講義や視察に加え、演習や圃場実習も取り入れ、帰国後活動を見据えながら実践的に学んでいきます。このコースは、事前プログラム・本邦プログラム・事後プログラムの3つのプログラムから構成され、事前および事後プログラムは遠隔研修、本邦プログラムは来日研修により実施されます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンシップでは「市場志向型農業振興 —SHEPアプローチ—（普及員）」コースの事前プログラム（遠隔研修）に主に参加し、JICA、研修業務委託先と協力して研修実施の補助を通じて、JICA事業の理解を深めていただくことを目的としています。なお、詳細な活動はインターン決定後に設定します。</p> <p>具体的な活動例は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修計画に沿った資料作成等の補助業務 2. オンラインセッション等における研修員とのコミュニケーションを含む研修運営補佐 3. 研修員が抱える課題とその解決策の聞き取り 4. 事前プログラム（遠隔研修）で実施するオンラインセッションや動画教材等に関する研修員に対するサポート 5. 野菜栽培指導のための圃場等の準備作業（土壌消毒、トマト播種・育苗等を含む） 6. 本コースの広報活動補助（Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事） 7. JICA本部におけるJICA及びJICA事業の全体像の理解 8. その他、研修業務課の業務補助等 			
■参考情報			
<p>【日程案】2027年</p> <p>2月8日（月）～2月12日（金） オンライン参加（筑波センターでの参加も可能です） 遠隔研修の業務補佐（研修員のプロフィールデータの作成、研修員の抱えている問題のまとめ、キックオフミーティングのオンライン参加、キックオフミーティングの参加結果についてSNS・HP記事の作成）</p> <p>3月8日（月）～3月12日（金） 筑波センターでの参加（オンライン参加はできません） 来日後受入の業務補佐（ブリーフィング、開講式、プロオリ、図書室オリ、コースオリ、現地課題の抽出と個別課題案の検討、ベンチマークテスト、インセプションレポート作成）※このほか、冒頭にJICAブリーフィング、終了時に所長面談があります。</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2027年2月～3月までの2週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での研究を行っている、または行う予定のある方		
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上または英検2級以上）		
望ましい	PCスキル（Word・Excel・PowerPoint、オンライン会議、動画編集等）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		学生料金2,600円/泊	
■備考・留意点			
<p>JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合、2,600円/泊でご利用いただけます。</p> <p>受入時期・期間は、インターン生と相談の上、設定いたします。</p> <p>基本的にはご自身のPCを使用いただきますが、PCをお持ちでない方には貸与します。また、機構内の情報へアクセスが必要な場合はPCも貸与します。</p>			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国05
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	2～3
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
課題別研修「アフリカ地域農業機械化促進」コースの業務補佐			
■テーマの概要			
<p>JICAの国内機関は、開発途上国と国内の地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を推進しています。国内機関の一つである筑波センターは、地域の研究・教育機関との連携しつつ、農業、防災、気候変動対策などの分野で研修員受入事業を実施しています。</p> <p>今回インターンを募集する「アフリカ地域農業機械化促進」コースでは、農業機械化政策の立案を担うアフリカ各国の行政官を対象に、農業機械化分野における総合的な知識の習得を目指します。研修を通して、研修員が自国の稲作振興に必要な農業機械化の取り組みを策定して、実施する能力を向上させることを目的とします。</p> <p>主な研修内容は以下の通りです。</p> <p>講義：諸外国の稲作機械化体系と機械化戦略、日本の機械化行政と農機利用体系の変遷、その他関連する諸制度・トピック 実習：エンジンの構造理解、農業機械の性能試験、コメ品質検査 討議：稲作機械化促進に向けた討議</p> <p>本ポストでは、研修コースの業務補佐を通じて、研修員とコミュニケーションを取りながら国際協力の現場を体験できます。加えて、JICA職員、研修指導員、海外協力隊出身者等の多様な人材キャリアを知ることが可能です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本ポストでは、「アフリカ地域農業機械化促進」コースに参加し、研修指導員やJICA職員と協力して研修実施の補助を通じて、JICA事業の理解を深めていただくことを目的としています。</p> <p>主な活動は以下を想定していますが、詳細な活動は、応募者の専門分野や関心事項などを考慮し、インターン生の決定後に設定します。</p> <p>(1) コースで実施する講義・実習・討議への参加や実施補助 (2) デイリーレポート（研修員が毎日提出するレポート）の取りまとめ (3) 講義資料の作成補助 (4) 本コースの広報活動補助（Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事） (5) JICA本部におけるJICA及びJICA事業の全体像の理解 (6) その他、応募者の課題設定に基づく活動</p> <p>なお、応募者の関心と上記コースに係る業務量に応じて、当センターで実施している「農業共創ハブ」に関連する業務（農業共創セミナー）、AFIGAT関連活動、広報活動（SNS記事作成）、その他研修業務課の業務を補助いただく予定です。</p>			
■参考情報			
<p>・研修事業（知識共創） https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/kenshu/index.html ・2025年度「アフリカ地域農業機械化促進」コース 研修概要 https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/agricul/_icsFiles/afieldfile/2025/06/26/kikaikasokushin2506.pdf</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
<p>同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。 昨年度イベント実施例： https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/information/event/index.html</p>			
■受入時期・期間			
2026年9月中旬～11月中旬までの2カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：合計2週間以上であれば、受入期間は調整可能です。	可	週2～3日程度の活動でも調整可能です。
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業・農村開発分野を専攻している、または同分野での活動経験がある方		
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上）		
望ましい	基本的なPCスキル（Word・Excel・PowerPoint等）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		学生料金2,600円/泊	
■備考・留意点			
<p>・農業機械化分野に限らず、開発途上国の農業・農村開発に関心のある方も含め、広く参加を歓迎します。</p> <p>・実習施設や圃場での作業にあたっては、作業しやすく汚れてもよい服装と靴が必要です。</p> <p>・本コースは英語圏及び仏語圏アフリカの合同で実施されます。なお、仏語圏向けには通訳を介して日本語で講義・実習等を行います。</p> <p>・JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合に限り、2,600円/泊（朝食付）でご利用いただけます。（要予約）</p> <p>・受入時期・期間は、相談の上、設定いたします。</p>			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国06
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	1～4
■課名：	研修業務課		
■テーマ 課題別研修「稲作技術向上（普及員）」コースの業務補佐			
■テーマの概要 JICAの国内センターは、開発途上国の開発課題への取組を支援するために、海外と国内の地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を推進するとともに、地域の発展に貢献する活動を進めています。 JICA筑波センターは、農業分野の実践的研修施設を活かし、筑波研究学園都市に集積する研究・教育機関との連携を強化し、農業、防災、気候変動対策などの研修員受入事業を実施しています。 今回インターンを募集している「稲作技術向上（普及員）」コースは、農業研修施設・圃場等を活用し、アフリカ稲（ネリカ）等を中心に①稲作に関する知識・技術の向上、②農家圃場レベルのニーズに即したデモフィールド、③農民への普及方法の改善について、講義、実習、視察等を通じて求められる知識と能力の向上を目指しています。 本インターンでは、国際協力に関する仕事に関心をお持ちの方を対象しており、研修コースの業務補佐を通じて、研修員と英語でコミュニケーションを取りながら国際協力の現場を体験できるだけでなく、JICA職員・スタッフ、研修指導員、海外協力隊出身者等多様な人材キャリアを知ることが可能です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップでは「稲作技術向上（普及員）」コースに参加し、JICA、研修指導員と協力して研修実施の補助を通じて、JICA事業の理解を深めていただくことを目的としています。詳細な活動は、応募者の専門性を考慮し、インターン決定後に設定します。 具体的な活動例は、圃場で実施する実験・試験（施肥や栽植密度、品種の比較実験）の研修員（8名アフリカ地域）に対するサポートを想定しております。 7月は主に生育調査、幼穂調査、圃場管理、8月は主に生育調査、圃場管理、下旬は収穫、9月は収穫及び収量調査がメインとなります。 加えて、本コースの広報活動補助（Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事）およびJICA本部におけるJGA及びJICA事業の全体像の理解を予定しています。			
■参考情報 「稲作技術向上（普及員）」コース概要（昨年度版） https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/agricul/_icsFiles/afieldfile/2025/03/05/course_01.pdf アフリカ稲作振興のための共同体（CARD） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html CARDフェーズ2 目標達成に向けたシナリオ https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card_02.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～9月末までの3週間以上		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3、4回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業・農村開発分野での研究を行っている、または行う予定のある方。		
望ましい	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点相当）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		学生料金2,600円/泊（朝食込み）	
■備考・留意点 本インターンは、自ら研修員やJICA関係者とコミュニケーションを図り、積極的に活動することでより学びを深めることが可能なポストです。また、研修員と同様に水田内に入り稲刈り鎌を使います。そのために長靴、水田用長靴、手袋、作業ができる服装（帽子を含む）のご準備をお願いいたします。また圃場や実習施設での実験・実習にあたっては、作業しやすく汚れてもよい服装と靴が必要です。 JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合、学生に限り2,600円/泊（朝食込み、学生料金）でご利用いただけます。 受入時期・期間は、インターン生と相談の上、設定いたします。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国07
■部署名：	東京センター	■募集人数（人）	1
■課名：	長期研修課		
■テーマ JICA留学生（長期研修員）に関連する取り組みを取材して、HP、SNS等で発信する。			
■テーマの概要 JICAでは、途上国の未来と発展を支えるリーダーとなりうる人材を日本に招いて大学院の修士課程、博士課程に留学させており、この留学生を「長期研修員」と呼んでいます。JICA長期研修員には、それぞれの研究分野での専門性を高めるとともに、欧米とは異なる特色を持つ日本の近代の開発や発展について理解を深める機会があります。また、学業以外で、日本各地で培われてきた地域特有の開発事例を題材とし、地域に根差した具体的な開発事例を学ぶことで、JICA長期研修員が日本の開発経験に対する理解を深めることを目的とする地域理解プログラムも実施しております。インターンの方は、この長期研修の意義を理解し、長期研修員へのインタビューや長期研修員の参加する活動への同行を通じて、HPやSNS等での発信記事を作成することで、長期研修員にかかる広報業務の一翼を担うこととなります。英語の会話や文章作成の能力を向上させたい、との意欲をお持ちであれば、活動可能です。是非、挑戦してください。			
■具体的なインターンシップ活動内容 長期研修員への取材、または地域理解プログラムへの同行を実施し（オンラインでの取材を含む）、その結果をHPやSNS等に投稿するための記事を作成する。			
■参考情報 JICA東京 事業紹介 https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/index.html 研修員受入事業（長期）とは https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/activities/training/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 地域理解プログラム（関東圏：11月～2月の間で2回程度（予定））、長期研修員の学校等への出前講座同行（不定期）、長期研修員への取材等			
■受入時期・期間			
2026年11月～12月までの1カ月程度/2027年1月～2月下旬の1カ月程度のいずれかで受入		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	10月末までは新規来日者対応と長期研修員の夏期休暇期間となるため、インターン受入は難しい状況です。	可	活動可能な日は、相談の上固定した上での受け入れとなります。
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語による会話能力（流暢でなくても良いが意思疎通が確実に出来ること）		
望ましい	英語によるメールの執筆が出来ること（翻訳ソフトに頼っても良いが、その訳の妥当性判断が出来、自分で修正できること）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,100円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 ・地域理解プログラムに同行いただく場合には、東京センターから出発するバスに同乗し、日帰りを想定しています。ただし、出発時間は朝7時台と早朝となる予定です。 ・毎日来る前提で2～3週間の集中型で取り組みたいか、週に2～3日（この場合は、予めご相談の上、参加日は固定することになります）、一定程度長い期間で考えたいかについては、選考時に考慮しますので、申込時に言及していただくようお願いいたします。 ・東京センターには宿泊施設もありますが、あくまでJICA研修員の滞在目的に設置されている施設であるため、宿泊施設を利用しながらインターンに参加いただく場合は、各自で予約していただき、空室がある場合のみ利用可能となります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国08
■部署名：	東京センター	■募集人数（人）	2～3
■課名：	市民参加協力第一課		
■テーマ			
「開発教育支援事業」×「民間連携事業」JICABiz活用企業による大学生向け開発教育イベントの企画・運営			
■テーマの概要			
<p>JICA東京市民参加協力第一課は、国際協力を身近に感じてもらうため、海外協力隊事業、開発教育支援事業、草の根技術協力事業、民間連携事業を担当しています。近年、SDGsの推進により、企業もビジネスを通じて途上国の課題解決に取り組む動きが広がっています。今回のインターンシップでは、こうした背景を踏まえ、大学生と企業をつなぐイベントの企画・運営をします。具体的には、大学生のニーズを把握し、企業へのヒアリングを行い、JICA民間連携事業の事例を活用したイベントを設計します。民間企業がなぜ国際協力に取り組むのか、その成果がどのように相手国や日本社会に還元されるのかを考える機会を提供することが目的です。国際協力やSDGs、ビジネスに関心がある方にとって、実践的な経験を積める貴重な機会です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンシップでは、大学生と企業をつなぐ国際協力に関するイベントの企画・運営を担当します。主な活動は以下の通りです。</p> <p>① 大学生のニーズ調査：所属大学や留学生（JICA東京長期研修員）へのヒアリング、アンケートを通じてイベントテーマを把握。</p> <p>② 企業へのヒアリング：JICA民間連携事業を活用した企業の担当者と面談し、SDGsや開発課題への取り組み事例を収集。</p> <p>③ イベント企画・広報：大学生のニーズと企業事例を組み合わせ、イベント構成案やスライド、ワークショップ形式を設計。</p> <p>④ イベント実施：イベントの当日対応。</p> <p>⑤ 成果発信：授業の様子や学びをレポート化し、JICAの広報媒体で発信。</p> <p>国際協力やSDGs、ビジネスに関心がある方にとって、企画力・調査力・コミュニケーション力を磨ける実践的な機会です。</p>			
■参考情報			
<p>https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/activities/kaihatsu/index.html https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/index.html</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
JICA民間連携事業を活用した企業への視察			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月までの2カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2～3回、2ヶ月程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	持続可能な社会づくりの担い手を育てることに高い関心を持っていること		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 外勤時における少額交通費			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
東京センターには宿泊施設もありますが、JICA研修員の滞在目的に設置されている施設であるため、宿泊施設を利用しながらインターンに参加いただく場合は、各自で予約していただき、空室がある場合にのみ利用可能となります。（5,300円/泊）			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国09
■部署名：	東京センター	■募集人数（人）	2
■課名：	市民参加協力第二課		
■テーマ			
JICA東京における市民参加協力事業（草の根技術協力事業やNGO等提案型プログラム等）の分析と発信及び業務補佐			
■テーマの概要			
<p>（1）JICA東京市民参加協力第二課では、NGOや大学等の市民と協働した国際協力事業を行っています（市民参加協力事業と呼びます）。開発途上国・地域の住民の生活改善・生計向上に直接役立つ事業を実施するとともに、日本の市民の国際協力への理解・参加を促す機会を創出することを目指しています。本インターンシップでは、いくつかの市民参加協力事業の分析を行い、どのような要因が成果、インパクトにつながったか、またどのような課題があるかなどを考察し、教訓の抽出を行い、東京センター内外への発信を中心に行っていただきます。</p> <p>（2）また、市民参加協力事業の業務補佐（NGO、大学等との会議への参加、議事録作成、各種勉強会や会議の運営補助等）の経験を通じ、JICA国内機関業務への理解を深めていただくことを目指します。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>（1）市民参加協力事業のレビューと発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民参加協力事業の実施団体やJICA他部署関係者等にインタビューを行いweb記事を書き、JICA東京のHP（TOPICS）に掲載する。 市民参加協力事業（主に草の根技術協力事業やNGO等提案型プログラムを想定。これら事業制度については以下参考情報を参照）により起きたプラスの変化や課題等について資料の確認やインタビューの実施により情報収集し、分析を行う。 分析結果を整理し資料にまとめ、インターンシップ報告会やJICA東京のHP（TOPICS）で発信する。 <p>（2）市民参加協力事業の業務実施補佐</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民参加協力事業の業務補佐（会議への参加、議事録作成、各種勉強会や会議の運営補助等） 			
※インターン生の関心と経験に合わせて活動内容を調整することも可能です			
■参考情報			
<p>（草の根技術協力事業について） https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/activities/kusanone/index.html</p> <p>（NGO等提案型プログラムについて） https://www.jica.go.jp/activities/schemes/partner/ngo_support/ngo_proposal/index.html</p> <p>（過去インターンの制作物） https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/information/topics/2022/_icsFiles/afieldfile/2024/05/24/review_report.pdf</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
市民参加協力事業を実施中ないし志す団体（NGO、大学、自治体等）との打ち合わせ会議への参加。 草の根技術協力事業の実施団体・JICA他部署関係者へのインタビュー（対面ないしオンライン）。 NGO等提案型プログラムでの研修参加のほか各種会議、勉強会等への参加。			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～9月までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2～3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
本活動は、インターン2名が1つのチームとなって、相談・協働しながら上記に示す活動を共に進めていただく予定です。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国10
■部署名：	横浜センター	■募集人数（人）	2
■課名：	総務課		
■テーマ 海外移住資料館の教育プログラムおよび広報・イベント業務補佐			
■テーマの概要 JICA横浜には海外移住資料館が併設されています。同資料館では、広く一般の方々（特に中高生等）に、日本人の海外移住の歴史、移住者とその子孫である日系人についての理解を深めてもらうことを目的とし、教育プログラムや広報活動を行っています。日本に居住する日系人の存在や活躍が知られるようになってきている今日、日本の多文化共生社会の一例とも言われる日系人に関する当資料館の教育プログラムは、人権学習や国際理解教育においても活用されています。2022年4月には開館20周年の節目を迎え、展示室を一部リニューアルし自治体、教育機関、福祉施設など、より多くの方にご活用いただくことを目指しております。本ポストでは、海外移住資料館の広報発信やイベント実施の業務補佐を想定しています。同世代の方向けのイベントや広報、またオンラインを活用した児童・生徒向けのコンテンツ作成、来館者（小中高の児童・生徒、企業等を含む一般成人等）向けの教育プログラムの提案も期待しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 海外移住資料館業務の補助：横浜センター併設の海外移住資料館にかかる広報業務、イベント実施、オンラインを活用したコンテンツ作成および来館者向け教育プログラムの補佐等 2. 日系社会連携に関連する研修関連活動の補助：研修同行、広報、イベント実施等 3. その他、よりよい資料館運営のための提案、興味関心のあるテーマについての調査など			
■参考情報 横浜センターURL： https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/index.html 海外移住資料館URL： https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 資料館イベント、多文化共生・国際理解教育に関する研修、日系社会研修への同行等			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～2027年1月までの2週間～3カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週2～3回、3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	日本人の海外移住の歴史、海外・国内の日系人・日系社会に関する基礎的な知識		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		センター宿泊：5,300円/泊 ※2025年度の場合 ホテル宿泊：8,000円/泊	
■備考・留意点 基本的に横浜センターでの活動を想定しています。活動日は、月～金です。土日祝は基本的に休みですが、イベントがある場合は、活動していただくことがあります。ご自宅からの通勤が困難な遠方からご参加の場合、インターンシップ期間中に空きがあれば、横浜センターの宿泊施設を利用いただけます。（5,300円/泊）			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国11
■部署名：	横浜センター	■募集人数（人）	2
■課名：	研修業務課		
■テーマ JICA横浜 研修運営業務 ～対外発信と改善提案～			
■テーマの概要 開発途上国の国づくりに寄与する人材を育成する目的で、JICA横浜では年間800名近くの研修員の受け入れを行い、神奈川県・山梨県内の官公庁や大学、民間団体等の協力のもと、水産、港湾、航空、国土開発、上水道、環境など多岐にわたる短期研修を実施しています。またその他に、より高度かつ専門的な知識習得のために日本の高等教育機関にて学習する長期研修や、日系社会への協力を目的とした日系研修も実施しています。 本インターンシップ・プログラムでは、JICA横浜で実施する研修事業を実際の業務を通じて体感いただくとともに、インターンとしての視点から事業を観察・評価いただき、その中で得られた気づきを対外発信や業務の改善につなげていくことを目的としています。2名のうち、1名は短期研修中心に、1名は長期研修中心に対応頂くことを予定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 参加者の関心・希望をヒアリングした上で、以下から内容を決定します。 （1）研修・イベント運営補助 インターンシップ期間中に実施される研修・イベントの運営業務の補助を行います。 （2）広報記事の企画・作成 インターンシップ期間中に実施される研修・イベントについて、JICA横浜のホームページおよびFacebookに掲載する広報記事の企画・作成を行います。広報のターゲットや記事の構成は、参加者自身が提案することを想定しています。 （3）JICA開発大学院連携「地域理解プログラム」の実施補助 標記における視察プログラムの企画及び実施を補助し、その結果をJICA内外へ報告します。 （4）研修員とのネットワーク強化に向けた検討・提案 研修を修了した研修員とのネットワークを強化・活用する方策を検討し、提案します。SNSやオンラインツールの活用方法やネットワークを活用したイベントの企画などを行います。			
■参考情報 JICA横浜 研修員受入事業 https://www.jica.go.jp/yokohama/enterprise/kenshu/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 受入期間中に実施される各種研修・イベント			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月までのうち3～5週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週3～5日×3～5週間程度（全体で15日間程度の就業日を想定します。）
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	技術協力・人材育成に対する高い関心		
必須	Microsoft OfficesやTeamsを利用する基本的なPCスキル		
必須	研修員とコミュニケーションが可能なレベルの英語力		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		センター宿泊：5,300円/泊 ※2025年度の場合 ホテル宿泊：8,000円/泊	
■備考・留意点 ・具体的なインターンシップ内容は上記を想定していますが、取り組んでみたい特定の活動やテーマ等のアイデアがある場合には、応募申請書に提案を記載して下さい。また、インターン発意による企画の計画・実施も歓迎します。 ・土日祝は基本的にお休みですが、イベントがある場合は、活動いただくことを相談させていただくことがあります。 ・ご自宅からの通勤が困難な遠方からご参加の場合、インターンシップ期間中に空きがあれば、横浜センターの宿泊施設を利用いただけます。（5,300円/泊）			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国12
■部署名：	北陸センター	■募集人数（人）	2～3
■課名：	業務課		
■テーマ			
北陸3県におけるJICA北陸と地域との共創促進			
■テーマの概要			
<p>昨今の少子高齢化、過疎、地域産業の衰退といった北陸3県が抱える地域課題は、開発途上国に近い将来に生じる諸課題と多くの共通点を有していることから、JICA北陸では、これらの双方の課題に対して一元的な視点をもって、地域のパートナーとの共創・協働を通じた課題の解決に取り組んでいる。</p> <p>本インターンシップ・プログラムでは、北陸3県において地域課題・地球規模課題（SDGs等）の解決に取り組んでいる団体や個人を調査・ヒアリングし、その課題への理解を深めるとともに北陸地域と開発途上国の課題解決のために共創できるパートナーを探索し、JICA北陸との今後の連携を検討・提案することを目的としている。</p> <p>取り上げるテーマ等については、各県の特徴を鑑みたくてインターン生間、JICA北陸との相談の上で選定する。</p> <p>想定されるテーマ例：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山県：コンパクトシティ、スマートシティ、再生可能エネルギー（水力）、外国人材との共生等 ・石川県：里山里海（生態系保全と経済活動）、SDGs教育、観光産業と地域経済等 ・福井県：外国人材の適切な受け入れ促進、高齢者福祉、教育、再生可能エネルギー（原子力）、宇宙等 			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>インターンシップ活動としては、地域課題への理解・分析、取り上げる課題の選定、候補団体の抽出、当該団体等へのコンタクト、同意を得られた団体等への訪問・ヒアリングの実施、JICAと連携した地域課題解決のモデル検討をJICA北陸スタッフと協働しつつ実施する。その調査結果を報告書に取りまとめ、JICA北陸へ提案することが期待される。なお、複数名参加の場合は、各々の取り組み内容に相互にインプットし合い、発表内容をインターン生間でひとつにとりまとめることも奨励する。</p> <p>想定されるインターンシップ活動の流れ：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①地域課題について知る ②扱いたい地域課題の選定 ③②に取り組んでいる組織の調査・ロングリストの作成 ④③からショートリストを作成し、インタビューや視察による調査を行い、JICAとの連携を探る ⑤地域パートナーへのインタビューや調査を基にした広報記事の作成 ⑥インターン生間でとりまとめ、JICA北陸への提案発表 			
■参考情報			
<p>https://www.jica.go.jp/domestic/hokuriku/index.html https://www.jica.go.jp/domestic/hokuriku/information/topics/2024/1565994_52716.html</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
<p>JICA北陸と地域のステークホルダーとの面談、共創の活動現場への同行が可能。</p> <p>その他、JICA北陸が実施する事業への視察及び同行が可能。</p> <p>例）研修員受入事業、草の根技術協力事業、中小企業SDGsビジネス支援事業、開発教育支援事業、JICAボランティア派遣事業、外国人材受入・多文化共生支援等）</p>			
■受入時期・期間			
2027年2月～3月までの2カ月間のうち2週間～2か月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：大学の休暇期間等にあわせて実施期間変更は応相談。	可	週1、2回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	外部の団体関係者にコンタクトし、各種ヒアリング調査をおこなうため、対人関係において積極性を有する方が望ましい。		
望ましい	テーマ、活動計画策定等はJICA北陸スタッフのサポートのもと、インターン生主導で決定・実施するため、自ら積極的に考察・提案・活動できる方が望ましい。		
望ましい	複数名のインターン生による協働が想定されるため、チームワークによる作業を積極的にできる方が望ましい。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,000円/泊	
■備考・留意点			
本インターンシップでは一部リモートで活動を行うことも可とするが、対象地域である北陸3県（富山、石川、福井）を実際に訪問する機会を設けることを必須とする。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国13
■部署名：	中部センター	■募集人数（人）	1
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
JICA留学生支援と情報発信を通じて、地域と世界をつなぐインターンシップ			
■テーマの概要			
<p>① JICA留学生関連業務の補助 来日直後の留学生が日本で安心して学べるよう、留学生交流会や来日時のプログラム運営をサポートする。事務補助から現場同行まで幅広く関わり、国際交流の現場を体験する。</p> <p>② JICA研修事業（主に留学生）に関する広報 ・留学生や事業関係者へのインタビューを通じて、研修の成果やストーリーに関する記事を作成し、JICAWebサイト等を通じて発信する。記事作成を通じて、情報発信力や異文化理解を深める。</p> <p>③ 地域理解プログラムの企画提案 日本の地域資源や文化を活かしたプログラムの企画・運営を補助し、留学生の地域理解を促進する。過去事例や社会課題を踏まえ、創造的なアイデアを提案する。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>① 新規来日留学生関連業務の補助 ・来日ブリーフィングの補助（例：各種資料のコピー、ファイリング等） ・2026年度秋の留学生交流会の準備及び運営の補助（例：プログラム作成、各種資料印刷、当日の受付業務等） ・近郊案内やセンター滞在中のプログラム（例：トヨタ産業技術記念館等）への引率・同行</p> <p>② JICA研修事業（主に留学生）に関する広報 ・留学生および関係者（指導教員、受入インターン担当者など）へのインタビュー実施 ・インタビュー内容をもとに、センターHPのトピックス記事を作成・掲載 ・中部地域の留学生紹介のための顔写真ボードの更新作業 ・中部地域における留学生事業の好事例取り纏めと広報資料作成補助</p> <p>③ 地域理解プログラムの企画提案 ・2026年度または2027年度以降に実施予定の地域理解プログラムに関するアイデアを2～3件提案</p>			
■参考情報			
<p>・JICA留学生とは：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/dsp-chair/international_student/1567224_67472.html</p> <p>・中部地域に在籍する留学生数（2025年12月現在）：61名</p> <p>・中部地域のJICA留学生受入大学院：名古屋大学、名古屋商科大学、名古屋工業大学、豊橋技術科学大学、藤田医科大学、三重大学、岐阜大学、総合研究大学院大学、東海大学</p> <p>・26年秋来日予定者数：20名程度</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
<p>・留学生交流会</p> <p>・日本理解プログラムにおけるトヨタ産業技術記念館等の施設見学への同行（26年度は未定だが、25年度は、トヨタ産業技術記念館、リニア鉄道館、名古屋城、大須を訪問）</p>			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月までの3カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：長期研修員の来日時期に合わせてインターンシップを実施していただきたいため。	可	週3回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語でのコミュニケーションが取れること（TOEIC600点以上を目安とする）		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,000(昼食目安)円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
・インターンシップ期間中に空きがあれば中部センターの宿泊施設を利用いただけます。（5,300円/泊）			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国14
■部署名：	中部センター	■募集人数（人）	2
■課名：	企業連携課		
■テーマ 民間連携事業にかかる大学発スタートアップに関する調査及び関連セミナー等への協力			
■テーマの概要 大学発スタートアップ（以下、SU）の数は年々増加傾向にあり、経済産業省による2024年度調査時点では5,074件である（出展：経済産業省HP 2025年12月11日閲覧： https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/univ-startupsdb.html ）。中部地域でも、愛知県が主導する日本最大級のオープンイノベーション施設STATION Aiが開業し複数の大学発SUも加盟する等、産官学の取組推進が活発に行われている。JICA中部も域内の大学における支援内容や大学発SUを把握し、個別SUや大学へのコンタクトや関連セミナーの実施等により有望な企業の中小企業・SDGsビジネス支援事業（JICA Biz）への取り込みを目指している。			
■具体的なインターンシップ活動内容 所管する愛知県、静岡県、岐阜県、三重県の大学において、以下の3点の調査、検討を行い報告書にまとめる。 ①各大学でのSU育成・支援内容（支援メニューや体制等）の調査 ②開発途上国を対象としている各大学発SUの調査 ③上記①②を受けてJICA Bizの支援候補先の抽出、大学へ関与できる可能性を探る可能性の調査。 加えて、関連セミナーを実施した際に業務補助を実施する			
■参考情報 JICA Biz： https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/example/_icsFiles/afieldfile/2025/06/26/pr_pamph_new003.pdf JICA中部センター： https://www.jica.go.jp/domestic/chubu/index.html STATION Ai： https://stationai.co.jp/			
■参加(同行)可能な行事・視察等 大学へのインタビュー同行、関連セミナー等への参加			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～10月までの2～3カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：大学の夏季休暇期間を利用		可	週2回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	愛知県、静岡県、岐阜県、三重県の大学、大学院に在学		
望ましい	国際関係学、経営学、経済学、ビジネス関連学部・研究科の学生		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 インターンシップ期間中に空きがあれば中部センターの宿泊施設を利用いただけます。（5,300円/泊）			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国15
■部署名：	関西センター	■募集人数（人）	10
■課名：			
■テーマ			
関西における国内事業全般（総務課、研修業務課、開発大学院連携課、市民参加協力課、企業連携課のいずれかに配属）			
■テーマの概要			
<p>関西センターは、関西の2府4県（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）のJICAの拠点として、多岐にわたるパートナーとともに、開発途上国のリーダーを育成する事業、自治体・大学・NGO/NPO、企業など地域の皆さんの知見や経験を開発途上国の課題解決に活かす事業、次世代の国際協力人材を育成する取組みなどを行っています。中でも、阪神・淡路大震災の経験・教訓を様々な形で開発途上国に伝える取り組みは、関西センターの大きな特徴の一つとなっています。</p> <p>本インターンでは、関西センターが行うJICA事業、そして日本でできる国際協力事業について理解することを目的とします。インターンシップ中には業務チャレンジ（※）に取り組んでいただきます。JICA関西HP・SNSを参照の上、取り組んでみたいテーマや内容を具体的に提案ください。インターン生の研究分野・興味関心と各事業の年間スケジュールを考慮の上、配属課を決定します。</p> <p>※業務チャレンジ：インターン期間中にJICA関西の活動や調査、分析等に配属課担当者と共に取り組む</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>①各課の業務理解、②他インターン生との共通プログラム、③業務チャレンジ、④広報</p> <p>（各課の業務理解は以下を想定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 途上国の行政官・研究者等を招いての日本での研修（短期技術研修員受入事業） ・ 途上国の将来のリーダーとなるJICA留学生受入れ、日本文化理解プログラム ・ 自治体・大学・民間企業による国際協力への参画支援 ・ 一般市民や青少年が国際協力への理解を深めるための啓発事業 ・ 大学・高校・小学校との連携による開発教育支援事業 ・ NGO 支援事業 ・ 多文化共生・外国人受入支援 ・ SDGs推進 ・ イベント開催を含む広報事業等 <p>※各事業詳細はJICA 関西のHP、SNS(X、Instagram)を参照のこと。</p> <p>（共通プログラムは以下を想定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA関西連携団体・企業の視察（通年） ・ JICA関西秋祭り（秋頃） ・ ワンワールドフェスティバル（2月頃） 等 			
■参考情報			
<p>JICA関西ホームページ 更新情報 https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/information/topics/index.html</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
期間中に実施するイベント（市民向け、留学生や研修員向け、在留外国人向け等）、短期技術研修への同行、開発教育の講座への同行			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～2027年3月までのうち約2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：期間は応相談		不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Officeの操作経験		
望ましい	日常会話レベルの英語能力（TOEIC600点程度）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 外勤時の交通費（交通系ICカード貸出）			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2か月程度参加可能な方を歓迎いたします。 ・ 具体的に取り組んでみたい活動やテーマ等を応募申請書に記載して下さい。 ・ 空室があればJICA関西に宿泊可能です（1泊5,300円・朝ごはん付） 			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国16
■部署名：	中国センター	■募集人数（人）	2
■課名：			
■テーマ JICA中国センターの各種業務の支援活動を通じた広報の提案			
■テーマの概要 JICA中国センターでは、所管する中国地方5県を対象とした国内における国際協力を実施しています。具体的には、中国地方のリソースを活かした研修員の受入れ事業や海外協力隊員の募集広報に帰国してきた協力隊員の社会還元の取り組み支援、さらには民間企業の海外展開を後押しするような取り組みを行っています。また、中国地方に住む人々が、海外のことを知り、理解を深めるような開発教育を教育現場で行ったり、一般市民を対象としたイベントを開催するなどして、海外の事情について理解促進に取り組んでいます。一方、日本国内でこうした取り組みについて十分に知られていないことも事実です。当センターでも様々な形で広報に取り組んでいますが、今回のインターン期間で取り組んでいただく各課の業務補助活動を通じて、学生の視点から、広報の題材の提案や発信方法の提案いただき、更に多くの方に国際協力事業や海外のことについて知っていただく機会を提供できることを期待しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 以下の3つの課の業務を各1週間程度支援する活動を行っていただき、適宜、広報活動に取り組んでいただきます。 <研修事業関係（1週間程度）> ・短期研修コースの運営補助、事前準備の補助等、長期研修員や研修事業に関わる関係者へのインタビュー <市民参加協力事業関係（前半と後半に分かれて1週間から10日程度）> ・教員研修など開発教育事業への参加及び運営補助 ・各種イベント（土日を含む）の開催支援（サイエンスパーク施設公開など） ・施設訪問対応支援 <総務課関係（民間連携事業）> ・JICA Biz 2026年度公募の企業コンサルティングの事前準備補助 ・その他、国際協力イベントプログラムの提案			
■参考情報 インターンの業務の成果としてのHP掲載記事の例 https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/information/topics/2024/2024_s19.html https://www.jica.go.jp/domestic/chugoku/information/topics/2024/2024_s25.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 出前講座、JICA中国施設見学、市民向けイベント、教員研修、研修コースなど			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～9月中旬までの1カ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	自ら進んで業務に取り組む自主性、積極性があること		
望ましい	学生から社会人まで、多様な立場と年齢の関係者から自然な形で想いや取り組みを聞くことのできる傾聴力・質問力・コミュニケーション力		
望ましい	他のインターン、就職活動、アルバイトと重複をできるだけ避けること		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 中国センターのある東広島市西条にはホテルの数が限られることから、インターン合格後速やかに宿泊手配等を進めることを推奨します。広島市内から通う場合、車で約1時間程度と考慮しておいてください。また、JICA中国の宿泊施設に空きがある場合に限り、5,300円/泊（朝食付き）でご利用いただけます（要予約）。受入時期・期間は、相談の上、設定いたします。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国17
■部署名：	九州センター	■募集人数（人）	1
■課名：	総務課		
■テーマ 九州センター広報（ホームページ・SNS改善）			
■テーマの概要 九州センターの業務は全て広報とつながっている。九州センターは研修事業（短期の課題別や長期の大学院連携）、市民参加協力（海外協力隊員の募集・広報、出身地での支援・調整、開発教育、多文化共生、NGOや行政との連携）、企業連携（企業の海外進出による開発を支援する事業）を主に実施している。本インターンシップ実習では、九州センターのウェブサイトやSNS内容の改善を行うとともに発信方法やターゲット絞り込みについて提言し、実践する。合わせて九州センターの業務を多角的に捉え、広報全般について現状を把握、分析し、改善または新規提案を行い、これを実施する。ウェブデザインや構築、広報に関心がある方のインターン実習参加を求めている。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. JICA及び九州センターの組織目標の理解と把握。 2. 広報、特に九州センターウェブサイト、SNS発信に関する課題分析。 3. ウェブサイトおよび広報改善または新規提案。 4. ウェブサイトおよび広報改善または新規提案の実行。 5. 関係者への報告・共有。 広報には終わりがなく、また幅広いテーマであり、インターン実習生の外部から見える視点も活かしながら自由な発想と提案、実行が求められる。			
■参考情報 JICA九州のウェブサイト https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/index.html インスタグラム https://www.instagram.com/accounts/login/?next=https%3A%2F%2Fwww.instagram.com%2Fjica_kyushu%2F&is_from_rle Facebook https://www.facebook.com/jicakyushu/			
■参加（同行）可能な行事・視察等 JICA事業を理解するために、セミナー等の様々なイベント、研修や海外協力隊関係会議への参加を奨励する。例えば以下の通り。 1. 九州センターが実施する技術協力プロジェクトの活動に同行し、現場での業務を体験する。 2. 課題別研修の講義や討論に参加し、研修員との交流を通じて異文化理解を深める。 3. 九州地域の自治体や企業等が実施する国際協力関連のイベントや活動に参加し、多様なステークホルダーとの連携を学ぶ。			
■受入時期・期間			
2026年8月～2027年2月までのうち2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：上記より短い期間・長い期間希望の場合、要相談。		可	週3回、3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語及び英語以外の外国語		
望ましい	デッサン力、デザイン力、Webデザイン・構築経験		
望ましい	九州の発展への関心を有すること		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		2,600円/泊	
■備考・留意点 企業・組織・事業所広報に関心がある方、ウェブデザインや分かりやすい情報発信のあり方に関心がある方の応募を期待しています。 ・必要に応じ、JICAセンターへの宿泊も可能（5,300円/泊（税込・朝食込）学生割引あり2,600円）。 ・研修旅行（複数日）の地方への研修同行も可とするが、旅費・宿泊費等についてはインターン負担。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国18
■部署名：	九州センター	■募集人数（人）	1
■課名：	研修業務課		
■テーマ 開発途上国の課題解決に向けた途上国行政官向け技術研修のモニタリングおよび運営支援（実施補佐、広報、研修改善等）			
■テーマの概要 以下3テーマから選択可（複数選択可）。 ①JICA研修事業における「研修コース」の運営補助を通じ、途上国が抱える課題（環境・保健・行政等）と、それに対する日本の解決策（九州の技術・ノウハウ）のマッチング現場を体験する。研修員がどのように学び、自国の課題解決計画（アクションプラン）を作成するか、そのプロセスに伴走する。 ②研修事業は「実施して終わり」ではなく、その成果を国民や地域のステークホルダーに正しく伝える必要があることから、第三者（インターン）の視点で、研修の魅力や、受入先（九州の企業・自治体）にとってのメリットを取材し、広報記事やSNSコンテンツを作成する。 ③実施中の研修コースをアカデミックな視点、あるいは若者の視点から分析し、より効果的な学習方法（アクティブラーニングの導入、教材のDX化など）や、研修員の満足度向上施策について調査・提案を行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容 以下の活動から選択的に実施する事も可。また、インターンの興味・関心から相談して活動内容を決定する。 ・研修同行、モニタリング：講義や視察（行政機関、民間企業、現場等）に同行し、研修員の理解度や反応を観察・記録する。 ・ロジスティクス管理：研修員受入に係る事務手続きの補佐、研修準備・通訳補助（英語等可能な場合）等。 ・コース評価分析：研修終了後のアンケート集計・分析を行い、次年度への改善提案を行う。また、アンケート実施方法のデジタル化なども併せて検討・実施する。 ・取材活動：研修員へのインタビュー（「何を学び、どう自国を変えたいか」）、および受入機関へのインタビュー（「受入のメリット、国際化への効果」）。 ・広報記事の執筆：JICA九州のウェブサイトやFacebook、Instagram、広報誌等に掲載する記事案を作成する。 ・広報ツールの作成：研修の様子をまとめたショート動画の撮影・編集、またはパンフレット等のデザイン案の作成。 ・地域連携イベントの企画補助：地域住民や学生と研修員の交流イベントの企画立案・運営補助。 ・その他			
■参考情報 ・JICA九州： https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/index.html ・JICA九州 研修事業： https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/activities/kenshu/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・参加可能な研修コースは受入時期による。 ・インターン期間中に実施中の研修コースへの同行となるため、時期決定後に詳細研修等を決定。 ・他課や外部イベント等への参加も推奨。			
■受入時期・期間			
2026年7月中旬～9月までの2週間～2か月半程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：インターン希望および研修コース実施状況に合わせて検討・調整	可	週2-3回/2週間～2か月半程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	TOEIC500点または同等程度の英語力。ただし、語学力以上にコミュニケーションへの意欲を重視します。		
望ましい	関心領域：国際協力、国際経済、地域活性化、多文化共生等に関心がある方。		
望ましい	PCスキル：Word、Excel、PowerPointの基本操作ができる方。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		2,600円/泊	
■備考・留意点 ・受入時期、期間等については相談の上で決定する。 ・必要に応じ、JICAセンターへの宿泊も可能（5,300円/泊（税込・朝食込）学生割引あり2,600円）。 ・研修旅行（複数日）の地方への研修同行も可とするが、旅費・宿泊費等についてはインターン負担。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国19
■部署名：	九州センター	■募集人数（人）	2
■課名：	市民参加協力課		
■テーマ 九州地方の市民参加協力事業の一般市民へのアウトリーチ強化、各種企画の立案及び実施支援			
■テーマの概要 JICA九州の市民参加協力課では、九州地方の開発教育/国際理解教育業務、草の根技術協力事業、JICA海外協力隊事業に関して、市民の参加促進に向けた各種企画の立案・実現に取り組んでいる。これらの事業について魅力を発信し、新たな関心層の掘り起こしを推進しているが、学生インターンの関与を得ることで、新しい視点を生かしたアイデアを取り込み、実行に移すことが常に必要となっている。			
■具体的なインターンシップ活動内容 市民参加協力課が担当する草の根技術協力・JICA基金、開発教育/国際理解教育、JICA海外協力隊事業について、以下に取り組む。 【草の根技術協力・JICA基金事業】①案件実施監理や案件形成関連業務（本邦研修同行、進捗モニタリング会合、中間・終了時報告会、草の根応募相談等）への参加・補助を通じて、提案事業の新たな魅力を見出し、広報発信の提案。②実施団体連絡会や関心団体向け等の勉強会等の企画・実施支援。③潜在的な提案団体の掘り起こしに向けた情報収集、分析。 【開発教育/国際理解教育】①JICA九州が取り組む開発教育事業・イベント等の補助、②開発教育の潜在的ユーザーへのアウトリーチ強化に繋がる各種グッズの企画と製作（参考：2024年度では、学生インターンがJICA九州SDGsカルタを企画・製作、2025年度学生インターンはInstagram等への動画を活用した発信に取り組む）*完成品は以下「参考情報」を参照。） 【JICA海外協力隊】将来的な協力隊事業への参加者発掘のための広報発信。協力隊事業の魅力、帰国後隊員の活躍の発信。協力隊関連のイベント企画、支援。			
■参考情報 開発教育/国際理解教育：JICA九州SDGsカルタ（2024年度学生インターン企画・製作） https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/activities/kaihatsu/index.html#karuta			
■参加(同行)可能な行事・視察等 インターン活動の開始時期にもよるが、インターン期間中の以下への関与が想定される：①高校生国際協力実体験プログラム、②教師海外研修に関する事前研修、③開発教育指導者研修（全4回シリーズ）、④わっしょい百万夏祭り（JICA参加グループ部分）（2026年9月開催予定）、⑤草の根技術協力・JICA基金関連の企画イベント等への参加、その他。			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月までの2～3カ月間/2027年1月～3月までの2～3カ月間のいずれか		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：各種企画の立案・実施に必要な期間の確保。		可	週3～5回、2～3ヶ月間/程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	基本は日本語による会話や書類対応であるが、英語資料を読むことに意欲的であることが望ましい。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 原則として対面。			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		2,600円/泊	
■備考・留意点 ・インターンシップ期間中（一部期間でも）希望があれば九州センターの宿泊施設を利用いただけます。（インターンシップ学生特別料金2,600円/泊、朝食付）			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国20
■部署名：	沖縄センター	■募集人数（人）	1
■課名：	研修業務課		
■テーマ 中南米地域の日系社会と沖縄の連携強化及び日系社会の活性化			
■テーマの概要 1899年の沖縄県の海外移民開始から、126年が経過しようとしている。現在、中南米における日系移住地では、日系3世、4世と世代交代が進み、ルーツである「沖縄」を感じるできない世代が増えている。こうした背景を受け、JICA沖縄では中南米日系社会の次世代のリーダー達を対象とした日系社会研修「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化」を実施している。研修では沖縄の歴史や文化を学びながら、自身のルーツを再確認し、帰国後、沖縄文化継承、ウチナーネットワーク強化に向けた活動を行うための計画作成を行う。 日本有数の移民県である沖縄県は、各国の日系社会・県系社会とのつながりを重要視しており、ルーツ調査の取組み、次世代ネットワーク継承に向けたプラットフォーム設置、移民関連の公文書の公開、「世界ウチナーンチュ大会」の開催等、様々な取組みをしている。本プログラムでは研修への参加、研修員へのインタビュー等を通じ、中南米地域と日本、沖縄の日系社会連携強化について学び、沖縄県の取組みとJICA日系社会研修との相乗効果、研修の改善点や取り入れるべき項目をレポートにまとめ、発表する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・日系社会研修「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化」への参加、研修運営の補助（10月上旬～11月上旬） ・上記研修への参加を通じ、研修運営サポート及び研修員間で行うディスカッションのサポート、参加など、研修の質の向上に寄与する活動 ・県が主催する日系社会連携関連、世界ウチナーンチュ大会関連イベントへの参加、運営サポート ・上記、日系社会研修の実施内容をJICA沖縄・インスタグラム等で発信すること（広報） ・その他、参加者が本インターンで実施したいことがあれば、随時ご相談いただき、その都度検討しながら進めていきます			
■参考情報 ・本研修はスペイン語で実施されますので、講義（日西通訳あり）をはじめ研修員との日常会話はスペイン語で行われます（ただし、スペイン語能力を必須とはしていません）。 ・本研修は「沖縄」の歴史・文化を学び、気づきを得ることを目的としていますので、インターン参加者自身も沖縄の歴史・文化について基礎的な認識があること、また積極的に学ぶ姿勢があることが望ましいです。 ・機会があれば、近隣在住者は事前に「JICA横浜移住資料館」への訪問をおすすめします。 ・「世界のウチナーンチュ大会」の概要について調べておくと本研修への理解が深まります。			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・JICA沖縄では参加いただく研修のほかにも多くの研修を実施しています。基本は日系社会研修に参加いただきたいと考えていますが、参加者から要望があれば、そのほかの研修を見学することも排除せず検討することができます。			
■受入時期・期間			
2026年10月上旬～11月上旬までの1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：基本はJICAの日系社会研修への参加となるため・期間詳細は未定だが、研修全日程の参加が望ましい	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式 <input type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 ■参考：宿泊費 ・JICA沖縄センターの宿泊費は朝食込みで5,300円/泊。 ・JICA沖縄センターから徒歩5分の距離にモノレール（経塚駅）があり、そこから20分以内の都心周辺にはウィークリマンションもあり素泊まりで5,000円～で宿泊可能な施設を見つけることができます。ただし、都心周辺の宿泊施設は価格が高騰していますので、ご注意ください ■インターン前の準備 ・オンライン事前打合せ実施： インターン実施前にリモートで打合せを行い、インターン内容の説明、参加前に準備すること、インターンにかかる質問応答を設ける予定です。 ■その他 （参考）本インターン参加者より、インターン前にしておけば良かったこととして下記3点があげられています。 ①JICA日系社会研修事業について概要を事前学習しておくべきだった（ https://www.jica.go.jp/overseas/america/outline.html ） ②海外移民の歴史について知ること。具体的には、JICA横浜にある海外移住資料館に行くべきだった。（ https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html ） ③インターン指導担当者にインターンシップ前にやるべきことはないか質問をしてみる（いつでも大歓迎です！！）。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国21
■部署名：	沖縄センター	■募集人数（人）	1
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
沖縄の地域保健医療における県内リソース調査			
■テーマの概要			
<p>沖縄戦後の地域保健医療開発の経験を途上国への国際協力に活用する方針を示した報告書が2000年3月に作成されました。沖縄は戦後、亜熱帯性気候や島嶼性という条件下で、保健医療体制の整備、人材育成、看護大学設立などを進め、マラリア・フィラリアなど感染症の撲滅を行政と住民の協働で達成し、地域保健活動のモデルを形成しました。同報告書は世界の保健課題（母子保健、感染症対策）を整理した上で、日本の国際保健協力の知見（PHC重視、貧困対策、人材育成）と経緯、今後の課題をまとめ、沖縄の経験を援助マニュアル化し、研修や民間連携に活用することを提言しています。</p> <p>現在も保健医療分野の研修事業は、JICA沖縄における代表的な事業の1つであり、複数の研修プログラムを実施していますが、報告書は25年前に作成されたものであり、現在の国際保健における動向および県内の医療事情を踏まえた内容の更新が必要です。本インターンシップでは、主に研修事業で連携する県内リソースへのインタビューや訪問（研修同行）を通じて、各機関の現状と強みを分析し、可能であれば、今後のJICA沖縄の保健医療協力への提言をまとめます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
具体的な活動内容			
<p>文献・資料分析 ・2000年報告書の読み込み、沖縄県内の医療事情、保健医療分野協力への参画に関する最新動向の把握</p> <p>フィールドワーク 研修受入機関（医療機関、大学、研修受託先、JICA沖縄）への訪問・ヒアリング、研修プログラムへの参加（記録、分析・考察）、保健医療分野における県内リソースの強み・課題の整理、沖縄の知見の調査</p> <p>成果物作成 調査結果、（もしあれば）JICA沖縄への提言</p>			
■参考情報			
<p>・援助手法調査研究「沖縄の地域保健医療における開発経験と途上国への適用」報告書（2000年3月） （https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/11587102.pdf）</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
<p>・インターン実施期間中にJICA沖縄で実施している研修（特に保健医療分野）に同行することが可能です。</p>			
■受入時期・期間			
2026年9月下旬～12月上旬までの間で1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可（期間詳細は未定）		可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	国際保健協力、公衆衛生に関する知識		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
<p>■参考：宿泊費 ・JICA沖縄センターの宿泊費は朝食込みで5,300円/泊。 ・JICA沖縄センターから徒歩5分の距離にモノレール（経塚駅）があり、そこから20分以内の都心周辺にはウィークリマンションもあり素泊まりで5,000円～で宿泊可能な施設を見つけることができます。ただし、都心周辺の宿泊施設は価格が高騰していますので、ご注意ください。</p> <p>■インターン前の準備 ・オンライン事前打合せ実施： インターン実施前にリモートで打合せを行い、インターン内容の説明、参加前に準備すること、インターンにかかる質問応答を設ける予定です。</p>			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（国内）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	26-2国22
■部署名：	青年海外協力隊事務局駒ヶ根青年海外協力隊訓練所	■募集人数（人）	1
■課名：	業務課		
■テーマ			
駒ヶ根訓練所の活動体験及びファブラボ設置検討とJICA海外協力隊の活動における3Dプリンター活用調査			
■テーマの概要			
JICA駒ヶ根訓練所におけるファブラボ（デジタル工作機器を備えた小規模工房）設置の可能性を検討し、JICA海外協力隊の訓練生が途上国で役立つ技術を学べる場の提案を行います。また、今後、駒ヶ根訓練所に導入予定の3Dプリンターを用いて基本操作を習得し、簡単なサンプル品（教育・農業・生活改善に役立つアイデア）を制作します。さらに、ファブラボの設置に必要な要素（機材配置、安全管理、運営ルール）や、訓練所での活用メリットを調査し、簡易提案をまとめます。JICAボランティア事業を現場で学びながら、国際協力の現場で活用できるアイデアを考える実践的な機会を提供します。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・訓練所の活動体験：JICAボランティア事業を学ぶ活動（派遣前訓練体験、市民参加イベントの体験、国際理解教育の現場体験等） ・3Dプリンターの基本操作習得：（データ準備、出力、後処理）、安全管理の理解 ・サンプル制作：途上国で役立つような簡単なアイテムを2～3点制作（例：補修部品、教育用教材等） ・調査活動：国内外のファブラボ事例を簡単に調べ、訓練所での活用可能性を整理 ・提案作成：訓練所におけるファブラボ設置の可能性、簡易提案（必要機材、安全対策、運営ルールの概要）をまとめる ・報告・発表：最終日に活動報告と作成した簡易提案を所内向けに発表 ・ファブラボや3Dプリンターに関する知識は不要 ・大学1・2年生歓迎 			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html https://www.jica.go.jp/domestic/komagane/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
JICA海外協力隊派遣前訓練			
■受入時期・期間			
2026年9月～11月までの3カ月間/2027年1月～3月までの3カ月間のいずれか/2～3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：JICA海外協力隊派遣前訓練の実施期間が望ましい		不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	パソコンでの業務が支障なく行えること（ワード、エクセル、メール、ファイルメーカー等）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 宿泊は訓練生用の居室（個室）を利用可能、食事は訓練所食堂の利用または自炊が可能			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
訓練所の食堂を利用する場合は1,700円/日（朝食400,昼食700,夕食600）		2週間の滞在で10,000円～15,000円程度	
■備考・留意点			
派遣前訓練期間中に訓練所宿泊棟に滞在することから、訓練規則に準じた生活となる旨ご承知おき下さい。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在01
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 東南アジア		■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	インドネシア事務所		
■テーマ インドネシアの海藻資源を活用した持続可能なブルーエコノミー振興に貢献する技術協力プロジェクト補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 インドネシアは世界第2位の商業海藻の生産量を誇るとともに、多様な未利用海藻種も有しており、これらの海藻資源を持続的に高度利用することが期待されている。食品などの産業分野で、海藻を原料とした付加価値の高い機能性製品を環境負荷の少ない方法で効率的に生産するための学術的知見を開拓・集約し、得られる知見を活用した高度な海藻の栽培法と加工技術を開発し、海藻資源の産業利用に向けた生産基盤技術を開発する。また、海藻養殖から加工、機能性製品の製造まで一連の基盤技術開発と環境影響評価・経済分析を行い、海藻資源の多角的な産業利用を促し、持続可能な海洋経済活動である“ブルーエコノミー（海洋や水域に関連する持続可能な経済活動）”を地球規模で振興する海藻の高度利用基盤モデルをインドネシアで構築する。 当インターンシップでは、当プロジェクトで取り組んでいる海藻の有効利用に向けた海藻加工技術の開発に関する補助活動を行うことを通じ、JICA 事業への理解を深め、幅広い分野での国際協力人材を志向する人材を養成することを狙いとする。			
■具体的なインターンシップ活動内容 海藻からの増粘多糖および機能性成分の効率的な抽出・加工プロセスの開発 活動場所：ジャワ島ジャカルタ南タンゲラン インドネシア国立研究革新庁（BRIN） Serpongおよび近郊の海藻養殖地；スラウエシ島マカッサル ハサスディン大学および近郊の海藻養殖地 活動内容： ・海藻から増粘多糖と機能性成分の両者を効率的に抽出するプロセス開発の補助 ・海藻の栽培条件や抽出条件による増粘多糖の特性に対する影響評価に関する研究補助 ・海藻に含まれる新規機能性成分の探索に関する研究補助			
■参考情報 https://www.jst.go.jp/global/kadai/r0507_indonesia.html https://www.jica.go.jp/oda/project/202209823/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 プロジェクトの研究グループによる研究開発ミーティング（インドネシアと日本の研究者が参加）および実施機関におけるミーティングへの参加、海藻の養殖・加工流通事業者の視察			
■受入時期・期間 2026年9月～11月までの2カ月間程度 上記期間外含めて調整可 理由：受け入れ機関の研究進捗状況などにより受入れ時期・機関の調整が必要			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学院生			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	実習に必要な英語能力を有すること。		
必須	インターンシップ活動内容に関する専門基礎知識を有すること。		
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 必須となる予防接種は無し 推奨する予防接種は外務省の下記HPを参照 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/indonesia.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在所：インドネシア国 ジャワ島 ジャカルタ 南タンゲラン Serpong、スラウエシ島 マカッサル 治安情報：在インドネシア日本国大使館の下記HPを参照 https://www.id.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html 渡航にかかる標準経路：成田または羽田ージャカルタ（直行便）、ジャカルターマカッサル			
■備考・留意点 Student Company Internship (Single Visa C22A) (180日間有効の企業インターンシップビザ)の取得が必須。金額はビザ本体IDR 4,000,000（約3.6万円）+発行手数料IDR3,000,000～6,000,000（約2.7～5.4万円）（2026年1月時点）であり、インターン生の自己負担となる。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在03
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 東南アジア	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	カンボジア事務所		
■テーマ			
「あなたの専門性×JICAカンボジア」カンボジアを「現場」として考える 実践型リサーチ・インターン			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
テキストの中だけではなく、いま動いている社会を現場で見て、考える。本インターンでは、カンボジアフィールドに学生自身が興味を持つテーマを設定し、調査・分析・整理までを主体的に実施して頂きます。事務所は必要な助言やサポートは行いますが、「何を知りたいのか」、「何を明らかにしたいのか」はご自身で考え、提案してください。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・自身の関心に基づく研究テーマの設定・整理 ・文献・資料調査、公開データの分析 ・現地関係者や事務所スタッフからの情報収集・ヒアリング ・定期的なディスカッションによる方向性の確認・助言 ・滞在期間終了時の成果共有（簡単なレポート、またはプレゼンテーション等） 			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/overseas/cambodia/office/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
研究テーマに関連するJICAプロジェクトの視察、関係者との意見交換			
■受入時期・期間			
2026年8月～10月の間の約1ヶ月間			
上記期間内での調整可	理由：査証の関係で滞在期間は28日間前後で調整		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	主体的に取り組む姿勢・意欲		
望ましい	英語でコミュニケーション出来る場合が多いですが、クメール語が理解出来ればなお望ましい		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須）	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000～4,000円/日		7,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
無し			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
外務省安全情報を参照。プノンペンへの直行便は無く、ベトナム、香港、韓国、タイ、シンガポールを経由するのが一般的 https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_004.html#ad-image-0			
■備考・留意点			
宿泊先はJICAカンボジア事務所周辺に複数ありますが、事務所を通じて予約することで600USドル/月で宿泊出来る場合もあります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在04
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 大洋州	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	パラオ事務所		
■テーマ ODAが深める「トクベツ」な絆～日本・パラオの関係強化に向けた検討及び広報活動			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 パラオは人口18,000人の小島嶼国、世界有数の美しい海、豊かな自然環境で知られています。1914年～1945年にかけて日本に委任統治されていた歴史があり、その名残で今も日本語由来の言葉が多くパラオ語として使われています。「トクベツ」もその一つです。第二次世界大戦ではペリリュー島等が激戦地となり、その後米国による信託統治を経て1994年に独立しました。JICAは1997年に拠点を構え、以来30年弱ODAを通じ日バ関係の強化に貢献してきました。最近では、日本統治時代のことを知る方は数少なくなり、日本人観光客も2010年代をピークに減少傾向が続くなど両国関係を考える上での社会的な変化も現れていました。そうした中、戦後80年が経過、2025年10月には成田→パラオの直行便が就航、JICAとしては2027年に拠点設立そしてJICA海外協力隊事業30周年という重要な節目を迎えています。本インターンシップではこうした背景を踏まえ、今後も日バ関係を維持・強化するためにODAのできる協力や有効な広報について日々の活動を行う中で考えを深めてもらえればと思います。			
■具体的なインターンシップ活動内容 関心分野や渡航希望時期、事業進捗状況等によって実施可能な活動は変動しますが、以下のような分野が考えられます。実際の活動はこれに限らず、どのような分野を中心に関与したいかも相談可能です。 ・ 広報（拠点開設・協力隊事業）：2027年の拠点開設、協力隊事業30周年を控え、これまでの協力実績を振り返るとともに更なる発展に向けて周年記念イベントの企画・運営や広報強化に向けた準備作業に関与いただく。 ・ 観光、遺跡保全・活用、産業振興：JICAは観光局に専門家を派遣するとともに、その他の協力においてもパラオ経済の要である観光振興に繋がる活動を積極的に企画している。また、日本統治時代の遺産を有効に保存・活用するための協力についても検討中である。今後どのような活動を強化すればパラオが日本の若い世代にとってより魅力的となるか、サステイナブルな観光を推進できるか、調査チームや専門家の活動に同行しながら、分析・提案いただく。他方、パラオでは観光業以外の産業育成も必要のため、観光と掛け合わせた新たな産業の検討や観光業以外の産業にかかる調査、プロジェクトへの関与も考えられる。			
■参考情報 現在パラオでは2件の無償資金協力（インフラ）と約10件の多様な分野での技術協力（環境・農業・観光・保健・水産・インフラ等）を実施しており、約30人の協力隊員も多様な分野（教育・保健・文化・環境等）で活動しています。			
■参加（同行）可能な行事・視察等 各種協力隊員の活動や関連のイベント（時期未定）、遺跡保全・活用に関する調査（時期未定）、観光専門家の活動、ペラウ・エコグラスセンター（廃瓶を利用したガラス細工）の活動等			
■受入時期・期間 2026年9月～12月/2027年1月～3月中旬のうちいずれか1か月程度 上記期間内での調整可 理由：年末年始はパラオの休日期間と重なるため不可。日本と比べ物価が高いため滞在費の負担を考慮し1か月程度を想定。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 放し飼いされている犬や野良犬が多く、街ですれ違うこともよくあるため（※狂犬病の危険はほとんどないとされています）、犬が極端に苦手な方はあまりお勧めしません。			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： 事務所内デスク			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
5,000円/日		6,000円～15,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 特になし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 コロール島内にあるJICAパラオ事務所から徒歩圏内に滞在いただけます。日本人観光客も多く、治安は比較的良いとされていますが、凶悪事件の発生例もあるので注意が必要です。標準的な経路は成田⇒パラオ（週2便）、または成田⇒グアム・台北⇒パラオです。			
■備考・留意点 パラオは一般的に物価が高く、上記のとおり滞在費用は高額になりがちである点にご留意ください。1泊6,000円はマンスリー契約のホテルに空きがあった場合の価格（月1,200ドル）、15,000円は一般的に出張者が利用するホテルの価格帯です（1泊100ドル前後）。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在05
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	東・中央アジア	■募集人数（人）	4
■部署名/事務所名	中華人民共和国事務所		
■テーマ			
中国対外援助機関との交流、政策・援助動向に係る情報収集・分析業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
2022年3月に対中ODAは終了し、現在JICA中国事務所では「新しいODA卒業国との連携にかかるグッドプラクティスの創出」と「中国対外援助機関との交流、政策・援助動向に係る情報収集・分析」を二本柱に業務を実施している。 中国の対外援助は、その存在感がますます大きくなっていることから、JICA内外からの関心・注目度が非常に高いテーマである。中国の対外援助に関する情報を開発機関の視点から継続的に収集・分析することは、JICAにとって重要な業務であり、当事務所としてはこの新たな取り組みを試行錯誤しつつ実施しているところである。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
中国対外援助にかかる公開情報の収集と分析。中国事務所の指示に基づき、中国内外の論文等に加え、現地報道や論説などから多角的に情報を収集し、分析する。また、中国国内で活動するマルチ・バイのドナーの動きについても必要に応じて情報収集する。インターン期間中に要人訪問やフォーラム開催などの対外援助にかかるイベントがあれば、その情報についても収集する。また、関連機関との面談などがあれば同席予定。			
■参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
中国研究機関・シンクタンク・他ドナー（EU、GIZ等）との面談や関連のフォーラムがあれば参加可 対外援助関係以外にも、活動期間内に所内の出張やイベントがあれば、参加可			
■受入時期・期間			
2026年8月の1カ月間程度/2027年1月～3月までの1カ月間程度のいずれか			
上記期間外含めて調整可	理由：		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	中国の対外援助に関心がある学生（学部・修士・博士）		
必須	リサーチ業務が遂行可能な日本語（ネイティブもしくは日本語N1取得者）及び中国語能力（ネイティブもしくは中国語HSK6級以上取得者）を有する者		
必須	国籍不問。中国国籍者以外（日本人を含む）の場合、インターン期間に留学ビザを取得し中国滞在が可能であること。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須）	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		5,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
特段なし（北京市内）			
■備考・留意点			
・インターン期間は合格後本人と調整可。 ・既に現地に滞在されている方を対象としているため、滞在費及び渡航費の補助はありません。 ・ビザ取得が困難なことが予想されるため、①就学ビザを取得済みで中国に滞在中の学生、あるいは②中国国籍保持者等中国での滞在に必要な資格を既に持つ学生を対象とします。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在06
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 東・中央アジア	■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	モンゴル事務所		
■テーマ			
日本とモンゴルの2国間交流事業への参画を通じた共創と還流（市民参加事業）に係わる業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>共創と還流（市民参加事業）に係る業務補佐を通じ、モンゴルにおけるJICA事業や、JICAが「すべての人々が恩恵を受ける、ダイナミックな開発」を実現する使命として掲げている、「人間の安全保障」についての理解を深めてもらうとともに、モンゴルの団体・個人と交流することでモンゴルへの興味関心を高めてもらうことを目的とする。</p> <p>2022年に日モ外交樹立50周年という節目を迎え、両国間の関係は「平和と繁栄のための特別な戦略的パートナーシップ」に格上げされ、10年間（2022～2031年）の様々なレベルでの行動計画が策定される等、両国間の交流は益々盛んになってきている。モンゴルの現地NGOや大学、日本語教育機関などと連携・協力を希望する日本の大学、高校、NGO、個人からJICAへの問い合わせも増えており、市民参加事業は一層重要になることが見込まれる。</p> <p>今回のインターンシップ・プログラムで日本とモンゴルの市民レベルの協力と交流の一面に携わることにより、インターン生のキャリアプランに国際協力活動を視野に入れるきっかけになることが期待される。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>1) モンゴルにおいて、社会の中で取り残された脆弱層が抱える格差問題を踏まえた、人間の安全保障の現状や課題（特に教育、子供の保護、ジェンダー、社会保障、保健医療分野等）について、モンゴル国内の関係機関の他、JICAや国際機関の報告書やデータから、現状課題の情報収集・分析を行う。</p> <p>2) 上記課題分析に関連する、JICA草の根技術協力事業のカウンターパートを含めた現地の草の根団体の活動に参加し、現状課題に対して理解を深めると共に、解決策の検討、また今後のJICAによる人間の安全保障の促進に向けた取り組みについて提言書を作成する。</p> <p>3) 上記の他、市民参加事業の活動として、夏季に集中する本邦大学生・高校生のスタディーツアー受け入れ対応（会場準備等）、毎年8月に開催される日本紹介イベント・ジャパンフェスティバルにおけるJICAブース出展準備（日本文化紹介等）の業務補佐と、事務所Facebook投稿記事作成などの活動をおこなう。</p>			
■参考情報			

<https://www.jica.go.jp/overseas/mongolia/index.html>

■参加（同行）可能な行事・視察等	
ジャパンフェスティバル、ビジネスフォーラム	
■受入時期・期間	
2026年8月～9月までの1ヵ月程度	
上記期間内での調整可	理由：
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）	
大学生	
■応募資格以外に受入れに関し求める要件	
■提供可能な執務環境等	
<input type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：	
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）	■宿泊費目安
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。	
2,000円/日	13,000円/泊
■渡航にあたり必須となる予防接種	
（任意）A型肝炎、B型肝炎、ポリオ、狂犬病、麻しん	
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路	
在モンゴル日本大使館よりの安全の手引き https://www.mn.emb-japan.go.jp/files/100733183.pdf	
■備考・留意点	

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在07
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 東・中央アジア	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	キルギス事務所		
■テーマ JICAキルギス共和国事務所の広報活動の強化/事業運営の補佐業務			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 キルギスは1991年の独立後、中央アジア諸国の中でもいち早く民主化、市場経済化を推進しましたが、金以外の有力産品の不在や投資環境の未整備等により、十分な外口投資を誘致できなかったことから安定した経済成長の軌道に乗れず経済は停滞しています。JICAは持続的かつ均衡のとれた経済成長への支援のために、経済成長のための基盤整備として主に運輸インフラ整備、農業・農村開発、市場経済化に資する人材育成の分野で協力を、また、社会サービスの向上のために医療体制の改善等への協力を実施しています。JICAキルギス共和国事務所では、兼轄するカザフスタン共和国の事業も含めて、JICAの取り組みやその成果をキルギス共和国・カザフスタン共和国の事業関係者から一般の方々まで、幅広く認知してもらい、日本、日本のODAに関心をもってもらうことを目的に、Instagramを中心とした媒体で広報活動を行っており、本業務は当広報活動を支援することを主目的に実施するものです。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 広報記事の作成：①既存情報、所内事業担当・専門家等へのインタビュー等を通じて、対象国（キルギス・カザフスタン）のJICA事業を把握し、対象国の国民にJICAの取組の認知度向上を目的として、事務所が運営するInstagramへの掲載を想定した広報記事の素材・トピックを20個程度リストアップする。②上記リストの中で応募者の関心の強い素材を4～6程度選定し、広報記事の作成工程・方法を検討し、それに基づき広報記事案を作成する。 2. 広報強化のための今後の取り組み案の整理：①上記1-①で作成した広報素材のリストについて、広報記事作成時の記事作成の観点や、広報のポイントを簡潔に整理する。②事務所が運営するInstagramの過去の投稿について、アクセス数と広報記事の特性の関連性を分析し、広報強化を図るための取組や現行の広報運営における改善点を提案する。 3. その他：事務所のニーズに応じて、セクター情報収集・分析、本邦からの調査団の受け入れ、セミナー実施等の事業運営に係る業務の支援。			
■参考情報 キルギス共和国における取組； https://www.jica.go.jp/overseas/kyrgyz/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 JICAキルギス共和国事務所、またはキルギス共和国でJICAが実施しているプロジェクト等が主催するセミナー・イベント等。関心の強いプロジェクトがあれば、プロジェクト側の都合も考慮して、プロジェクトサイト等への視察等も調整が可能な範囲で対応する。			
■受入時期・期間 2026年8月～12月までの1～2カ月程度 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	十分なコミュニケーション能力（英語、ロシア語、またはキルギス語）		
望ましい	SNSの取り扱いに慣れている、または、個人の活動も含めSNSを利用・運用した経験がある。		
望ましい	我が国のODA事業の概要に係る理解		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,500円/日		14,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 厚生労働省が推奨する予防接種。必須の予防接種はない。 https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html			
■滞在場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在場所はビシュケク市、勤務場所はJICAキルギス共和国事務所、渡航にかかる標準経路は、東京⇄イスタンブール/ドバイ⇄キルギス、現地治安状況の参考（外務省 危険情報）： https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsphazardinfo_265.html			
■備考・留意点 ・JICA職員随行のもと、地方への出張が1～2回実施される可能性があります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在08
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 東・中央アジア		■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	タジキスタン事務所		
■テーマ JICAタジキスタン事務所に広報業務補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 2026年に拠点設立から20周年を迎えるタジキスタン事務所において、広報の業務補助を行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容 拠点設立20周年を記念し、タジキスタン国内におけるJICAの認知度向上を目指した各種の広報活動を想定しており、その補助業務を行う。具体的には、記念式典の開催やプレスカンファレンスの実施、記念冊子やアメニティの制作の補助などを想定。但し、受け入れのタイミングによって活動内容が変わる可能性あり。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/tajikistan/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 20周年記念式典やプレスカンファレンス。（但し、受け入れのタイミングによるため参加を保証するものではない。）			
■受入時期・期間 2026年9月～10月までの1カ月間 上記期間外含めて調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,500円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 渡航にあたり必須となる予防接種はない。推奨される予防接種については、厚生労働省のHPを参照。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在所：ドゥシャンベ市内 https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo_2025T060.html#ad-image-0			
■備考・留意点 受け入れ時期は調整可能だが、ラマダン時期（2027年は2月上旬から3月上旬）の受け入れは不可。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在09
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒ 南アジア		■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	バングラデシュ事務所		
■テーマ 教師海外研修受入にかかる各種作業と事前視察及び研修同行			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 8月上旬から中旬に実施を予定している教師海外研修のバングラデシュ側の受入担当として、参加する日本の教員にとって実りある研修となるための準備及び研修実施時の同行を予定。本インターン終了後、機会があれば教師海外研修参加教員の学校での出前講座の実施や参加教員の実践授業視察も実施する。本インターンは海外の現場と日本の開発教育の現場をつなげる役割を担うことを目的とする。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・ 担当スタッフとともに教師海外研修の現地視察先との調整及び事前視察実施 ・ 国内センターとの教師海外研修実施に向けた事前調整 ・ 教師海外研修同行 ・ 研修に関するバングラデシュ国内での広報（事務所フェイスブック投稿、報道機関へのプレスリリース等） ・ 教師海外研修実施後の振り返り及び次年度以降の実施に向けた提言案作成 ・ （機会があれば）バングラデシュでのインターン終了後の教師海外研修参加教員の所属先学校での出前講座 ・ （機会があれば）バングラデシュでのインターン終了後の教師海外研修参加教員の実践授業視察			
■参考情報 JICA東京 教師海外研修 https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/activities/kaihatsu/kaigaikenshu/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 教師海外研修			
■受入時期・期間 2026年8月（1ヶ月間程度） 調整不可 理由：本インターンは教師海外研修（8月上旬）の受入にかかる作業を実施いただくことになるため。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 必須 英語によるコミュニケーション			
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急連絡用携帯電話貸与（ <input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		6,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 必須はなし。破傷風、狂犬病は推奨。			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_012.html#ad-image-0			
■備考・留意点 2025年12月現在、バングラデシュは外務省の危険度レベル1となっているがレベル2以上になった場合は本インターンの受入は難しい。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在10
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ドミニカ共和国事務所		
■テーマ カリブ地域気候・農業ファイナンス案件形成・モニタリング			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 本インターンシップでは、JICAの仕事の醍醐味である新規プロジェクトの形成、実施中事業のモニタリングに関する活動に取り組む機会を提供します。 【案件形成】ドミニカ共和国及びCARICOM（カリブ共同体）諸国では、ハリケーンや洪水などの自然災害が増え、気候変動への対応が急務となっています。本インターンシップでは、途上国の気候変動対策を支援する世界最大級の国際基金であるGCF（Green Climate Fund）に関し、ドミニカ共和国やCARICOM諸国における課題や政策の分析、先行する他国のGCF案件の情報収集等を通じ、将来的なプロジェクトのアイデアを一緒に考えていただきます。 【モニタリング】「フードバリューチェーン強化のための農業金融開発事業」（円借款）及び「ドミニカ共和国持続可能なフードバリューチェーンモデル開発支援」（技術協力）に関し、農業金融の仕組みを改善するFVCモデルの効果を検討する活動への参加を想定しています。現場の声を聞き、データを整理し、改善提案を考えてみることで、国際協力のダイナミクスを体感できます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. GCF案件を想定した気候変動ファイナンス案件形成に関する情報整理（他国事例、国際潮流、ドミニカ共和国及びCARICOM諸国の気候変動関連政策） 2. 主にFVCに関連する各種視察、調査、会議への同行（関係省庁・農業銀行・現場ヒアリング同席など） 3. 資料作成支援（視察報告書、会議議事録、分析メモ） 4. 資料翻訳（日西英）、視察準備・同行 5. インターン活動終了時に、活動内容と学びをドミニカ共和国事務所内で発表 6. その他、希望に応じて広報、ボランティア、日系社会支援等、当事務所が実施している他の事業にも関わっていただくことが可能です。			
■参考情報 ドミニカ共和国事務所HP： https://www.jica.go.jp/overseas/dominicanrep/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 各種視察・調査、関係機関との協議・ワークショップ			
■受入時期・期間 2026年8月初旬～12月/2027年1月～3月初旬までの間の1～1.5か月程度（ただし年末年始を跨ぐ受入は不可） 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 基礎的なスペイン語が理解できること。			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,500円		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 無し			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 ・外務省危険レベルは1（十分注意してください）。特に一般犯罪、交通安全には十分注意が必要です。 ・米国（ニューヨーク・マイアミ等）、メキシコ経由が一般的です。安全上の理由から深夜・早朝（22:00～5:00）の市内・空港間の移動は可能な限り避けるようにして下さい。			
■備考・留意点 FVC案件に関する活動については、実際に融資案件が動き出して一定程度の時間が経過したタイミングが望ましいため2027年2月～3月頃が望ましいですが、別の期間を希望する場合は、その時の事業進捗に併せたプログラムとなります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在11
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ドミニカ共和国事務所		
■テーマ			
ドミニカ共和国及びカリブ地域における障害主流化等を通じた社会包摂促進			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>本インターンシップでは、ドミニカ共和国及びカリブ地域各国における社会包摂の促進、特に障害主流化に関する情報収集・分析を行い、JICAが各種事業を実施する際の参考となる資料・データのとりまとめを実施していただきます。ドミニカ共和国では、障害者の社会参加を促進するため、障害基本法の施行・監理を担う全国障害者協議会（CONADIS）を中心に各種取り組みが実施されていますが、政府機関と市民団体の連携強化や、各省庁の事業計画に障害の視点を組み込み、政策策定・実施監理・モニタリング機能の強化などの課題があります。カリブ地域各国でも今後障害と開発をテーマとした協力の開始を検討していることから、複数国を対象にした情報収集・分析を通じて地域横断的な視点での情報のとりまとめに取り組んでいただきます。また、社会包摂、特に障害主流化については様々なアクターを巻き込み、連携していくことが重要であることから、ドミニカ共和国で実施中の広報、ボランティア、日系社会支援等の事業についても幅広く関わっていただきます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障・障害分野に関するJICA事業や国際動向の情報整理 2. 各種視察、調査、会議などへの同行（関係省庁・市民団体とのヒアリング同席） 3. 資料作成支援（視察報告書、会議の議事録作成等） 4. 資料翻訳（日西英）、視察準備・同行 5. インターン活動終了時に、活動内容と学びをドミニカ共和国事務所内で発表 6. その他、希望に応じて広報、ボランティア、日系社会支援等、当事務所が実施している他の事業にも関わっていただくことが可能です。 			
■参考情報			
ドミニカ共和国事務所HP： https://www.jica.go.jp/overseas/dominicanrep/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
各種視察・調査、関係機関との協議・ワークショップ			
■受入時期・期間			
2026年8月初旬～12月/2027年1月～3月初旬までの間の1～1.5か月程度		（ただし年末年始を跨ぐ受入は不可）	
上記期間内での調整可	理由：		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	基礎的なスペイン語が理解できること。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須）	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,500円		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
無し			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
<p>・外務省危険レベルは1（十分注意してください）。特に一般犯罪、交通安全には十分注意が必要です。</p> <p>・米国（ニューヨーク・マイアミ等）、メキシコ経由が一般的です。安全上の理由から深夜・早朝（22:00～5:00）の市内・空港間の移動は可能な限り避けるようにして下さい。</p>			
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在12
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	1～2
■部署名/事務所名	メキシコ事務所		
■テーマ			
JICAメキシコ事務所における対外発信・広報活動の強化及び各種業務効率化の補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
メキシコは、400年を超える日本との交流の歴史を背景に、国際協力事業も発展を遂げてきました。1971年に開始された二国間交換留学・研修制度「日墨交流計画」を皮切りに、技術協力、無償資金協力、有償資金協力（海外投融資含）、協力隊派遣等様々な手法を組み合わせた協力を展開し、環境、水資源、防災、産業開発、資源・エネルギー、保健医療などの分野で人づくり、組織づくりを軸足とした取り組みを続けてきました。またメキシコには自動車企業をはじめとした1,500社を超える日本企業が進出しており、日本が有する高い技術を活用した民間連携事業にも力を入れております。2023年には、JICAのメキシコにおける活動が50周年、JICA海外協力隊が30周年を迎え、益々交流を深めています。本インターンシップ・プログラムでは両国間の関係をより強くするべく、事業サイトの訪問・取材・撮影を通じたSNSアカウントでの対外発信及び広報活動、事務所内業務効率化タスクやプロジェクトマネジメント補佐、各種イベント企画・準備や、学術機関での講演（JICA事業紹介）補助に携わっていただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>①メキシコ国内で活動する海外協力隊の活動視察、各種協力事業プロジェクトサイトの視察、日系企業及び日系団体・その他民間企業訪問、広報素材の入手、JICAウェブサイト等に公開される記事の作成・アップロード</p> <p>②事務所内プロジェクト担当者や外部関係者との意見交換（案件形成及び案件監理）、現地カウンターパートや日本との各種調整業務補佐、事業実施サイト訪問時の面談録作成</p> <p>③メキシコ国内で実施中の各種事業を纏めたプロジェクトマップの作成・更新、JICAウェブサイト等に公開</p> <p>④事務所内の業務効率化に関するアイデア出し、意見交換（他中南米拠点との遠隔会議等含む）</p> <p>⑤各種セミナー及びイベントの企画・準備・実施に係る業務の補佐</p> <p>⑥現地小・中学校や大学等での講演及びJICA事業紹介の補佐</p> <p>※1 インターン活動の終了時に、活動内容についてメキシコ事務所内で発表する機会を設けます（可能な限り西語での実施）。</p> <p>※2 大学 1・2 年生大歓迎</p>			
■参考情報			
<p>JICAメキシコ事務所HP : https://www.jica.go.jp/overseas/mexico/index.html</p> <p>JICA中南米PLAZA : https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/index.html</p> <p>ODA見える化サイト（メキシコで実施されたJICA事業） : https://www2.jica.go.jp/ja/oda/index.php?area1=中南米&country1=メキシコ&search=検索&p=1</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
海外協力隊が派遣されている各種活動先、実施中及び終了後案件のプロジェクトサイト、メキシコシティ及びその他都市で開催される日系団体主催イベント、JICA事務所や海外協力隊が主催する日本文化紹介イベント、出前講座や講演会での発表補助等			
■受入時期・期間			
2026年8月～12月までの最大3カ月間/2027年1月～3月中旬までの最大2カ月半のいずれか			
上記期間内での調整可	理由：年末年始を跨ぐ受け入れは不可、また3月は中旬までの受け入れのみ可		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	基礎的なスペイン語が理解できること、所内ナショナルスタッフとスペイン語でコミュニケーションがとれること		
望ましい	中南米地域（特にメキシコ）の政治・経済・社会・文化状況に係る関心及び理解		
望ましい	どのような業務であっても謙虚に、誠実に取り組む姿勢		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須）	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		12,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
入国に際し接種が義務づけられた予防接種はありません。破傷風、A型肝炎、B型肝炎、腸チフスのワクチン接種は任意で推奨しておりますが、必須ではありません。狂犬病に対する予防接種（暴露前接種）は、通常の旅行であれば必要ありませんが、長期滞在者や野外活動を予定している人、動物と接触する機会が多い人には接種を推奨しています。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
<p>・JICAメキシコ事務所が位置するメキシコシティが活動拠点となります。</p> <p>・外務省危険レベルは1（十分注意してください）です。特に一般犯罪、交通安全には十分注意が必要です。また、日没後（18時頃）～21時の間の外出は極力控え（徒歩移動は原則禁止）、夜間から日の出前（21時～7時頃）の外出は禁止となります（帰赴任時も同様）。</p>			
■備考・留意点			
円安の影響もありメキシコシティは比較的物価が高く、他国と比べて費用負担が多くなる可能性があることを予めご理解ください。参考として、ホームステイでも家賃は概ね10万円以上/月、外食費用は日本の1.5倍程度、食料品は日本より少し高い程度。費用負担軽減策として自炊や公共交通機関の利用を推奨。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在13
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ニカラグア事務所		
■テーマ 首都マナグア湖の水質改善のためJICAニカラグア事務所が取り組む環境教育、環境保護活動及びこれらに関連する広報活動			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 JICAニカラグア事務所が2020年度より推進する首都マナグア湖の水質改善の取り組み（BIWAKOタスクフォース）や関連する技術協力事業や草の根協力事業に関わり、マナグア市役所と連携して市内の小中学校生徒等に対する環境教育活動に関わるとともに、ゴミポイ捨てを撲滅するための広報を通じた啓発活動、さらには連携関係を有する滋賀県関係者（滋賀県内の学生を含む）との連携活動強化や両国間学生の交流推進に携わる。			
■具体的なインターンシップ活動内容 インターンシップ受入れ時期によって実施中の活動が異なるため、バックグラウンドや専門性、インターンシップ実施時期等を踏まえて、取組内容の相談可。以下は想定される主な活動となる。 ・関連する技術協力事業や草の根協力事業の業務補佐 ・JICAニカラグア事務所BIWAKOタスクフォース（以下BTF）メンバーからのBTFの活動概要聞き取り ・マナグア湖及び周辺施設の現場視察 ・ニカラグア版UMINOKO（小学生に対する乗船型環境教育）視察 ・BTF及びマナグア市庁関係者（海外協力隊「環境教育」隊員含む）とのゴミポイ捨て撲滅のための啓発キャンペーン企画・実施 ・滋賀県関係者との交流企画・実施 ・マナグア市内小中学校生徒他に対する環境教育活動の企画・実施 ・JICAニカラグアFACEBOOKを通じた広報活動			
■参考情報 ニカラグア初の日本人アーティストとのコラボマンガ“マナグア湖の守り神Xolt”誕生！ https://www.jica.go.jp/spanish/overseas/nicaragua/information/topics/2025/1573784_62934.html 琵琶湖で環境学ぶ船「うみのこ」 ニカラグアの汚れた湖でも始まった：朝日新聞デジタル（asahi.com） https://www.asahi.com/articles/ASS385CM7S2LPTJBO0W.html 第3回ニカラグア版UMINOKOへ、日本人絵画アーティストFloさん参加 https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/202311.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 上記「具体的なインターンシップ活動内容」参照			
■受入時期・期間 2026年9月～12月までの3カ月間 上記期間内での調整可 理由：ご本人の都合・関心、受入側事業の都合等を勘案し、実施時期や期間の調整可。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 必須 日常会話レベルのスペイン語能力			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000～3,000円/日		7,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 必須となる予防接種は無いが、推奨として「A型肝炎・B型肝炎・狂犬病・麻しん風疹・破傷風」。なお、パナマや南米ペルーなど黄熱病流行国に24時間以上滞在の後6日以内にニカラグアに入国する場合、10日以上前に接種した黄熱病予防接種証明書の提示が必要となる。			
■滞在場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 安全措置として、全土で22～06時の間の外出は禁止。首都マナグア市は交通事故が頻発しており注意が必要。移動は推奨ホテル～JICA事務所間の徒歩は認めるが、その他公共交通機関での移動はラジオタクシーもしくはアプリタクシーのみ可能。渡航は米国ないしメキシコ経由。			
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

〈文系・理系問わない〉

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在14
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	ボリビア事務所		
■テーマ			
JICAボリビア事務所における各種事業の実施支援および現場視察			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>JICAボリビア事務所では、農業・農村開発、保健・医療、水資源などの分野で協力をを行っている。このうち、以下の中から、インターン生の興味・関心に従い、柔軟に決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボリビア国コチャバンバ県における統合水資源管理実践能力強化プロジェクト（技プロ、直営専門家・業務実施契約ハイブリッド型） ・医療機材管理強化（個別専門家）での活動 ・障害者エンパワメント（個別専門家）の活動従事 ・海外協力隊の活動視察 ・ボリビア事務所内業務への従事（広報） 			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>各案件で以下の活動を想定し、関心やスペイン語能力有無に応じて参加事業（複数可）・内容を決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コチャバンバ県統合水資源管理プロジェクト（フェーズ2）：環境教育、節水灌漑、水質改善の3パイロット事業を展開。流域プラットフォームの運営、下水処理評価、地下水涵養、水基金の設立・運営、環境啓発・教育システムなどに関わる支援活動に従事する。 ・医療機材管理強化：ラパスに位置する中央省庁・保健スポーツ省で医療機材管理基準の立案・構築に従事。国家の保健医療政策策定のプロジェクトスタイルを体験する。 ・障害者エンパワメント：コチャバンバ県庁で障害者エンパワメントに係る活動に従事する。 ・海外協力隊活動視察：インターン生の興味・関心と、関連分野の隊員の活動状況等とのマッチング次第で受入を行う。 ・JICAボリビア事務所広報（SNS）への貢献と改善提案を実施する。 			
■参考情報			
<p>JICAボリビア事務所公式HP：https://www.jica.go.jp/overseas/bolivia/index.html JICAボリビア事務所公式Facebook：https://www.facebook.com/JICABoliviaOficial/ 統合水資源プロジェクト（フェーズ2）事前評価表：https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2024_202208959_1_s.pdf 水資源管理プロジェクト（フェーズ1）関連書類：https://www.jica.go.jp/activities/issues/water/case/_icsFiles/afieldfile/2024/04/04/bolivia_202307_j.pdf 水資源管理プロジェクト（フェーズ1）関連動画：https://www.youtube.com/watch?v=asgvyLyB5U8</p>			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
プロジェクトや海外協力隊の現地活動。日系社会が実施する文化的行事。JICAボリビア事務所が実施する各種広報活動。			
■受入時期・期間			
2026年8月～2026年12月中旬までの1カ月間			
上記期間内での調整可	理由：12月中旬以降はクリスマス時期となり参加できる活動が少ない。査証取得の関係で30日未満の受入を希望。		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに申し求める要件			
望ましい	スペイン語（自立して生活可能なレベル）。ただし、スペイン語ができる人材は限定的なため、必須条件とはしない。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		2,000円（ホームステイの場合）～6,000円（ホテル泊の場合）程度/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
黄熱病、狂犬病、破傷風、A型肝炎、B型肝炎（いずれも推奨）			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
滞在を予定している地域：ラパス県、コチャバンバ県 https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsphazardinfo_262.html#ad-image-0			
■備考・留意点			
<p>●JICA事務所のあるラパス県に滞在していただく可能性があります。ラパスは標高3,500メートル以上の高地ですので、高山病のリスクがあります。ラパスは高地のため朝晩は冷え込むため、衣類については夏・冬両方に備えたものを持参することをお薦めします。また、コチャバンバは2,600～2,800m地域で朝晩は涼しいですが、日中は暑いです。</p> <p>●（コチャバンバ水資源プロジェクトに関する参考情報） 理学・工学系であれば水・衛生（※水質含む）、環境（水質汚濁）、水資源・流域・水理・水文、地下水管理、農学（農業・灌漑 ※点滴灌漑など）水の防災（洪水）などが該当分野になります。また、コチャバンバは過去に「水戦争」が起こるなど水にセンシティブな地域であり、教育学、社会・経済学、文化人類学の分野も該当するため人文系の人材も活躍が可能です。例えば、社会的背景に基づく活動の設計やインパクトの評価を考える必要があり、文化人類学的な要素も求められます。また、行政や関係者による活動の意思決定を促進するために、現地の視点に基づいたコスト・ベネフィット分析なども合理的な判断として重要で、経済学の素養のある方も活躍できます。</p> <p>以下は各活動で持っている望ましい専門性の一例になります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 流域管理の流域プラットフォームの運営支援（プロジェクトの成果2に該当する活動で専門家とともに行動）→統合水資源管理（SDG6.5関連）、流域管理、協議体・組織・ガバナンスに関すること 2) 水質汚濁の改善にかかわる水理・水文・水質モニタリングと下水処理評価の支援（プロジェクトの成果1のモニタリングおよび成果2の下水処理場委員会、成果3の下水処理場パイロット事業に該当する活動で専門家とともに行動）→水・衛生、環境、水理・水文・水質に関すること 3) 農業の節水灌漑の普及に向けた支援（プロジェクトの成果3に該当する節水灌漑パイロット、SHEP、地下水管理の活動で専門家とともに行動）→農業、農業・灌漑、地下水管理 4) 地下水涵養の評価（プロジェクトのパイロット事業に該当する地下浸透のトライアル）→地下水管理、水理・水文モニタリング・モデリング 5) 流域プラットフォームに係る水基金の設立と運営の支援（プロジェクトの持続性確保に該当する活動）→社会・経済学、ガバナンス 6) 流域管理に結び付ける環境啓発・教育システムの支援（プロジェクトの成果3に該当する環境教育パイロット事業：主に水質汚濁、水衛生および地下水管理のテーマ）→教育学、環境、水衛生・水質、地下水 <p>●（医療機材管理強化に関する参考情報） 日本の医療に関する知識があることが望ましいです。また、多くが机上での業務となるので、最低限日常会話レベルのスペイン語能力があることを強く推奨します。保健医療系であれば、医療資格として臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師、助産師、看護師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士などに関連する分野です。文系であれば、政策の具体的な計画、立案、構築、策定過程に興味のある方に日本の医療システムとは異なる途上国でのリアルを見ていただけます。医療機材管理そのものに加えて、中央と地方の予算、人材面など行政に関わる案件です。</p>			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在15
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ペルー事務所		
■テーマ JICAペルー事務所での広報手法の改善、事業効果に関する広報資料の作成			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 JICAはペルーにおいて、1958年にペルーから技術研修員を受け入れたことを皮切りに、技術協力、有償資金協力、無償資金協力、ボランティア事業など、多様な協力を行ってきています。特に近年では、日・ペルーそれぞれの民間企業、日系社会連携、NGO／市民社会組織、大学・研究機関、国際機関等、様々な関係者とともに新たな国際協力事業を展開しています。他方、JICA事業に関する広報については、ターゲットの設定、適切なメディアの選定（HP、プレスリリース、SNS等）、メディアに応じた内容の工夫、さまざまな関係者と連携した効果的な広報など、今後の改善の余地があります。また、過去のJICA事業に関する定性的、定量的なインパクトを含めて成果をまとめた資料の作成も求められます。2027年は事務所設立50周年、2028年はペルーでの協力開始から70周年を迎えるなか、広報を強化することで、ペルーにおける国際協力事業の更なる発展を目指したく考えています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. JICAペルー事務所における広報活動の現状と課題をレビューした上で、改善提案を行い、可能な範囲で実行していただきます。具体的には、インターンが作成に取り組んだ当事務所の広報マニュアルの内容を確認した上で報道機関へのプレスリリースの作成・配布に関する実践強化や、SNS、HP等での発信強化およびフォロワー数の増加施策の検討並びに実践、所内プロセスも含めた発信手法の改善等、広報実践強化に関する取り組み、マニュアル内容の追記・改善支援を期待します。これらの活動を行ううえで、実施中の国際協力事業にも担当者に伴走する形で関与頂くことを想定します。 2. 過去のJICA事業に関する既存の情報（事後評価結果、ペルー事務所による受益者へのヒアリング、統計資料等）をもとに、対ペルー、対日本の両方の観点から、JICA事業の成果に関する広報資料を作成します。具体的には、事業に関する情報収集、取りまとめ、分析を行った上で、広報資料として取り上げる内容を検討し広報素材を作成します。広報素材の作成にあたってはインターンの方からの提案を歓迎します。これらの広報素材は、翌年以降の周年事業での活用が期待されます。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/peru/index.html https://www.facebook.com/jicaperu/ https://www.instagram.com/jica_peru/			
■参加（同行）可能な行事・視察等 必要に応じて広報イベント、各種行事への参加を検討します。			
■受入時期・期間 2026年8月～9月までの2カ月間/2027年2月～3月中旬までの1.5カ月間のいずれか 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい スペイン語ビジネスレベル			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在所はリマ首都圏。治安状況は外務省サイトを参照 https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_261.html#ad-image-0 現地までの渡航経路については、日本からの直行便はなく、アメリカ経由やヨーロッパ経由等（いずれも乗り継ぎ1回）がある。			
■備考・留意点 2026年は4月に大統領選挙（一回目）および議会選挙、6月に大統領選決選投票、7月末に新大統領就任式、10月に地方選挙と、政治関連のイベントが相次ぎます。現地の社会情勢によっては安全管理上事業活動が制限される可能性がある点に留意する必要があります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在16
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	コスタリカ支所		
■テーマ コスタリカ国内のJICA事業における広報活動支援および支所の総務業務支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 ・コスタリカでは、障害者の自立生活支援、自然環境保全を重点分野としている。技術協力プロジェクトとして地熱発電能力強化、保護区 の管理能力強化の第三国研修、また、ボランティアも短期を含めて30名程度の派遣が計画されている。それら活動の現場を訪問し、ホーム ページ、SNSに投稿するための記事を作成してもらいたい。 ・支所における総務業務の補助。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・技術協力（第三国研修）やJICAボランティアの活動を取材し、ホームページやFacebookにアップロードする。 ・ファイル整理、消耗物品管理・補充、貸し出し機材管理等の補助業務。 ・機械翻訳を使ったスペイン語⇄日本語の文書翻訳と、その内容確認・修正。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/costarica/office/index.html https://www.facebook.com/jicacr/			
■参加（同行）可能な行事・視察等 第三国研修地熱開発能力強化、第三国研修保護区管理			
■受入時期・期間 2027年1月～3月中旬までの1～2カ月間 上記期間内での調整可 理由：広報をして欲しいイベントが集中する時期のため。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 必須 スペイン語検定4級、DELEB1相当のスペイン語能力を要すること。			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
6,000円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 南米等黄熱病感染リスク国や地域から入国するインターン生の場合には黄熱病の予防接種が必須。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 治安情報に関しては、支所の安全対策措置および安全対策マニュアルをご覧ください。渡航標準経路は米国経由（ロスアンゼルス、アトラ ンタ、ヒューストン等）、メキシコ経由が考えられます。			
■備考・留意点 宿泊費に関して、ホームステイを利用すれば、比較的安価になる可能性がある。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在17
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ アフリカ地域	■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	ガーナ事務所		
■テーマ 稲作生産性向上プロジェクトでの活動を通じた日本型の技術協力の現場経験			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 ガーナは米の消費量が伸びているものの、自給率が50%を切っており、多くを輸入に依存しています。今回受け入れを予定しているのは、ガーナの国産米増産に向けた技術協力「稲作生産性向上プロジェクト」です。JICAはガーナの稲作分野で、食糧・農業省と共同でおよそ20年以上にわたる協力を実施しています。これまでに、実証的な試験結果や農家の需要状況をふまえてまとめられた稲作技術パッケージは、食糧・農業省の公式な文書として認められ、現場での普及が図られています。現地には稲作栽培技術、灌漑・水管理、普及、稲作政策といった異なる専門性を持った5名の専門家が日本から派遣され、天水稲作地域4州、灌漑稲作地域4か所での技術普及に向けた活動を実施しています。その内容は、稲作の生産性向上に向けた農家研修の実施にとどまらず、マーケティング活動を実施し、輸入米に負けない価格で販売できる道筋づくりを行ったり、機械化の実現に向けた効率的な水管理・営農計画の導入、ジェンダーコンポーネントの研修活動への組み込みなど、多岐にわたります。また、世界銀行やGIZ（ドイツ）など、稲作に取り組む他ドナーとの連携関係も構築しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 インターンを希望される方のバックグラウンドや専門性により、様々な取組内容を設定することが可能です。以下は一例となりますので、派遣が決まったのち相談の上、具体化していくことを想定します。 例) ①プロジェクト研修実施ガイドライン作成支援補助、②視聴覚教材（SNSで簡易に展開可能なショートムービー等）の作成支援補助、③広報（プロジェクトレター、広報ビデオなど）支援補助			
■参考情報 JICAによるプロジェクト概要 https://www.jica.go.jp/oda/project/201904483/index.html ガーナ農業省によるプロジェクト活動の紹介 https://orcc.gov.gh/grip-rice-training-in-jasikan-oti-region/			
■参加（同行）可能な行事・視察等 稲作栽培研修、水利組合研修、マーケティング活動、ジェンダー研修等			
■受入時期・期間 2026年8月～12月までの間 最大3カ月間、最短1カ月間 ただし年末を除く 上記期間内での調整可 理由：応募者・プロジェクトの状況を踏まえてインターンシップ期間を具体的に決定します			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学院生・社会人とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 農業系の学部卒業			
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： プロジェクト作成資料・教材など			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000-3,000円程度/日		40-65USD程度（首都）/泊、4,500円程度（地方）	
■渡航にあたり必須となる予防接種 黄熱病			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 アクラのプロジェクト事務所のほか、プロジェクトの対象州および灌漑スキームへの出張・滞在の可能性もありますが、安全管理上、渡航制限のある北部5州への渡航は予定されません。			
■備考・留意点 1度に受入可能なインターンは1名まで			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在18
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ウガンダ事務所		
■テーマ 持続可能な稲作のための温室効果ガス測定体制構築インターンシップ			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 Eco-PRiDeプロジェクトでは、持続可能な稲作技術の開発と普及、人材育成に取り組んでいます。本インターンシップでは、気候変動対策の基盤となる GHG測定体制の構築支援に参加します。 参加者は、イネ研究圃場でのGHG測定試験区的设计・管理補助、静的チャンバー法による測定手順、ガス採取、分析機器の操作、データ整理・解析など、実践的な技術を学びます。また、現地研究者・学生と協働し、測定手順（SOP）の整備やデータ管理体制づくりにも関わり、アフリカ農業が抱える環境課題と研究現場の実態を理解します。 本プログラムは、気候変動適応・緩和技術を実地で学び、国際農業研究に貢献する力を身につけたい若手にとって、貴重な成長機会となります。			
■具体的なインターンシップ活動内容 【活動】 1. イネ研究圃場におけるGHG測定試験区的设计および管理運営の実施補助 2. チャンバー法を中心としたGHG測定技術の技術移転（測定手順、ガス採取、分析機器の操作） 3. 測定データの記録・整理・解析方法の指導 4. 測定体制構築に必要な運営手順（SOP）の整備支援 【期待される成果】 ・ウガンダ人技術者によるGHG測定体制の確立に向けた基礎技術の習得 ・静的チャンバー法によるGHG測定の実務理解の向上 ・測定データの管理・解析に関する基礎的能力の向上 ・研究者・学生への実地指導を通じたGHG測定技術の技術移転促進			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/uganda/information/topics/2024/1545346_52944.html https://www.youtube.com/watch?v=WNkpuwZ8x0M&t=100s			
■参加（同行）可能な行事・視察等 地方農村部での農家研修視察			
■受入時期・期間 2026年8月～12月までの間で3カ月間 上記期間内での調整可 理由：参加可能期間に応じて、活動内容の調整が可能。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,000～2,000円/日		1,500～4,500円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 黄熱病			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 渡航前にJICAウガンダ事務所が実施する安全対策ブリーフにて情報共有。			
■備考・留意点 http://www.anzen.mofa.go.jp/m/mbimmigration_093.html https://www.visas.immigration.go.ug/			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在19
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	タンザニア事務所		
■テーマ タンザニアにおけるワンヘルス（人獣共通感染症対策）の実現に向けて - JICAの科学技術協力の現場から -			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 タンザニアでは、畜産を含む農業セクターに人口の約7割が従事している。同国の家畜飼養頭数はアフリカで3番目に多く、畜産は同国の農業GDPの27%を占める重要な産業である。ブルセラ症及び人獣共通結核は、乳や肉等の動物由来食品を介した人獣共通感染症であり、その制御のため、バリューチェーンを含む畜産セクターだけでなく保健等の他セクターと協働したワンヘルスアプローチによる感染源対策がタンザニアにおいても必要である。本事業（地球規模課題課題対応国際科学技術協力、SATREPS）は、酪農学園大学を本邦研究代表機関とし、タンザニア南東部のモロゴロ州において、家畜と人のブルセラ症及び人獣共通結核の制御に有効な基盤情報と介入条件の特定ならびに介入体制の整備を行うことにより、ワンヘルス・教育・官民連携による制御アプローチの確立を図り、もって同アプローチの実践に寄与するものである。インターンの方には、タンザニアのワンヘルス（人獣共通感染症対策）の実現に向けて、タンザニアおよび日本の研究者と共に、課題解決手法の検討に取り組んでいただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・保健・獣医療サービスシステムの聞き取り調査の補助 ・農家および住民への疫学的・社会経済的な質問票調査の補助 ・専門家が実施する各種サンプリング作業、検査の補助 ・その他プロジェクト業務補助			
■参考情報 ・JICAタンザニア事務所ホームページ： https://www.jica.go.jp/overseas/tanzania/index.html ・JICAタンザニア事務所パンフレット： https://www.jica.go.jp/Resource/tanzania/office/others/bp63r60000005gz3-att/brochure_en.pdf ・本案件の事業事前評価表： https://www2.jica.go.jp/ja/evaluation/pdf/2023_202209775_1_s.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・農家および住民への訪問 ・現地の保健・獣医療サービスの視察 ・実験施設での作業			
■受入時期・期間 2026年8月上旬～9月中旬までの1.5カ月間／2027年2月上旬～3月中旬までの1.5カ月間のいずれか 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	獣医学部／学科		
望ましい	将来、畜産分野の専門家を志向していること		
■提供可能な執務環境等 □PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,400円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 厚生労働省のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html ）を参考に、推奨されるワクチンの接種を検討してください。タンザニアは黄熱病のイエローカード対象国にはなっていませんが、黄熱に感染するおそれのある国・地域の国籍を持つ渡航者は、現在の居住地にかかわらず、証明書の提示を求められる場合があります。この点については厚生労働省検疫所のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/yellow_fever_certificate.html ）をご覧ください。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 JICAウェブサイト（ https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/rule.html ）をご参照のうえJICA安全管理部（JICA安全対策情報申請窓口）： jicast@jica.go.jp へメールを送付し、JICA国別安全対策情報入手ください。また外務省の海外安全ページ（ https://www.anzen.mofa.go.jp/readme/readme.html ）をよく読み、必ずたびレジに登録ください。			
■備考・留意点 ・本ポストではJICAタンザニア事務所でのインターン勤務は想定しておりません。到着時の安全ブリーフィングや中間・最終時報告以外には、TANRICEプロジェクトでインターン勤務をして頂きます。 ・滞在許可証取得にかかる必要書類は、派遣決定後、JICAタンザニア事務所の指示に従って速やかに提出してください。 ・深夜早朝の発着便（20時～6時）は極力避けてください。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在20
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	タンザニア事務所		
■テーマ タンザニアにおける稲作振興協力 - JICAの技術協力の現場から -			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 タンザニアはサブサハラアフリカ有数の稲作大国で、日本は1970年代からタンザニアにおける稲作振興を支援しています。また2008年第四回アフリカ開発会議（TICAD IV）でJICAは「アフリカ稲作振興のための共同体（Coalition for African Rice Development: CARD）を立ち上げ、現在2030年までにアフリカにおけるコメ生産量の倍増（2800万トンから5600万トン）を目標として取り組みを他の協力パートナーとともにアフリカ各国で進めています。今回のインターン先は、アフリカ稲作協力の中でも、フラッグシッププロジェクトと言えるタンザニア技術協力プロジェクト「コメ振興能力強化プロジェクト（通称TANRICE3）」です。TANRICE3は2023年6月に開始され、灌漑及び天水稲作技術の普及、農家の生産性・収益性を高める課題別の研修（種子生産、農業機械、灌漑組織運営、ジェンダー等）を行っています。インターンの方には、タンザニアの稲作振興の最前線で、JICAの専門家と共に、稲作農家がかかえる課題解決に取り組んでいただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 現地研修補助（活動地域：キリマンジャロ農業研修所以外の農業研修所） （1）現地研修の準備・実施状況のモニタリング、改善点の検討 （2）現地研修実施後の進捗確認・フォローアップ 2. 自身が設定する稲作関連テーマの調査・検証（活動地域：キリマンジャロ農業研修所、もしくはローアモシ灌漑地区） （1）テーマの設定、活動計画の検討、活動実施 （2）プロジェクトに対する報告 3. その他プロジェクト業務補助			
■参考情報 ・ TANRICE3関連調査報告書（詳細計画策定調査報告書） https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/1000048840.pdf ・ アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）について https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 2-3月 灌漑稲作研修フォローアップ（現地研修実施後の進捗確認）、天水低湿地稲作研修（現地研修）、種子研修（モニタリング）、ローアモシ灌漑地区及び近隣地区における活動（関連機関である研修所、県事務所、国家灌漑庁と連携し各課題に取り組む）			
■受入時期・期間 2027年2月上旬～3月中旬までの1.5カ月間 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	稲作関連の各種研修事業（モニタリングを含む）、政府職員に対する人材育成、もしくはプロジェクト運営に関心があること		
望ましい	将来、農業分野の専門家を志向していること		
■提供可能な執務環境等 □PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,400円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 厚生労働省のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html ）を参考に、推奨されるワクチンの接種を検討してください。タンザニアは黄熱病のイエローカード対象国にはなっていませんが、黄熱に感染するおそれのある国・地域の国籍を持つ渡航者は、現在の居住地にかかわらず、証明書の提示を求められる場合があります。この点については厚生労働省検疫所のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/yellow_fever_certificate.html ）をご覧ください。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 JICAウェブサイト（ https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/rule.html ）をご参照のうえJICA安全管理部（JICA安全対策情報申請窓口）： jicast@jica.go.jp へメールを送付し、JICA国別安全対策情報入手ください。また外務省の海外安全ページ（ https://www.anzen.mofa.go.jp/readme/readme.html ）をよく読み、必ずたびレジに登録ください。			
■備考・留意点 ・本ポストではJICAタンザニア事務所でのインターン勤務は想定しておりません。到着時の安全ブリーフィングや中間・最終時報告以外は、TANRICEプロジェクトでインターン勤務をして頂きます。 ・滞在許可証取得にかかる必要書類は、派遣決定後、JICAタンザニア事務所の指示に従って速やかに提出してください。 ・深夜早朝の発着便（20時～6時）は極力避けてください。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在21
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	カメルーン事務所		
■テーマ			
「バリューチェーンの強化を通じたコメ振興プロジェクト（PRODERIP-RCV）」（農業）における事業運営補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
国内で消費する米の多くを輸入に頼るカメルーンは、米の生産量を拡大し、自給率を高めることを国家戦略に掲げています。2011年から続くコメ振興プロジェクトでは、カメルーン国内の複数のサイト（中央州、南部州、東部州、北西州および西部州）において、陸稲と水稲双方の種子生産から販売・消費に至るバリューチェーンの強化を行うことにより、国産米の増産と品質向上を図り、灌漑水稲米の販売量と陸稲米の自家消費量の増加に取り組んで来ました。本インターンシップでは、第3フェーズとなる当該プロジェクトにおいて、日本人専門家及びカメルーン側実施機関である農業省並びにヌン渓谷開発公社と連携し、事業目標達成に向けた活動を支援することを目的としています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
当該プロジェクトは灌漑水稲から天水陸稲までを取扱っており、それぞれ種子生産から販売・自家消費を目的とした多彩な活動を行っています。そのため、日常の活動として圃場での種子生産や試験、精米、籾や白米の品質検査、営業、販売促進まで様々な活動を体験することが可能です。 灌漑水稲分野の1～3月の具体的な活動は、1)新米の籾品質（混種や匂いなど）および精米品質（碎米率や白度など）の検査、2)2026年生産統計の整理（栽培面積、生産量など）、3)精米、4)農業祭出店やビルボード広告展示などの販売促進、5)スーパーマーケットCarrefourへの出荷や新規店舗との販売交渉、6)米販売収支モデルの構築などです。天水水稲・陸稲分野では、1)2027年度第1作期に向けた陸稲栽培研修（普及員・中核農家向け研修および一般農家向けの現場研修）、2)在庫種子管理（種子在庫量の確認や発芽試験）、3)育種家種子および原種種子生産（乾期作）、4)精米機（SB10）の維持管理および収穫後処理研修を実施する予定です。これらの日々の活動を専門家やカウンターパートとともに実施します。			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> ・ JICAホームページ（海外での取り組み カメルーン）：https://www.jica.go.jp/overseas/cameroon/index.html ・ JICAホームページ（カメルーン事務所）：https://www.jica.go.jp/overseas/cameroon/office/index.html ・ JICAホームページ（JICAカメルーン事業紹介動画）：https://www.jica.go.jp/overseas/cameroon/others/movie.html ・ ODA見える化サイト：https://www.jica.go.jp/oda/project/1500396/index.html 			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ ヤウンデでの圃場活動、水稲に関する普及員・中核農家向け栽培・収穫後処理研修への参加、補助 ・ 南部州および東部州に位置する種子生産圃場への出張（種子生産圃場準備、栽培管理） ・ 西部州での天水水稲に関する活動（調査およびモニタリング） ・ スーパーマーケット（Carrefour、Santa Louciaなど）や小売店への出荷、販売交渉 			
■受入時期・期間			
2026年10月～12月/2027年1月～3月中旬までのうち5週間以上（可能であれば2か月以上）			
上記期間内での調整可		理由：	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	圃場での農作業に従事可能なこと		
望ましい	農学部または生物生産系の学部・学科		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		7,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
必須：黄熱病 推奨：A型肝炎、B型肝炎、ポリオ、狂犬病、髄膜炎菌、麻しん・風しん、水痘、破傷風、腸チフスを推奨します。他にも厚労省検疫所FORTHのホームページを確認し、必ず医師と相談し必要な予防接種を行ってください。 https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
滞在拠点は首都のヤウンデを想定しています。ヤウンデの治安は他のアフリカ諸国の首都と比べると良好ですが、軽犯罪が増加傾向にあります。またマラリアにも注意が必要です。 渡航にかかる標準経路は、アジスアベバ（エチオピア）あるいはパリ（フランス）経由です。			
■備考・留意点			
本インターンシップは2名を募集しており、2名の開始日を合わせるように調整させていただきます。 また本インターンシップは技術協力プロジェクト「バリューチェーンの強化を通じたコメ振興プロジェクト（PRODERIP-RCV）」への張り付きとなります。プロジェクトオフィス及びサイトでの活動が主となり、活動期間中はプロジェクト専門家（邦人）との密な連携が必要となります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在22
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ アフリカ地域	■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	マダガスカル事務所		
■テーマ マダガスカル農村部での稲作振興と森林保全を含む環境負荷軽減に貢献するための技術開発普及プロジェクト補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 マダガスカル農村部では、主食かつ主な収入源である稲作の生産性が低いため、人々の貧困・栄養不良や農地拡大にともなう森林破壊など、深刻な社会問題を抱えています。JICAは、日本とマダガスカルの研究機関と連携し、稲作の生産性を改善するための施肥技術や新品種を開発してきました。これらの成果を社会問題解決に繋げるために、2つの事業を開始します。事業①社会実装型技術協力プロジェクト「養分欠乏水田における稲作振興のための革新的技術普及プロジェクト」では、同国の農業畜産省や民間企業と連携して、効果的な普及方法を検証しながら、開発した施肥技術と新品種を多くの農家に届けることを目指します。事業②地球規模課題解決型技術協力プロジェクト（SATREPS）「森林と水田が共存した持続的で多様なファーミングシステムの構築」では、化学肥料の施用量と温室効果ガスの排出量を抑えつつ、作物の生産性や多様性をより高めるための新たな技術開発や1つ目の事業と連携した技術の普及を推進するとともに、地域の安定的な農業生産を支える森林の役割を明らかにすることで、ランドスケープレベルでの持続的な食料生産システムの構築を目指します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 事業①の活動補助（活動地域：ヴァキナンカラチャ県アンチラベ） ・ JICA専門家やマダガスカルの普及員と農家への技術指導 ・ 技術が普及するための課題の探索や整理 ・ 農家に広く分かりやすく技術を伝えるための伝播手法やパンフレットの改善 ・ アプリを用いた技術普及状況のモニタリング 2. 事業②の活動補助（活動地域：プエニ県アンカラファンチカ国立公園） ・ 調査観測補助（森林が保全された流域と破壊された流域における、水田の生産性や水田に流入する土砂・栄養分の量、干ばつや洪水のリスク、水田からの温室効果ガスの排出量などの調査） ・ 地域住民や行政が森林をどのように管理し、利用しているかといった生態系サービス（エコツーリズム、有用植物種等）に関する情報収集、整理			
■参考情報 https://www.jircas.go.jp/ja/satreps-varyala https://www.jst.go.jp/global/kadai/r0608_madagascar.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 農家への訪問、現地の農業普及サービスの視察、農業研究所視察			
■受入時期・期間 2026年10月～12月までの1ヶ月間程度/2027年2月～3月中旬までの1ヶ月間程度いずれか 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 農業分野や開発分野の素地があるとよい。			
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
アンタナナリボ：1,000円～2,000円/日 地方：1,000円～1,500円/日		アンタナナリボ：6,000円～7,000円/泊 地方：2,000円～4,500円/泊	
地方：1,000円～1,500円/日 厚生労働省のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html ）を参考に、推奨されるワクチンの接種を検討してください。			
■滞在所の場所情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在所：アンタナナリボ市内 勤務地：アンタナナリボ市内の事業①・事業②のオフィス、アンチラベ、アンカラファンチカ国立公園 通常使用している渡航経路：日本～アディスアベバ/ドバイ～アンタナナリボ 治安状況：最新の安全対策措置、安全対策マニュアルを参照ください。			
■備考・留意点 当国での安全な滞在のために、マダガスカル事務所から必要な安全情報（治安、健康管理）及び空港送迎を提供します。アンタナナリボ～アンチラベ/アンカラファンチカ国立公園間の移動、視察含むプロジェクト現場での移動に使用する車両は、基本的にプロジェクトが手配します。アンチラベもしくはアンカラファンチカ国立公園に数週間滞在する可能性があります。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在23
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人） 1
■部署名/事務所名	モザンビーク事務所		
■テーマ 開発途上国で小規模ビジネス支援を考える！ モザンビークのビジネス環境と効果的な小規模企業支援アプローチの分析			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 国内企業の約95%が零細・中小規模であるが、国内の産業基盤・経済環境が十分に整備されておらず、同企業らにとってビジネス展開が困難な環境である。また、モザンビークの人口の大半が若者であり潜在的な労働力があるものの、直近では都市部の若者（15～35歳）の失業率が40%といった報道もあり、若者の雇用問題が深刻化している。 このような状況で、JICAではマプト首都圏とマニカ州において、中小零細企業の経営改善を目的とした「一村一品・カイゼンを通じた地場産業振興プロジェクト」を実施している。毎年15社の支援対象企業を選定し、1サイクル約7カ月間でモザンビーク中小企業支援庁（IPEME）のカウンターパート（C/P）が日本人専門家の助言を得ながら、各社の経営状況診断・経営改善のための助言・テーマ別の研修（食品加工・5S等）等を行っている。 本インターンシップでは、JICA事務所属員、現地職員と協働によるモザンビークの小規模ビジネス、地場産業振興にかかる現状分析に基づき、今後の効果的な支援アプローチについての提案が期待される。			
■具体的なインターンシップ活動内容 トピック：「モザンビーク（主にマプト州）の小規模ビジネス、地場産業振興にかかる状況分析と今後の支援の在り方」 1. 担当職員から助言・協力を得ながらモザンビークの小規模ビジネス、地場産業振興における課題や、関連機関からの支援内容について情報収集する。 2. 現在実施中のJICAプロジェクトの活動を視察等を通じて、JICAによる支援の進捗・成果を取りまとめる。 3. 上記1～2の情報をもとに、今後の小規模ビジネス、地場産業振興にかかる効果的な支援アプローチを検討する。 4. 上記1～3で取りまとめた内容についてJICA内で報告会を行う。 ※活動にかかる調査等のため地方出張（マプト首都圏内・マニカ州）の可能性あり。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/oda/project/202005645/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・現在実施中のJICAプロジェクト活動やビジネス分野展示会の視察など（時期による）			
■受入時期・期間 2026年8月～12月/2027年1月～3月中旬までの1カ月～2カ月間のいずれか 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学院生・社会人ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語での会話・読み書きができる事		
望ましい	企業支援に関する学術的な専攻、もしくはコミュニティ開発分野や企業での実務経験		
望ましい	ポルトガル語での会話・読み書きができる事		
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
5,000円/日		12,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 黄熱病（黄熱に感染する危険のある国から来る1歳以上の渡航者もしくは乗り継ぎで黄熱に感染する危険のある国の空港に12時間以上滞在が必要な場合のみ要求される）			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 ・治安：滞在先のマプト市内でも各所でスリや強盗等の被害に遭う恐れがある（そのため夜間22時以降は徒歩移動禁止）。（参考）外務省海外安全HP： https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsphothazardinfo_123.html#ad-image-0 ・健康管理：マラリア汚染国であり首都（マプト）以北の地方滞在時はマラリア予防薬の内服を推奨。 ・渡航にかかる標準経路：①日本→アディスアベバ（エチオピア）→マプトまたは②日本→ドーハ（カタール）→マプトが主流。①の場合は、エチオピアを経由するため、黄熱病ワクチン接種証明書（イエローカード）の携帯が必須。			
■備考・留意点 政治的には比較的安定していたが、物価上昇や格差拡大による民衆の不満の高まりにより、2024年10月の大統領選挙を契機に全国的なデモやゼネストなどが発生した。その後政治状況は安定しており、本インターンシップの活動対象地域では特に治安状況の問題は生じていない。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在24
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	モザンビーク事務所		
■テーマ			
開発途上国で教育支援を考える！ モザンビークに対する日本型教育支援アプローチの有効性の分析			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
モザンビークでは、粗就学率が47%（1999年）から115.4%（2017年）に到達するなど着実に教育の量的拡大を遂げている一方で、全国学力調査（2016年）で規定の学力水準を満たす小学3年生が「読み書き」分野で4.9%、「計算」分野で7.7%であるなど、子どもの学びの改善が喫緊の課題となっている。 上記状況を踏まえ、JICAは技術協力プロジェクト「初等教員養成校（IFP）における新カリキュラム普及プロジェクト」（2016-2020年）等を実施した。また、小学校1～6年生向けの国定カリキュラム・教科書等の整備を図るため、技術協力プロジェクト「新しい学校教育制度に対応したカリキュラム普及プロジェクト」を実施している。これらを通じ、モザンビークにおける理数科教育の質向上を支援するとともに、協際に際しては同国に有効と考えられる日本型の教育アプローチも導入している。 本インターンシップでは、JICA事務所属員、現地職員と協働によるモザンビークの理数科教育の現状に加え日本型教育支援にかかる有効性を分析するとともに、左記を踏まえた今後の効果的な支援アプローチについての提案が期待される。			
2016			
トピック：「モザンビークの理数科教育、日本型教育支援にかかる状況分析と今後の支援の在り方」 1. 担当職員から助言・協力を得ながらモザンビークの理数科教育、日本型教育支援における課題や、関連機関からの支援内容について情報収集する。 2. 現在実施中のJICAプロジェクトの活動を視察等を通じて、JICAによる支援の進捗・成果を取りまとめる。 3. 上記1～2の情報をもとに、今後の理数科教育、日本型教育支援にかかる効果的な支援アプローチを検討する。 4. 上記1～3で取りまとめた内容についてJICA内外で報告会を行う。			
※活動にかかる調査等のため地方出張（マプト首都圏内・ナンブラ州）の可能性あり。			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/oda/project/1941835/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
・現在実施中のJICAプロジェクト活動やビジネス分野展示会の視察など（時期による）			
■受入時期・期間			
2026年8月～11月下旬までの1カ月間			
上記期間内での調整可	理由：12月～翌年2月まで学校が夏季休暇に入るため、上記期間内での調整可		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生・社会人ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語での会話・読み書きができる事		
望ましい	教育に関する学術的な専攻、もしくは教員の実務経験		
望ましい	ポルトガル語での会話・読み書きができる事		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須）	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
5,000円/日		12,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
黄熱病（黄熱に感染する危険のある国から来る1歳以上の渡航者もしくは乗り継ぎで黄熱に感染する危険のある国の空港に12時間以上滞在が必要な場合のみ要求される）			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
・治安：滞り先のマプト市内でも各所でスリや強盗等の被害に遭う恐れがある（そのため夜間22時以降は徒歩移動禁止）。 （参考）外務省海外安全HP： https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsphazardinfo_123.html#ad-image-0 ・健康管理：マラリア汚染国であり首都（マプト）以北の地方滞り時はマラリア予防薬の内服を推奨。 ・渡航にかかる標準経路：①日本→アディスアベバ（エチオピア）→マプトまたは②日本→ドーハ（カタール）→マプトが主流。①の場合は、エチオピアを経由するため、黄熱病ワクチン接種証明書（イエローカード）の携帯が必須。			
■備考・留意点			
政治的には比較的安定していたが、物価上昇や格差拡大による民衆の不満の高まりにより、2024年10月の大統領選挙を契機に全国的なデモやゼネストなどが発生した。その後政治状況は安定しており、本インターンシップの活動対象地域では特に治安状況の問題は生じていない。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在25
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ルワンダ事務所		
■テーマ			
ルワンダから発信！温故知新から描く未来のJICAの研修事業とは？			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>JICARルワンダは、水・衛生、農業、インフラ、教育・ICTなど、幅広い分野で協力を進めています。その中でも、ルワンダの国づくりを支える重要な取り組みが「研修事業」です。これまでに短期・長期を含め、1,000名以上の研修員を日本へ派遣し、日本の技術や経験を学んだ研修員は、帰国後にその知識を活かして各分野で活躍しています。</p> <p>また、JICARルワンダでは、過去の研修プログラム参加者で構成される「帰国研修員同窓会」などを通じて、彼らの活動を支援し、ルワンダ国内の経済開発を担う人材育成に取り組んでいます。近年は、研修事業の成果をさらに高めるため、帰国研修員やJICA海外協力隊との連携による新しいプロジェクトなど、従来の枠にとられないイノベーターな活動も模索しています。</p> <p>今回、JICAの研修事業に参加した研修員へのインタビューや実施中案件の訪問などを通じ、1）JICAにおける人材育成や研修事業の仕組みの理解、2）開発協力の現場踏査などの経験を通じ、ルワンダにおいて研修事業をより魅力的なものにするための新たな付加価値を生み出すことが期待されます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>主な活動内容案（応募者の経験やスキルに応じ相談可）</p> <p>1. 過去の研修事業の成果を「見える化」する</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの研修事業や帰国研修員の活動実績を調査・整理 実施中のプロジェクト現場を訪問し、派遣中の専門家や帰国研修員へのインタビューを通じて、研修後の活動状況を把握 帰国研修員同窓会メンバーへのインタビューやドキュメンタリー制作支援など、広報ツールの作成をサポート（映像制作は現地業者に委託予定） <p>2. ルワンダにおける新しい研修事業やフォローアップの提案（以下の2点は参考。1.の結果により活動内容の提案、変更可）</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果をもとに、帰国研修員や他のスキームと連携させた新たな活動アイデアの提案 提案した活動の実施をサポートし、より効果的な研修事業の仕組みづくりに貢献 			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/overseas/rwanda/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
帰国研修員同窓会活動、ABEイニシアティブプログラムのワークショップ等 派遣期間に実施される各プロジェクト（水・衛生、農業、インフラ、教育・ICT等）サイトへの出張の同行、イベントへの出席等			
■受入時期・期間			
2026年8月～12月までのうち2～3カ月間			
上記期間内での調整可		理由：	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語でのコミュニケーション		
望ましい	海外人材の研修事業に関する知識・業務（インターン含む）経験		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2-3,000円/日		USD50-90/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
必須予防接種はなし。黄熱病は不要だが、黄熱病汚染国を経由（空港内トランジット）して入国する場合は、イエローカード必須のため留意。			
■滞在場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_131.html			
■備考・留意点			
渡航に係る標準経路：エチオピアもしくはカタール経由			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在26
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人） 1
■部署名/事務所名	セネガル事務所		
■テーマ 日本の対セネガル保健協力の運営委員会（COPIL）開催支援、広報支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 JICAはセネガルにおいてユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）達成に向けて、医療の質、医療保障の改善、ガバナンスの強化のための様々なスキームを活用した案件を実施しています。 対セネガル保健協力の運営委員会（Comité de pilotage, 以下COPILという）は、年2回（1月と7月）、これらの案件に関するセネガル政府の関係省庁、日本人専門家、他の開発パートナー等に広く参加いただき、JICAの保健協力の成果や課題等を保健公衆衛生省（MSHP）と確認し戦略的方向性を決定する重要な会議です。本インターンシップでは、会議開催の準備から当日運営、事後フォローまで総合的に携わっていただきます。また、広報支援により保健協力案件についてセネガルや日本の一般の方への理解を深めていただくための発信も行っております。 これらの活動を通して、JICAの対セネガル保健協力の全体像や、セネガル政府の保健分野の戦略・政策への理解を深めていただくとともに、多くの関係者とのネットワークを形成いただくことができます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. COPIL運営にかかる各種活動 （1）準備 ・準備会議開催支援 ・会議プログラムや議題の整理 ・参加者リストの更新 ・各案件への当日運営支援依頼 ・各関係部局が作成する会議資料のとりまとめ回収 ・会場設営の準備 （2）当日運営 ・会議進行サポート（受付、資料配布、タイムキーピング） ・写真撮影 ・議事録の下書き ・参加者へのアンケート実施 （3）事後フォロー ・会議結果（決定事項、報告等）の整理 ・議事録最終化の補助 ・次回開催に向けた改善点の提案 2. 広報支援 ・JICA協力事業に関する広報資料の作成（記事、SNS投稿案） ・写真・動画の整理と簡単な編集			
■参考情報 （セネガル事務所） https://www.jica.go.jp/overseas/senegal/index.html （セネガル事務所Facebook） https://www.facebook.com/JICASenegalPR （JICA保健分野支援） https://www.jica.go.jp/activities/issues/health/index.html （セネガル保健省） https://sante.gouv.sn/Actualites/r%C3%A9union-semestrielle-de-suivi-du-comit%C3%A9-de-pilotage-copil			
■参加（同行）可能な行事・視察等 COPIL、JICA保健省アドバイザー及び保健省計画・研究・統計局とのCOPIL準備会議、開発パートナー間の会合等。			
■受入時期・期間 2027年1月上旬～2月下旬までの2カ月弱程度 調整不可 理由：COPIL開催時期にあわせるため			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学院生			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint等）の基本操作		
必須	英語（JICA語学ガイドラインレベルB以上）		
望ましい	フランス語		
■提供可能な執務環境等	公衆衛生など保健分野の専攻		
■提供可能な執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須）	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		4,000円/日	10,000円/泊
■渡航にあたり必須となる予防接種 <必須> 黄熱病 ※入国時に接種証明書（イエローカード）の提示を求められることがあります。 <推奨> A型肝炎、腸チフス、狂犬病、破傷風、髄膜炎菌性髄膜炎、B型肝炎 https://www.forth.go.jp/destinations/country/w_africa.html			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞り場所：ダカール内指定地区 治安情報：外務省の海外安全情報ではレベル1（ https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo_2025T015.html#ad-image-0 ） 標準経路：日本⇒ドバイ⇒ダカール、日本⇒パリ⇒ダカール、日本⇒イスタンブール⇒ダカール			
■備考・留意点 当地医療事情については、以下のリンクも参照してください。 https://www.sn.emb-japan.go.jp/files/100948668.pdf			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在27
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人） 1
■部署名/事務所名	セネガル事務所		
■テーマ 西アフリカで挑戦！国際協力×事務所運営・広報インターン募集（セネガル・ユースオリンピック関連業務含む）			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 セネガルを拠点に、西アフリカ6カ国（ギニア、モーリタニア、ガンビア、カーボベルデ、ギニアビサウ）を兼轄するセネガル事務所で、総務・経理・広報の実務を体験してみませんか。セネガル事務所の総務班では、有償・無償資金協力、技術協力、ボランティア事業が円滑に進むよう、またスタッフが働きやすい環境を整えるために、ルールの策定とフォロー、調達関連業務、予算管理、所内イベントの企画、庶務業務を行っています。 さらに、2026年10月から11月にセネガルで開催されるユースオリンピックに向け、スポーツ分野のJICAイベント広報に携わる可能性もあります。国際協力とスポーツが交わる現場で、情報発信力を磨きながら、フランス語圏の文化を体験できる貴重なインターンシップです！※ユースオリンピックは、国際オリンピック委員会（IOC）が主催する、14歳から18歳までの若いアスリートを対象とした国際的な総合スポーツ大会です。2026年のユースオリンピックはセネガル（ダカール）でアフリカで初めての開催となります。			
■具体的なインターンシップ活動内容 インターンシップの成果として、業務改善に関する提案書の作成と実証が望まれます。例えば、簡単なアプリ開発や初期的な実装、事務効率化のためのツール提案など、事務所の運営課題を解決するアイデアを形にすることを目指します。さらに、広報分野での実践的な経験を積み機会もあります。特に、2026年にセネガルで開催されるユースオリンピックに向け、主にボランティア事業を通じたJICAイベントの開催・広報に関わる可能性があり、国際協力とスポーツを結ぶ現場を体験できます。こうした取り組みを通じて、国際協力の現場で求められる基礎的かつ実践的なスキルを身につけながら、組織運営と広報の知見を深めることができます。 主な活動内容： ・業務効率化に向けた総務・経理業務の改善サポートおよび改善案の計画と実施 ・事務所規定の整理・更新 ・所内イベントの企画・運営補助 ・広報活動およびイベント補助（特にセネガル・ユースオリンピック関連）			
■参考情報 (セネガル事務所) https://www.jica.go.jp/overseas/senegal/index.html (セネガル事務所Facebook) https://www.facebook.com/JICASenegalPR (JICAスポーツ分野支援) https://www.jica.go.jp/activities/issues/sports/index.html (JICAボランティア事業) https://www.jica.go.jp/volunteer/ (ユースオリンピック) https://www.olympics.com/en/olympic-games/dakar-2026			
■参加（同行）可能な行事・視察等 JICAプロジェクト視察、JICA海外協力隊活動視察、JICA第三国研修視察、当地開催予定のユースオリンピック関連スポーツイベント（いずれもタイミングに応じて）			
■受入時期・期間 2026年8月～12月までの3ヶ月間程度/2027年1月～3月中旬までの2ヶ月半程度いずれか 上記期間外含めて調整可 理由：上記期間外含めて調整可。期間についても応相談。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint等）の基本操作		
必須	英語（JICA語学ガイドラインレベルB以上）		
望ましい	フランス語		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
4,000円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 <必須> 黄熱病 ※入国時に接種証明書（イエローカード）の提示を求められることがあります。 <推奨> A型肝炎、腸チフス、狂犬病、破傷風、髄膜炎菌性髄膜炎、B型肝炎 https://www.forth.go.jp/destinations/country/w_africa.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在所：ダカール内指定地区 治安情報：外務省の海外安全情報ではレベル1（ https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo_2025T015.html#ad-image-0 ） 標準経路：日本⇒ドバイ⇒ダカール、日本⇒パリ⇒ダカール、日本⇒イスタンブール⇒ダカール			
■備考・留意点 当地医療事情については、以下のリンクも参照してください。 https://www.sn.emb-japan.go.jp/files/100948668.pdf			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在28
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ボツワナ支所		
■テーマ 産業人材育成分野における基礎情報収集調査に係る業務補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 ボツワナにおいて2024年に誕生した新政権のもとで、2025年に策定された「第12次国家開発計画」や「ボツワナ経済変容プログラム（BETP）」においては、資源輸出に過度に依存しない形での産業構造の多角化が喫緊の課題とされています。そのような中で、JICAは対ボツワナ協力の柱として「産業多角化促進プログラム」を位置付け、中小企業振興を目的として、ボツワナ政府や中小企業支援機関に対する円借款や技術協力を実施していく予定です。その一方で、産業人材育成に関しては、2001年以降、職業能力開発行政、産業技術教育、職業訓練教育等の研修コースに約20名の研修員を日本に送るにとどまっていることから、JICAボツワナ支所では、産業人材育成分野で新規案件形成することを検討しています。 本インターンシップでは、帰国研修員へのフォローアップや政府や他ドナーへの聞き取り、技術短期大学等の現場視察を通して案件形成のための基礎情報を収集する業務を補佐することを通して、JICA事業に対する理解を深めていただくことを目的としています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. ボツワナにおける産業人材育成関連の政策・計画・関連文献のレビュー 2. 産業人材育成分野の課題別研修（職業能力開発行政、産業技術教育、職業訓練教育）のフォローアップに係る一連の活動（調査票作成、ロジ業務補佐、帰国研修員に対するヒアリング活動等） 3. 政府、関係ドナーへのヒアリング活動 4. 文献調査とヒアリング結果に基づいた分析ペーパーの作成 5. 帰国研修員に関する広報記事作成 6. 支所での分析ペーパーのプレゼンテーション			
■参考情報 対ボツワナ共和国 事業展開計画：https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072458.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等 コンピュータ技術の職種でボランティアが派遣されている技術短期大学の視察や、ボツワナ国家生産性センターに配属されているボランティアによる企業に対する技術指導への同行など。			
■受入時期・期間 2026年8月～10月までの2カ月間 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 必須 英語でのコミュニケーション（TOEIC830点程度を目安）			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,500円/日		6,000～6,500円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 必須となる予防接種はありませんが、エチオピア経由の場合は黄熱病ワクチン接種証明書（イエローカード）の携帯が必須となります。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 ・ボツワナの治安情報：https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsphazardinfo_296.html#ad-image-0 ・渡航に係る標準経路：アディスアベバ、または、ドーハ・ドバイ・香港、ヨハネスブルグ経由			
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム（在外）（海外）

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	26-3在29
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中東・欧州	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	モロッコ事務所		
■テーマ			
「モロッコの政治経済とJICA事業への理解促進」及び「JICA事業広報の拡充」			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
<p>モロッコは周辺地域でも稀に見る安定的な経済成長を続けており、2025年の西サハラにかかる国連決議に象徴される戦略的かつ強固な外交政策、2030年のサッカーワールドカップ共催に向けた大規模かつ活発な投資事業などにより、ダイナミックな動きのただ中にある。一方で医療・教育制度、雇用問題等に対してデモやストライキが頻発し、一部暴動や破壊行為へエスカレートするような場面も近年見られる。</p> <p>JICAは有償および無償資金協力、技術協力、海外協力隊、民間企業との連携など多様なスキームを活用した事業を、幅広いセクターにわたって展開してきた。また近年では新しい分野（環境、DX、防災等）における事業拡充を見据えて積極的に動いている。他方、モロッコ一般市民におけるJICAの知名度は限定的であり、昨今は広報にも力を入れている。</p> <p>本インターンシップ・プログラムを通じて、JICAの協力国の中でも特徴的なモロッコの政治経済社会の状況や開発課題、JICAや他ドナーの動向等の理解促進が図られるとともに、インターン生の目線からの効果的な広報へのアイデアが期待される。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>①インターン生が希望する、もしくはJICAモロッコ事務所が事前に指定するモロッコの政治経済社会の状況や開発課題にかかる特定のテーマにかかるリサーチ</p> <p>②JICAがモロッコで実施している事業を紹介する広報素材（パンフレット、リーフレット等）の改訂、新規作成（事業全般、特定分野、特定事業など複数の媒体を想定）</p> <p>③（滞在期間中に開催の場合）広報イベントの企画、準備、実施にかかる支援</p> <p>④JICAモロッコ事務所内での各種業務補助および、モロッコ政府や他ドナーとの協議現場への同行等</p> <p>⑤JICA事業現場訪問（海外協力隊員との交流や活動視察等）</p>			
■参考情報			
Facebook公式アカウント： https://www.facebook.com/JICAMorocco/			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
海外協力隊の活動現場の視察、事務所員の出張（案件形成等）への同行、技術協力プロジェクトの現場視察、広報イベントへの参加等（いずれも滞在期間中にタイミングが合う場合）			
■受入時期・期間			
2026年8月～12月の間の1～2カ月間/2027年1月～3月中旬の間の1～2カ月間のいずれか			
上記期間内での調整可		理由：	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語もしくはフランス語で最低限の日常的なコミュニケーションが取れること		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出		<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須）	
		<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		7,000-10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
離発着はラバト＝サレ空港もしくはムハンマド五世国際空港、いずれも可。渡航経路は中東経由（ドバイ／ドーハ／イスタンブール／アブダビ等）、欧州経由（パリ等）どちらも可。			
■備考・留意点			
8月から9月上中旬まで全国的に夏の休暇期間にあたるため、JICAの各種活動は、モロッコ政府や他ドナー等関係者とのやりとりも含めて低調かつ限定的となる点、予めご了承願います。			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入（国内または海外）

《文系・理系問わない》

※国内もしくは海外については「国名/プロジェクト名」をご確認ください。

受入先企業		登録番号	26-4開コ01
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ ドロップダウンリストより選択⇒(株)アルメック		あ行	募集人数（人） 2
■国名/プロジェクト名 ＜国内＞タンザニア国交通安全強化プロジェクト ソロモン国ホニアラ都市交通管理能力向上アドバイザー業務補佐		■スキーム名 技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要 現在、アルメックでは「タンザニア国交通安全強化プロジェクト」や「ソロモン国ホニアラ都市交通管理能力向上アドバイザー業務」などの複数のJICA業務を実施していますが、現地での受け入れは難しい状況です。またインターンシップ受け入れ予定時期である2026年8月から2027年3月までで具体的な現地受入れ可能な案件はありません。しかし、これら案件の国内業務や、新規JICA案件を実施している予定なので、これら複数のJICA案件の国内サポートをお願いしたいと思っています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 情報収集や情報整理、リモートによる国際会議への参加など			
■プロジェクトの参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等 未定			
■受入時期・期間			
2026年8月～2027年3月までの1ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	特になし		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出可 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ） 国内のため記載なし			
■滞在场所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ） 国内のため記載なし			
■備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入（国内または海外）

《文系・理系問わない》

※国内もしくは海外については「国名/プロジェクト名」をご確認ください。

受入先企業		登録番号	26-4開コ02
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ ドロップダウンリストより選択⇒(株)アルメック		あ行	募集人数（人） 2
国名/プロジェクト名		スキーム名	
＜フィリピン/東南アジア＞フィリピン国マニラ首都圏及び周辺地域における路面公共交通能力向上プロジェクト		技術協力プロジェクト	
プロジェクト概要			
本案件は、フィリピン共和国マニラ首都圏及び周辺地域を対象に、路面公共交通の計画・管理能力を強化し、公共交通サービスの質の向上とモーダルシフトの促進を目的とする技術協力プロジェクトである。マニラ首都圏では深刻な交通渋滞が常態化する一方、都市鉄道とバスやジープニー等の路面公共交通との連携不足、交通結節点の未整備、サービス水準の低さが課題となっている。本事業では、フィリピン運輸省（DOTr）を主たるカウンターパートとして、①交通モード間連携を考慮した路面公共交通路線計画の策定・更新能力の向上、②鉄道と接続する交通結節施設の整備方針・ガイドラインの策定およびパイロットプロジェクトの実施、③バスサービスの利便性向上と利用促進施策の強化を行う。既存データを活用した計画策定や関係機関の調整、ジェンダーや交通弱者への配慮を重視し、持続可能で利便性の高い公共交通網の構築に寄与するものである。			
具体的なインターンシップ活動内容			
プロジェクトの補佐として活動。具体的には必要な情報収集・整理、会議資料の作成・会議への同行・議事録作成、報告書作成支援など。また、プロジェクト補佐以外に、インターン生の興味に沿った研究テーマを設定してもらい、インターン期間中にその研究を行う。			
プロジェクトの参考情報			
参加（同行）可能な行事・視察等			
関係機関・JICAとの協議、現地視察			
受入時期・期間			
2026年8月～2027年3月までの1ヶ月程度（年末年始を跨ぐ受入は不可）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：	不可	
希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	日常会話程度の英会話ができること		
必須	オフィスソフトウェアの基礎的な作業能力		
提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出可 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： _____			
滞在費目安		宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
2,000 円/日		9,000 -12,000 円/泊	
渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
特になし			
滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
滞在所の情報および治安状況：JICA比事務所から車で5-10分程度の場所に弊社事務所があります。比較的開発が進んでおり、高層ビルやショッピングモールが多い場所です。治安については、2025年前半は日本人を狙った犯罪が多かったですが、8月頃以降は主だった犯罪は起きておりません。 標準経路：羽田・成田・大阪から直行便あり。			
備考・留意点			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入（国内または海外）

《理系の方におすすめ》

※国内もしくは海外については「国名/プロジェクト名」をご確認ください。

受入先企業		登録番号	26-4開コ03
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ ドロップダウンリストより選択⇒(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル		あ行	募集人数（人） 1
■国名/プロジェクト名 ＜チュニジア/中東・欧州＞チュニジア国チュニス大都市圏都市交通計画策定プロジェクト		■スキーム名 開発計画調査型技術支援	
■プロジェクト概要 チュニス大都市圏は、北アフリカ・中東・欧州の結節点に位置し、同国の経済・社会・行政の中心として機能している。しかし、継続的な人口増加に伴う市街地のスプロール化により、交通渋滞や環境悪化が深刻化している。1998年に策定された都市交通マスタープランは財政的理由から更新されておらず、現状との乖離が顕著である。また、都市交通セクターには複数の行政機関が関与しており、機関間連携の強化も重要な課題となっている。 本プロジェクトは、チュニジア政府からの要請に基づき、チュニス大都市圏（人口約290万人、総人口の25%）を対象とした今後15年間の都市交通マスタープラン（都市モビリティ計画：PDU）の策定を支援するものである。カウンターパート機関は都市計画庁（AUGT）である。			
■具体的なインターンシップ活動内容 チュニス大都市圏都市交通マスタープランの策定を支援する日本人専門家チームに参加し、開発コンサルタントの実務を間近で体験する。具体的には、交通計画・都市計画に関するチーム内議論への参加、カウンターパート機関である都市計画庁（AUGT）との協議への同席、現地交通調査への同行、交通実態調査データやCDRデータの分析などの機会がある。活動内容は本人の関心・適性に応じて柔軟に調整する。			
■プロジェクトの参考情報 チュニス大都市圏都市計画庁（AUGT）のFacebookページ https://www.facebook.com/augt.gov			
■参加（同行）可能な行事・視察等 10月、11月：JCC（合同調整委員会）			
■受入時期・期間 ＜現地＞2026年9月後半～11月末頃の1ヶ月程度 フルタイム以外の活動体系の可否 上記期間外含めて調整可 不可			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 土木計画学あるいは交通計画、交通工学、都市計画、情報工学、空間解析、データサイエンス等の分野に知見のある学生			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式 <input type="checkbox"/> 一部リモート可 <input type="checkbox"/> フルリモート可 <input type="checkbox"/> PC貸出可 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000 円/日		11,000 円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ） なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ） https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspotazardinfo_113.html#ad-image-0			
■備考・留意点 ・在外での活動の前後に、国内での活動を組み合わせることも可能です。（要調整） ・国内の活動場所は、「オリエンタルコンサルタンツグローバル本社：新宿区西新宿3丁目20番2号 東京オペラシティタワー9F（京王新線初台駅）」となります。 ・国内で活動する場合は、フルタイム以外の活動体系も可能です。（例：週3回1ヶ月間など）			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入（国内または海外）

《理系の方におすすめ》

※国内もしくは海外については「国名/プロジェクト名」をご確認ください。

受入先企業		登録番号	26-4開コ04
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ ドロップダウンリストより選択⇒(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル		あ行	募集人数（人）
■国名/プロジェクト名		1	
＜カンボジア/東南アジア＞カンボジア国プノンペン都総合都市交通管理能力強化プロジェクト		■スキーム名	
■プロジェクト概要		技術協力プロジェクト	
カンボジアの首都プノンペン都は、人口約230万人を有しており、今後も増加が見込まれているほか、新規登録車両台数が直近10年で2倍に伸び、交通渋滞が深刻化している。2000年代初頭と2014年にマスタープランが策定されたが、公共交通セクターにおける優先事業の多くが実現に至っていない。現在、プノンペン都における都市交通の総合的な計画・管理能力が強化されることを目標に、①関係機関を横断した承認プロセスを踏まえたマスタープランの更新、②都市交通関係機関の横断的な連携を含むパイロットプロジェクトの実施、③公共交通の管理・運営に係る組織体制の強化を3つの成果として案件を実施中である。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
合同調整委員会（JCC）やセミナーの開催準備、パイロットプロジェクト結果の取りまとめなどを想定していますが、実施時期やプロジェクトの状況により内容が変更になることがあります。			
■プロジェクトの参考情報			
カンボジア国プノンペン都総合交通計画プロジェクト（2014年） https://libopac.jica.go.jp/images/report/12245825.pdf			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
JICAや現地機関との打合せ等			
■受入時期・期間			
2026年8月～9月まで間の2-3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外も含めて調整可	理由：	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語力（現地スタッフと打合せが可能なレベル）		
望ましい	交通計画に関する知識		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> P0貸出可
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： ※国内の活動の場合、一部リモート可			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000円/日		6,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
なし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
レベル10十分注意：現状プノンペンに影響はないものの、12月7日に再発したカンボジア・タイ間の軍事衝突は、国境全域に広がって現在も激しく続いており、国境から80～90kmカンボジア領内の入り込んだ民間居住地が爆撃される例も発生している。 標準経路は香港、バンコクなど経由便。			
■備考・留意点			
・在外での活動の前後に、国内での活動を組み合わせることも可能です。（要調整） ・国内の活動場所は、「オリエンタルコンサルタンツグローバル本社：新宿区西新宿3丁目20番2号 東京オペラシティタワー9F（京王新線初台駅）」となります。 ・国内で活動する場合は、フルタイム以外の活動体系も可能です。（例：週3回1ヶ月間など）			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入（国内または海外）

《理系の方におすすめ》

※国内もしくは海外については「国名/プロジェクト名」をご確認ください。

受入先企業		登録番号	26-4開コ05
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ ドロップダウンリストより選択⇒(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル		あ行	募集人数（人） 1
■国名/プロジェクト名		■スキーム名	
〈フィリピン/東南アジア〉マニラ首都圏ITS改善による交通管理能力強化プロジェクト		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
<p>本プロジェクトは、マニラ首都圏開発庁（MMDA）をカウンターパートとした、「ITS技術を用いた交通管理能力向上」を目指す技術協力プロジェクトである。活動は主に以下3点で構成され、これらの活動の中でカウンターパートの能力向上を図る。</p> <p>①既往ITS導入計画、現地のニーズ、最新の技術動向を踏まえて、ITS導入計画および短期的な実施計画を策定する。 ②パイロットプロジェクト実施のための機器の仕様検討・入札図書作成・機器調達および評価。 ③交通データプラットフォームの仕様検討・開発・運用体制の構築。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・受入先での就業体験(例:会議参加、フォローアップ補助) ・プロジェクトに関連するテーマに関する情報収集・分析・発表など 			
■プロジェクトの参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
未定			
■受入時期・期間			
2026年9月3週間/2026年11月3週間/2027年1月～3月の間で3週間のいずれか		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：受入れ企業社員の現地入り期間が未定のため	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	TOEIC700点程度以上の英語力		
必須	Word, Excel, Powerpoint等の基本作業		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出可 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： ※国内の活動の場合、一部リモート可			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000円/日		7,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
A型肝炎・B型肝炎・破傷風・日本脳炎・狂犬病等の予防接種を推奨。ポリオや麻疹風疹の追加接種も検討してください。 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/asia/phili.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
外務省の危険レベルは「レベル1：十分注意」。昨年10月以降、マニラ首都圏内（マカティ市やタギッグ市といった日本人が多く住むエリア等）において、拳銃または拳銃のようなものを使用した強盗事件の発生が相次いでおり、十分注意が必要。 標準経路は東京－マニラの直行便。			
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・在外での活動の前後に、国内での活動を組み合わせることも可能です。（要調整） ・国内の活動場所は、「オリエンタルコンサルタンツグローバル本社：新宿区西新宿3丁目20番2号 東京オペラシティタワー9F（京王新線初台駅）」となります。 ・国内で活動する場合は、フルタイム以外の活動体系も可能です。（例：週3回1ヶ月間など） 			

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入（国内または海外）

《理系の方におすすめ》

※国内もしくは海外については「国名/プロジェクト名」をご確認ください。

受入先企業		登録番号	26-4開コ06	
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ さ行		募集人数（人）	1	
ドロップダウンリストより選択⇒ (株)三祐コンサルタンツ				
■国名/プロジェクト名		■スキーム名		
＜マラウイ/アフリカ＞コメ生産及びマーケティングの促進プロジェクト		技術協力プロジェクト		
■プロジェクト概要				
本プロジェクトは、マラウイ国中部デッサ県に位置するブワンジェバレー灌漑地区等の対象地域において、イネの栽培技術向上を含むコメ生産から販売までのバリューチェーン（VC）各段階におけるカウンターパート（CP）、農家や民間等の能力強化を図ることにより、対象農家のコメ生産量と売上高が増加し、さらに種子やコメ品質が向上することで、同国の食料安全保障と輸出振興に資するコメ増産に寄与することを目的とする。この目的を達成するために、以下の4つの成果に係る活動を実施する。 成果1：対象農家及びバリューチェーン関係者が適切なコメ生産・収穫後処理技術を採用している。 成果2：認証種子が対象農家によって利用される。 成果3：持続的なコメの生産流通経路が確立、もしくは強化される。 成果4：対象となる灌漑水利組合が灌漑インフラの適切な運営・維持管理及び水管理を行う能力を得る。 本プロジェクトは、2024年10月より開始し、最初の1年は実施計画策定を行い、2025年10月より現場活動を開始している。				
■具体的なインターンシップ活動内容				
本プロジェクトでは、対象地区である、ブワンジェバレー灌漑地区（800ha）とブア灌漑地区（300ha）で稲作の栽培技術・収穫後処理改善によるコメの生産性の向上と品質の向上を目指しています。このため、両対象灌漑地区において、まず普及員や篤農家に改善技術の研修を行い（TOT）、その後普及員と篤農家が連携して、他の農家に技術普及を進めるという活動を行っています。この活動では、展示圃場を設置して、そこで複数の品種のコメの改善技術を実践し、そのようにして育った稲を展示して、農家への技術普及を図ろうとしています。インターンの方には、灌漑水田での栽培技術研修（レクチャーおよび実地研修）の実施を補佐していただきます。農家と対話を行い、また展示圃場で一緒に農作業を農家と行うことで、農家が意欲的に、また効果的に学べる環境作りをお手伝いいたします。活動では、研修の準備（教材の準備、講義会場の設置）、講義中の補佐、展示圃場での実地研修において、農家と協働しながら栽培技術を説明、研修後の農家の技術活用状況について圃場を回りながら確認、といった活動になります。				
■プロジェクトの参考情報				
https://www.jica.go.jp/oda/project/202207540/index.html				
■参加(同行)可能な行事・視察等				
地方普及所での講義研修、水田での稲の栽培実地研修				
■受入時期・期間（調整可か不可かをプルダウンで選択してください。）				
2027年1月～2月までの1カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否		
上記期間外含めて調整可	理由：現地ではちょうど田植えの時期ですので、栽培時期の重要なポイントで現地参加できません。調整は可能ですが、栽培時期から外れると現場活動がなくなります。他の時期ですと、乾季作が栽培されている8月以降も検討は可能です。	不可		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）				
大学生・大学院生ともに可				
■応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）				
必須	農学（作物学またはそれに類似する科目）を専攻している方。			
■提供可能な執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。）				
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出可	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：		現場までの移動等は、当プロジェクトの車両に同乗いただけます。		
■滞在費目安		■宿泊費		
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。				
2,500円/日		首都10,500、地方4,500、平均7,500円/泊		
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）				
黄熱病				
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）				
リロングウェ、サリマ、コタコタ 治安は悪くありません。夜の徒歩での外出は禁止。 渡航経路：成田ーアジスアベバーリロングウェ（エチオピア航空）				
■備考・留意点				
2027年1月～2月は、マラウイでは夏になり、日本とは真逆のかなり暑い時期です。対象灌漑地区は、マラウイ湖岸ですので、マラリアにも注意が必要です。				

2026年度 JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入（国内または海外）

《理系の方におすすめ》

※国内もしくは海外については「国名/プロジェクト名」をご確認ください。

受入先企業		登録番号	26-4開コ07
企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	さ行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒	㈱三祐コンサルティング		
国名/プロジェクト名		スキーム名	
＜カンボジア/東南アジア＞カンボジア国 灌漑・排水施設改良事業準備調査【有償勘定技術支援】		協力準備調査	
プロジェクト概要			
カンボジアでは農業がGDPの22.8%、労働人口の35%を占め、地方の重要産業となっているが、所得格差や気候変動による洪水・干ばつが課題である。2024年に実施した情報収集確認調査で優先地区として2地区（タケオ州、シェムリアップ州）を選定した。事業では、灌漑・排水施設の整備を行うことにより、洪水・干ばつ被害を軽減し、食糧供給の安定及び農家の生計向上を図り、もって等国における気候変動対策及び食料安全保障に寄与することが期待されている。本業務はこの2地区について、将来の円借款事業の形成を念頭に必要な調査を実施するものである。			
具体的なインターンシップ活動内容			
従事する案件は有償資金協力を前提とした灌漑排水事業のための調査業務であり、灌漑排水施設の計画や概略設計、工事費の積算などを行うので、現場調査や各種検におけるサポート業務補佐に従事してまいります。			
プロジェクトの参考情報			
案概要： https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/100766526.pdf カンボジア国 灌漑・洪水防御に係る情報収集・確認調査（有償勘定技術支援）レポート https://libopac.jica.go.jp/search/detail?rowIndex=40&method=detail&bibId=1000054785			
参加（同行）可能な行事・視察等			
コンサルタントが行う現地調査への同行、JICAやカウンターパート機関との協議への同席（機会があれば）			
受入時期・期間			
2026年10月～11月までの1カ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：調査業務のため上記の期間内であれば調整可	不可	
希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	農業開発、灌漑排水事業に興味のある方		
必須	大学での農業土木、一般土木の履修経験ある方		
望ましい	農業土木、一般土木の実務経験ある方		
提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出可
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： _____			
滞在費目安		宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000円/日		9,000円/泊	
渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
特に必要ありません			
滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
滞在所は首都プノンペンが主体で、治安上のリスクは高くありません。 渡航経路は、成田→トランジット地（タイ他）→プノンペンです。			
備考・留意点			